



ANNUAL REPORT

2021年度 (令和3年度)

vol.8



SAISEIKAI

OTARU
HOSPITAL



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部

北海道済生会小樽病院

令和3年度年報 目次

巻頭言	1	・透析看護課	72
理念・基本方針・沿革・施設概要・組織図	2	・手術・中材看護課	74
I 年間主要行事		・地域看護課	75
令和3年度 年間行事	6	・教育看護課	77
年度表彰	7	事務部	79
・永年勤続	7	・総括	79
購入機器紹介	10	・総務課	80
II 診療実績		・経理課 経理グループ	83
外来患者数	12	・経理課 用度購買グループ	84
紹介率・逆紹介率	15	・医事課	86
診療科別救急患者数（救急患者・時間外受診患者など）	15	・医療クラーク課	88
入院	16	・健康診断課	90
手術	19	・地域連携課	91
学生受け入れ	20	・情報システム課	93
・診療部	20	各委員会・診療チーム	95
・医療技術部	23	・NST委員会	95
・看護部	25	・院内感染予防対策委員会	96
III 部門報告		・医療安全管理委員会、医療安全管理室	100
診療部	26	・クリニカルパス委員会	103
・総括	26	・内分泌・糖尿病診療センター	105
・内科・消化器内科	27	・緩和ケアチーム	106
・循環器内科	28	・認知症ケア推進室	108
・脳神経内科	29	・北海道済生会 支部事業	109
・外科・消化器外科	31	IV 教育・研究報告	
・整形外科	32	臨床研修医 地域研修	111
・泌尿器科	33	論文発表	114
・緩和ケア内科・腫瘍精神科・精神科	34	著書	114
医療技術部	35	学会・研究発表	115
・総括	35	講義	116
・薬剤室	36	講演	117
・臨床検査室	39	座長	117
・放射線室	41	認定資格	118
・リハビリテーション室	43	V 職員福利厚生会	
・栄養管理室	47	総括	122
・臨床工学室	50	部活動	123
看護部	53	・野球部	123
・総括	53	・フットサル部	124
・3A病棟	55	・釣り部	125
・3B病棟	57	・自転車・陸上競技部	126
・4A病棟	59	・写真部	127
・4B病棟	63	院内保育所「なでしこキッズクラブ」	128
・5B病棟	66	売店・食堂	131
・外来看護課	69	あとがき	132



令和3年度 済生会小樽病院年報発刊にあたり

病院長 和田 卓郎

2019年（令和元年）中国に端を発し、全世界に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は令和3年度も猛威を振るいました。国内では5月（アルファ株）、8月（デルタ株）、令和4年2月（オミクロン株）、のそれぞれをピークとする3つの流行が発生しました。当院は重点医療機関として、87名の患者さんの入院治療を行いました。発熱外来では692名の診察、検査を行いました。また、行政から委託を受け、総計9,890回のワクチン接種を行いました。

入院患者には全て入院前PCR検査を行いました。入院後にコロナ感染が確認されることもありました。また、職員、家族の感染も相次ぎました。そのたびに、ICTがリーダーシップをとり濃厚接触者を洗い出し、PCR検査を徹底し、感染拡大を防ぎました。その結果、令和3年度中、院内クラスターの発生はなく、コロナ診療と救急を含めた一般診療の両立をはかることができました。2年にも及ぶ緊張の中、コロナに対応してきたICT、内科系医師、看護師、検査部をはじめとしたすべての職員の活躍には感謝の言葉しかありません。

令和3年度、ウイズコロナ、ポストコロナの当院の方向性を明確にするために、「地域密着型病院である」をビジョンに掲げました。地域密着型病院を、急性期から回復期、在宅、介護、福祉まで切れ目のない医療を提供し、街づくりにも係る病院と定義しました。済生会小樽病院が小樽市手宮で診療を開始したのが1924年です。以来、ほぼ100年にわたり、地域に寄り添う医療、断らない医療を提供してきました。我々が守り続けてきたものを時代に応じて進化させたものが地域密着型病院と考えます。令和3年3月、北海道済生会は隣接する商業施設内に市民のための健康福祉ゾーン「済生会ビレッジ」を開設しました。この取り組みが、ソーシャルインクルージョンの街づくり活動として済生会本部からご評価いただき、「済生会令和賞」を受賞しました。大変な栄誉であり、令和3年度の最も嬉しいできごとでした。（P109参照）

令和4年9月現在、コロナ感染は第7波の最中にありますが、社会は確実にポストコロナに向けて動いています。地域医療構想、医師の働き方改革、外来医療改革などの医療制度改革は確実に進行しています。一方、コロナ禍で減少した外来・入院患者は、コロナ収束後も完全に戻ることはないと予想されています。現在、病院経営は国からの補助金で持ちこたえていますが、それもまもなく終了、あるいは減収補償への変換の予定です。病院経営は厳しい状況になります。問題は山積ですが、コロナ診療で培った職員の高い意識、チームワークで変革、困難を乗り越えていこうと考えています。

令和3年の済生会小樽病院の活動をまとめた本年報をご一読いただき、ご指導、ご鞭撻をいただければ幸いです。

法人の理念

「施薬救療の精神」

(分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉の手を差しのべる)

院 是

恕：(じょ)

(意味：おもいやり)

済生会小樽病院の理念

かかって良かったと思う病院

働いて良かったと思う病院

地域と共に歩む病院

基本運営方針

1. 急性期から回復期へ一貫した医療
2. 断らない医療
3. 地域包括ケアシステム構築
4. 無料低額診療事業の推進
5. 地域に必要な医療人の育成
6. 研究活動を支える環境整備
7. 医療・経営の可視化



すべてのいのちの虹になりたい

済生会は、明治天皇が医療によって生活困窮者を救済しようと明治44（1911）年に設立しました。100年以上にわたる活動をふまえ、今、次の三つの目標を掲げ、日本最大の社会福祉法人として全職員約64,000人が40都道府県で医療・保健・福祉活動を展開しています。

- 生活困窮者を **済**（すく）う
- 医療で地域の **生**（いのち）を守る、
- 医療と福祉、**会** を挙げて切れ目のないサービスを提供

病、老い、障害、境遇……悩むすべてのいのちの虹になりたい。
済生会はそう願って、いのちに寄り添い続けます。

生活困窮者支援の積極的推進

済生会設立の目的は、生活に困っている人を医療で助けることです。

生活保護受給者をはじめ、経済的に困っている人の医療費を無料にしたり減額したりする「無料低額診療事業」を積極的に行っています。令和3年度は延べ199万人が対象となりました。

済生会生活困窮者支援「なでしこプラン」を実施しています。対象者をホームレスやDV被害者、刑務所出所者、外国人等へも広げ、訪問診療、健康診断、予防接種等を無料で行う事業で、3年度は延べ17万人に実施しました。事業名の「なでしこ」は本会の紋章に由来しています。

さらに、済生丸が離島を回って診療を行う瀬戸内海巡回診療など、離島やへき地での医療にも力を注いでいます。

最新の医療で地域に貢献

済生会は、いのちの面から地域を支えます。最新の医療機器、高度な技術、手厚い看護。超急性期から亜急性期、慢性期・リハビリと段階に合わせて対応し、常に患者の立場に立った医療を提供します。

災害時には地域を越えてスタッフを派遣。救命救急から慢性期、そして生活再建に向けた心のサポートまで、緊急時も段階に合わせた支援活動を展開しています。

医療と福祉、切れ目なく

医療と福祉は密接な関係にあります。済生会は医療・保健・福祉を総合して提供できる団体です。全組織が連携し、施設・設備・人というすべての資源を動員して切れ目のない、シームレスなサービスを提供しています。

そして、高齢者や子どもたち、障害者が当たり前になり、共に生きる地域づくりに貢献します。

病院の沿革

大正13年 7月 済生会小樽診療所開設「小樽市手宮1丁目6番地」
 昭和27年12月 社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽北生病院開院 病床数22床5科（内科、小児科、外科、産婦人科、眼科）
 昭和30年 1月 増床（62床 一般32床、結核30床）
 昭和30年 9月 北海道済生会小樽北生病院附属 准看護婦養成所併設
 昭和32年 4月 病院の一部焼失
 昭和32年 7月 病棟、管理棟増改築（33年棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階2139.56㎡ 増床（185床）
 昭和36年 1月 整形外科開設
 昭和40年11月 病棟、管理棟増改築（南棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階3023.65㎡
 昭和41年 4月 皮膚・泌尿器科開設
 昭和48年12月 乳児保育所併設
 昭和51年 7月 増床（277床 一般140床、結核31床、老人106床）耳鼻咽喉科開設
 昭和55年 4月 人工透析開始（268床）
 昭和56年 9月 結核病棟廃止（237床）
 昭和58年 1月 増床（311床 一般131床、老人180床）
 昭和59年 2月 病棟、管理棟増改築（北棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階塔屋付4252.45㎡
 平成 2年10月 看護師宿舎増改築
 平成 5年 6月 病棟、管理棟増改築（中央棟） 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上5階塔屋付2803.59㎡
 平成 6年 5月 麻酔科増設
 平成10年10月 循環器内科開設 小児科廃止
 平成13年12月 一部療養病床へ転換（289床 一般245床、療養44床）
 平成14年 4月 M R I（1.5テスラ）導入
 平成14年10月 社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽病院に名称変更
 平成15年 3月 北海道済生会小樽病院附属 准看護師養成所 閉校
 平成15年10月 体外衝撃波結石破砕装置導入
 平成15年11月 皮膚科廃止
 平成16年 4月 神経内科開設
 平成17年 3月 産婦人科廃止、眼科廃止
 平成18年 6月 院内全面禁煙開始
 平成18年 9月 一般病床入院基本料10対1取得 マルチスライスC T（16列）導入
 平成20年 7月 療養病床から回復期リハビリテーション病棟へ変更（44床から42床へ）回復期リハビリテーション入院料2取得（42床）
 平成21年 1月 回復期リハビリテーション入院料1取得
 平成21年 7月 医療画像管理システム（PACS）導入
 平成22年 9月 臨床研修病院（協力型）に指定
 平成23年12月 新病院建築工事着工
 平成24年 7月 M R Iバージョンアップ
 平成24年 9月 オーダリングシステム運用開始
 平成24年10月 マルチスライスC T（64列）に更新
 平成25年 2月 一般病床入院基本料7：1取得
 平成25年 8月 北海道小樽市築港10番1に移転。延17704.29㎡。許可病床数、一般258床（うち回復期リハビリ病床50床）婦人科（女性診療科）新設。電子カルテ運用開始
 平成26年 4月 指定居宅介護支援事業所はまなす併設
 平成26年10月 地域包括ケア病棟（53床）開設
 平成27年 4月 地域ケアセンター併設・小樽市南部地域包括支援センター事業開始
 婦人科廃止
 人工透析内科開設
 平成30年 2月 特定行為研修 指定研修機関に指定
 令和元年12月 訪問看護ステーション併設
 令和 2年 3月 外科手術用3D内視鏡システム導入
 令和 2年 9月 重症心身障がい児（者）施設みどりの里統合
 統合により小児科標榜
 令和 2年10月 M R I更新
 令和 3年 3月 地域ケアセンター 済生会ビレッジに移転
 令和 3年 4月 緩和ケア内科、精神科、腫瘍精神科開設
 令和 3年11月 C T更新

病院概要

名 称	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 北海道済生会小樽病院
所 在 地	〒047-0008 北海道小樽市築港10番1号
電 話 / FAX	電話番号：0134-25-4321 FAX番号：0134-25-2888
管 理 者	病院長 和田 卓郎
病 院 種 別	一般病院
敷 地 面 積	19,147.41平方メートル
延 べ 床 面 積	26,677.00平方メートル （鉄筋コンクリート造、病院棟5階建て、エネルギー棟2階建て、みどりの里6階建て）
駐車スペース	147台
そ の 他 施 設	保育施設
許 可 病 床 数	一般病床 378床（地域包括ケア病棟53床、回復期リハビリテーション病棟50床、重症心身障がい児（者）病棟120床）
診 療 科 目	内科 消化器内科 循環器内科 脳神経内科 外科 消化器外科 整形外科 泌尿器科 人工透析内科 放射線科 リハビリテーション科 緩和ケア内科 精神科 腫瘍精神科 小児科
外来診療時間	【受付】 （午前の部）8時50分～11時30分 （午後の部）12時40分～16時00分 【診療時間】 （午前の部）9時00分～12時40分 （午後の部）13時40分～17時30分
面 会 時 間	【平日】 13時00分～20時00分 【土曜・日曜・休日】 10時00分～20時00分

認定施設一覧

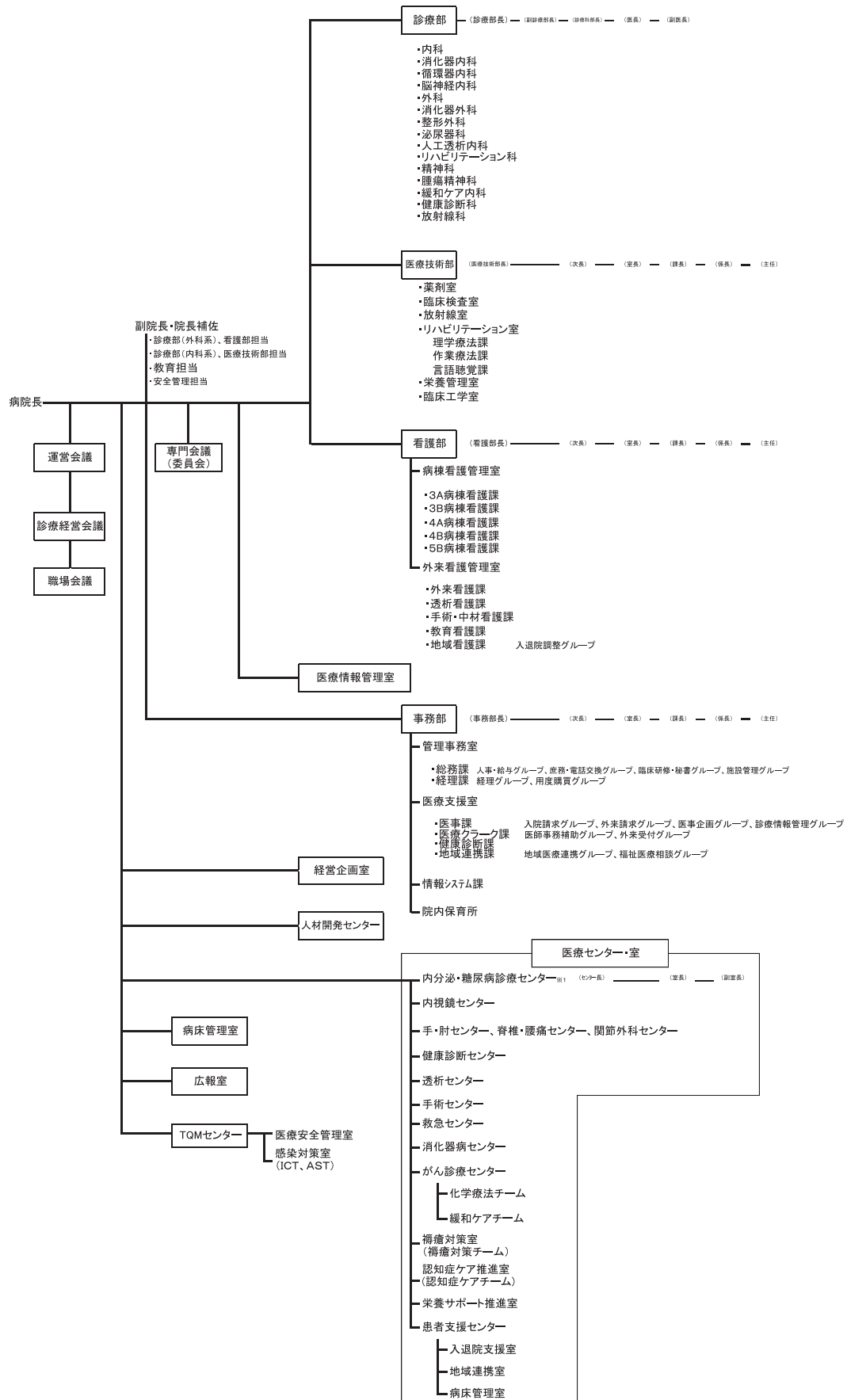
- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本神経学会教育施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本手外科学会基幹研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本認知症学会専門医制度教育施設
- ・JSPEN 日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設
- ・JCNT 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設
- ・看護師特定行為研修指定研修機関

※病院概要については令和4年3月31日時点掲載

組織図

済生会小樽病院 組織図

令和4年3月31日付



I 年間主要行事

令和3年度 年間行事

4月	1日(木)	辞令交付式 新採用者研修会
	6日(火)	病院長新年度方針 (ZOOM配信)
	28日(水)	支部監査
5月	19日(水)	新型コロナウイルスワクチン接種(外部医療機関 従事者)
	20日(木)	新型コロナウイルスワクチン接種(外部医療機関 従事者)
6月	19日(土)	新型コロナウイルスワクチン(集団接種)
	20日(日)	新型コロナウイルスワクチン(集団接種)
	26日(土)	新型コロナウイルスワクチン(集団接種)
	27日(日)	新型コロナウイルスワクチン(集団接種)
7月	30日(金) 31日(土)	防火設備 機器点検
8月	1日(日)	開院記念日
	6日(金)	保育所 夏祭り
	11日(水)	看護部インターンシップ
	13日(金)	お盆休み
	28日(土)	新型コロナウイルスワクチン(集団接種)
	29日(日)	新型コロナウイルスワクチン(集団接種)
9月	13日(月)	コンプライアンス研修 (ZOOM)
10月	12日(火)	献血車 来院
	29日(金)	衆議院議員選挙 不在者投票 東北北海道ブロック会議 保育所 ハロウィン
	30日(土)	新型コロナウイルスワクチン(集団接種)
	31日(日)	新型コロナウイルスワクチン(集団接種)
11月	27日(土)	院内幹部研修会 (ZOOM)
12月	16日(木)	永年勤続表彰式並びに職員福利厚生会忘年会 (ZOOM)
	22日(水)	保育所 クリスマス会
	23日(木)	支部主催 管理者研修(主任職以上)
	28日(火)	仕事納め
1月	4日(火)	仕事始め 病院長年頭挨拶 (ZOOM)
	14日(金)	保育所 お楽しみ会
	21日(金)	日本専門医機構認定研修 倫理研修 (ZOOM)
2月	20日(日)	新型コロナウイルスワクチン(集団接種)
	26日(土)	ミドルマネージャー研修 (ZOOM)
3月	17日(木)	本部永年勤続表彰伝達式
	24日(木)	病院機能評価 模擬審査

※新型コロナウイルスにより、各行事・院内セミナー等は自粛・ZOOMでの開催となりました

年度表彰

●永年勤続

30年表彰	看護課長 看護師 看護師	岡 本 麻 理 照 井 り か 本 間 未 知
20年表彰	循環器内科部長 事務室長 看護課長 看護主幹 事務主任 看護師 介護福祉士	高 田 美喜生 阿 畠 亮 子 岸 本 悦 子 浅 田 孝 章 坂 井 智 美 齋 藤 朋 美 大 石 文 司
10年表彰	技術係長 技術主任 看護師 看護師 看護師 看護師 事務職員 看護助手	山 中 佑 香 權 城 泉 子 石 丸 恵 子 田 中 聖 美 山 崎 多寿子 会 津 郁 美 焼 田 久美子 中 田 由美子



新人研修 4.1



千島桜 4月



看護部インターンシップ 8.11



夏祭り 8.6



ハロウィン 10.29



永年勤続表彰 12.16



クリスマス 12.22



おたのしみ会 1.14



購入機器紹介



令和3年5月10日
サイトライト8



令和3年5月31日
仮装基盤メモリ増設



令和3年6月8日
送信機



令和3年6月8日
マンモ専用シャウカステン



令和3年6月22日
アイシングシステム



令和3年6月29日
インクライニングチェア



令和3年7月2日
HAMILTON - C1



令和3年7月5日
錠剤台外用アンプル台



令和3年7月5日
薬用冷蔵ショーケース



令和3年7月5日
カフティポンプS



令和3年7月5日
シリンジポンプ



令和3年7月9日
スチームコンベクション



令和3年7月16日
Coribill



令和3年7月16日
TRSハンドピース



令和3年7月29日
IVESプラス低周波治療器



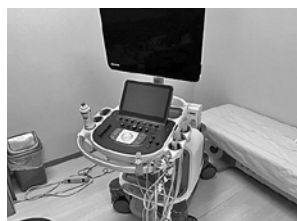
令和3年9月29日
ポータブルX線撮影装置



令和3年9月30日
医用テレメータ



令和3年10月11日
アイシングシステム



令和3年10月19日
超音波診断装置EPICelite



令和3年10月19日
超音波診断装置Affiniti70



令和3年10月21日
自動遺伝子解析装置



令和3年10月27日
放射線防護クロス



令和3年10月29日
救急カート4台



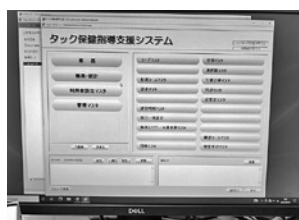
令和3年11月29日
除細動器



令和3年11月29日
高輝度光源装置



令和3年11月29日
CT撮影装置AquilionPrimeSP



令和3年11月29日
保健指導支援システム



令和3年12月22日
複合機 4台



令和3年12月22日
十二指腸ビデオスコープ



令和3年12月27日
ACT測定装置



令和4年1月
ワイヤレス超音波診断装置



令和4年1月27日
複合機



令和4年1月31日
ホルター心電図一式



令和4年1月31日
SCJバッテリーチャージャー



令和4年1月31日
CO₂センサーキット



令和4年2月25日
超音波骨密度測定装置



令和4年2月28日
デジタル肛門鏡



令和4年2月28日
病棟用モニタリングシステム



令和4年2月28日
マルチガスユニット

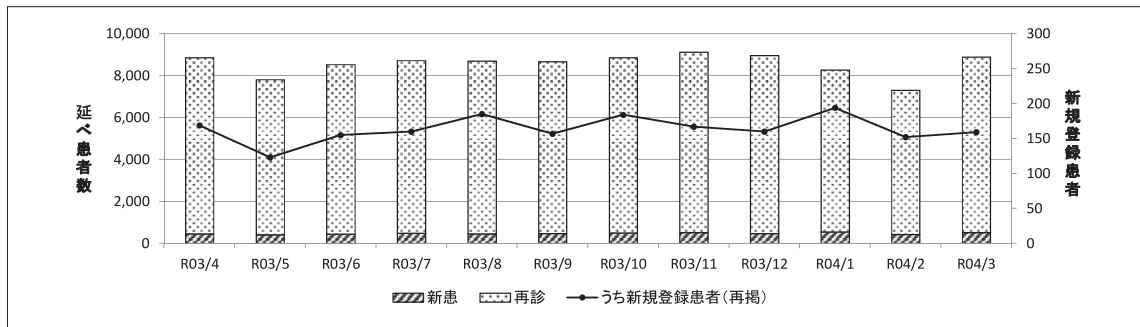
Ⅱ 診療実績

外来患者数

全 体

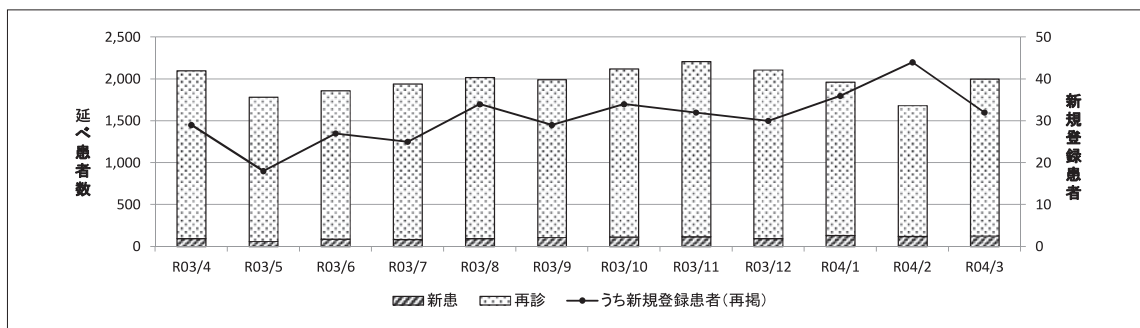
※重症心身障がい児(者)施設みどりの里の患者数を除く

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
再 診	8,407	7,398	8,087	8,227	8,230	8,195	8,359	8,598	8,475	7,721	6,875	8,355	96,927
新 患	459	411	440	488	457	482	505	526	481	548	435	524	5,756
うち新規登録患者(再掲)	169	123	155	160	185	157	184	167	160	194	152	159	1,965
延べ患者数	8,866	7,809	8,527	8,715	8,687	8,677	8,864	9,124	8,956	8,269	7,310	8,879	102,683



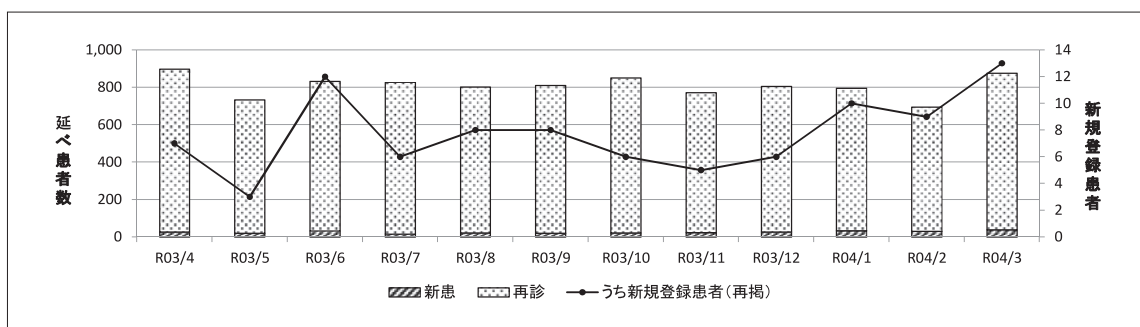
内 科

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
再 診	2,002	1,721	1,774	1,857	1,920	1,885	2,009	2,092	2,012	1,834	1,563	1,875	22,544
新 患	98	61	87	84	97	108	112	117	97	132	121	126	1,240
うち新規登録患者(再掲)	29	18	27	25	34	29	34	32	30	36	44	32	370
延べ患者数	2,100	1,782	1,861	1,941	2,017	1,993	2,121	2,209	2,109	1,966	1,684	2,001	23,784



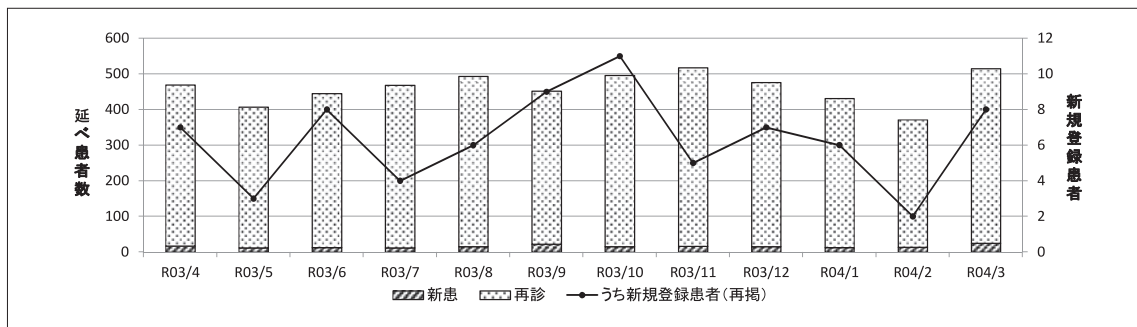
循環器内科

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
再 診	870	713	800	810	780	789	829	749	778	761	666	838	9,383
新 患	28	21	33	17	22	21	22	24	28	34	30	38	318
うち新規登録患者(再掲)	7	3	12	6	8	8	6	5	6	10	9	13	93
延べ患者数	898	734	833	827	802	810	851	773	806	795	696	876	9,701



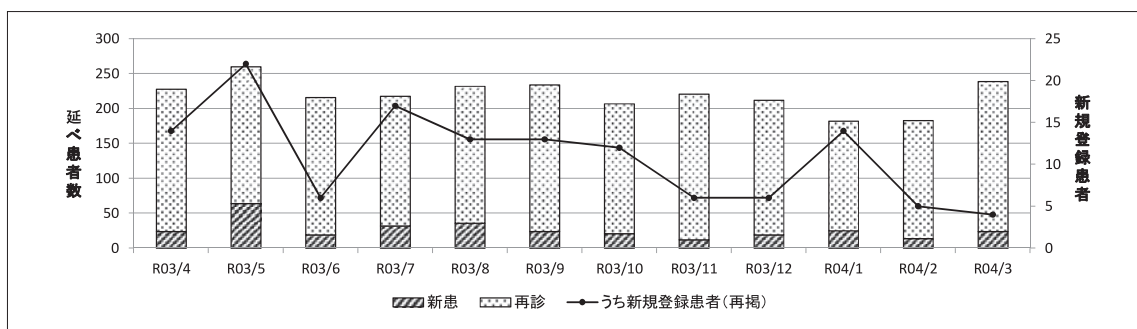
脳神経内科

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
再 診	452	395	432	456	478	430	481	502	461	418	357	490	5,352
新 患	17	12	13	12	15	22	15	16	15	13	14	25	189
うち新規登録患者(再掲)	7	3	8	4	6	9	11	5	7	6	2	8	76
延べ患者数	469	407	445	468	493	452	496	518	476	431	371	515	5,541



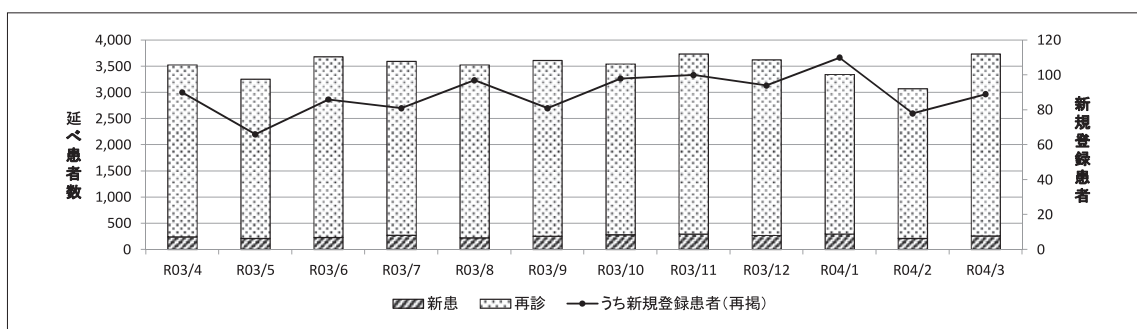
外 科

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
再 診	204	196	197	186	196	210	186	209	193	157	169	215	2,318
新 患	24	64	19	32	36	24	21	12	19	25	14	24	314
うち新規登録患者(再掲)	14	22	6	17	13	13	12	6	6	14	5	4	132
延べ患者数	228	260	216	218	232	234	207	221	212	182	183	239	2,632



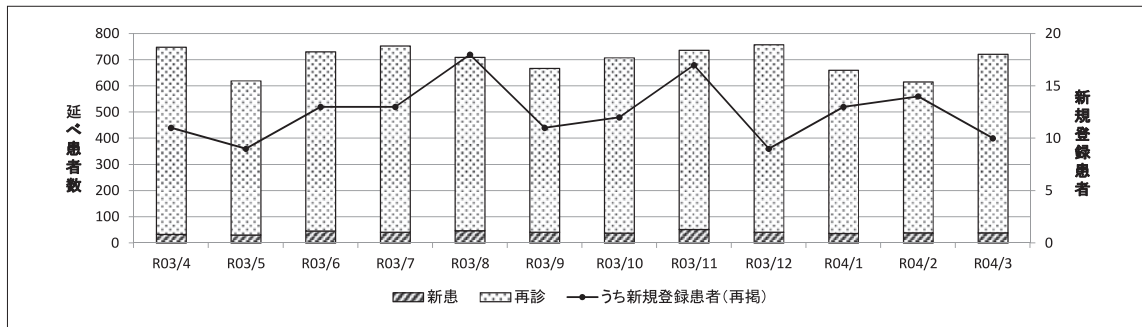
整形外科

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
再 診	3,286	3,039	3,453	3,326	3,303	3,355	3,264	3,444	3,357	3,045	2,855	3,474	39,201
新 患	243	217	231	273	227	257	283	296	270	300	217	262	3,076
うち新規登録患者(再掲)	90	66	86	81	97	81	98	100	94	110	78	89	1,070
延べ患者数	3,529	3,256	3,684	3,599	3,530	3,612	3,547	3,740	3,627	3,345	3,072	3,736	42,277



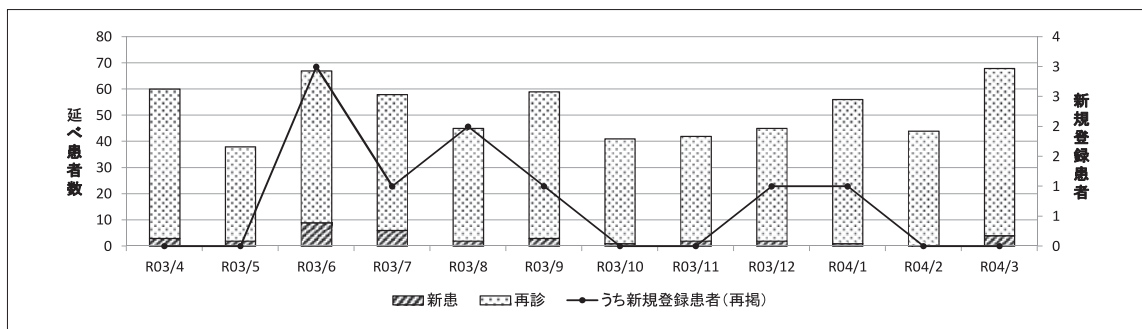
泌尿器科

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
再 診	714	589	685	711	662	627	670	685	716	624	577	682	7,942
新 患	34	31	46	42	48	41	38	52	42	37	39	40	490
うち新規登録患者(再掲)	11	9	13	13	18	11	12	17	9	13	14	10	150
延べ患者数	748	620	731	753	710	668	708	737	758	661	616	722	8,432



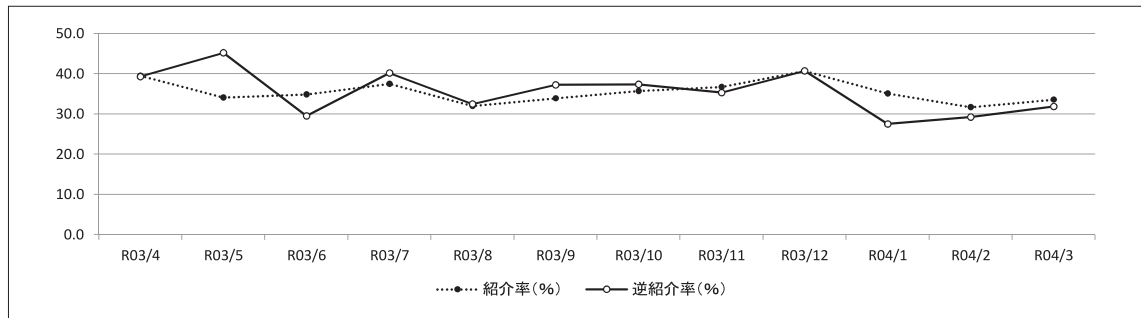
緩和ケア内科

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
再 診	57	36	58	52	43	56	40	40	43	55	44	64	588
新 患	3	2	9	6	2	3	1	2	2	1	0	4	35
うち新規登録患者(再掲)	0	0	3	1	2	1	0	0	1	1	0	0	9
延べ患者数	60	38	67	58	45	59	41	42	45	56	44	68	623



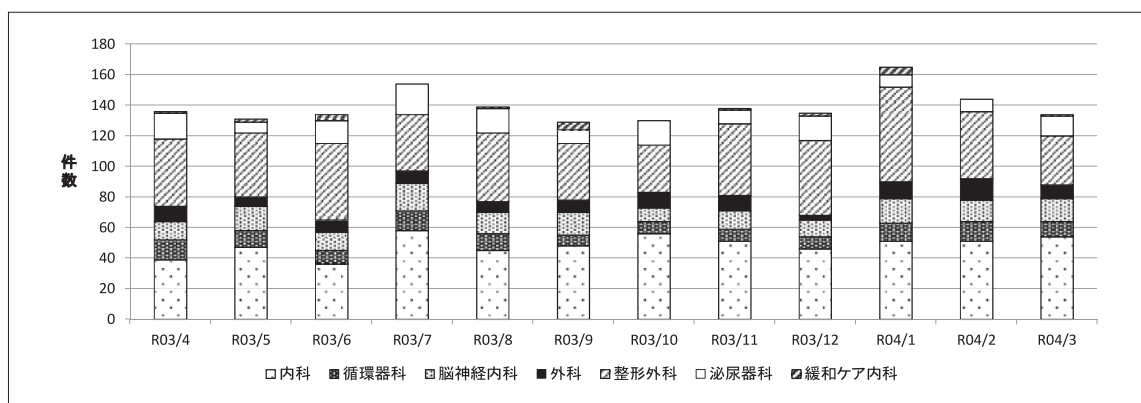
紹介率・逆紹介率

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
紹介率(%)	39.5	34.1	34.9	37.5	32.0	33.9	35.7	36.8	40.7	35.1	31.7	33.6	35.5
逆紹介率(%)	39.3	45.2	29.5	40.2	32.5	37.2	37.3	35.3	40.7	27.5	29.2	31.9	35.3



診療科別救急患者数（救急患者・時間外受診患者など）

		R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
内 科	外来	5	6	7	10	9	7	12	4	1	2	5	6	74
	入院	34	41	29	48	36	41	44	47	45	49	46	48	508
	合計	39	47	36	58	45	48	56	51	46	51	51	54	582
循環器科	外来	3	1	1	5	2	3	2	0	1	1	6	4	29
	入院	10	10	8	8	9	4	6	8	7	11	7	6	94
	合計	13	11	9	13	11	7	8	8	8	12	13	10	123
脳神経 内科	外来	4	6	3	2	3	3	3	0	3	3	3	2	35
	入院	8	10	9	16	11	12	6	12	8	13	11	13	129
	合計	12	16	12	18	14	15	9	12	11	16	14	15	164
外 科	外来	1	0	0	2	1	1	2	1	0	4	4	3	19
	入院	9	6	8	6	6	7	8	9	3	7	10	6	85
	合計	10	6	8	8	7	8	10	10	3	11	14	9	104
整形外科	外来	3	11	6	10	8	7	2	6	7	13	8	5	86
	入院	41	31	44	27	37	30	29	41	42	49	36	27	434
	合計	44	42	50	37	45	37	31	47	49	62	44	32	520
泌尿器科	外来	8	3	4	6	5	2	4	2	3	2	2	2	43
	入院	9	4	11	14	11	7	12	7	13	6	6	11	111
	合計	17	7	15	20	16	9	16	9	16	8	8	13	154
緩和ケア 内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
	入院	1	2	4	0	1	5	0	1	2	4	0	0	20
	合計	1	2	4	0	1	5	0	1	2	5	0	1	22
総 計		136	131	134	154	139	129	130	138	135	165	144	134	1669



入院

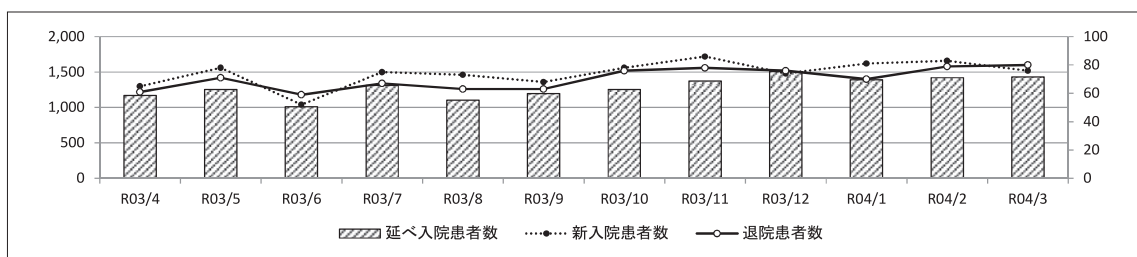
入院患者（病院全体）

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
延べ入院患者数	5,610	5,764	5,324	5,761	5,811	5,493	5,614	5,523	6,159	6,103	5,484	6,117	68,763
新入院患者数	246	212	219	239	242	233	239	272	254	271	240	251	2,918
退院患者数	247	225	222	231	240	229	252	245	279	249	240	259	2,918

診療科別入院患者数

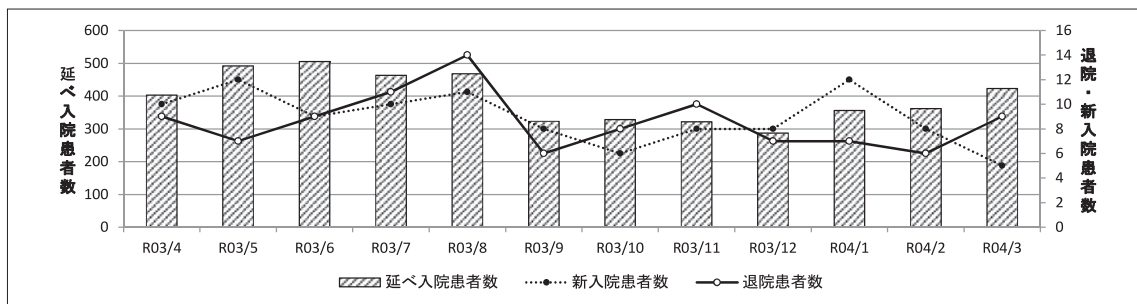
内 科

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
延べ入院患者数	1,171	1,252	1,012	1,311	1,103	1,199	1,254	1,374	1,509	1,389	1,421	1,432	15,427
新入院患者数	65	78	52	75	73	68	78	86	74	81	83	76	889
退院患者数	61	71	59	67	63	63	76	78	76	70	79	80	843



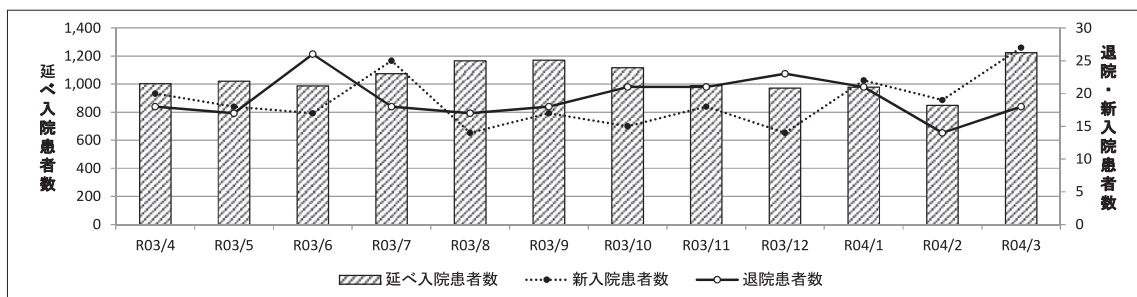
循環器科

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
延べ入院患者数	403	492	505	463	468	323	328	321	287	356	362	423	4,731
新入院患者数	10	12	9	10	11	8	6	8	8	12	8	5	107
退院患者数	9	7	9	11	14	6	8	10	7	7	6	9	103



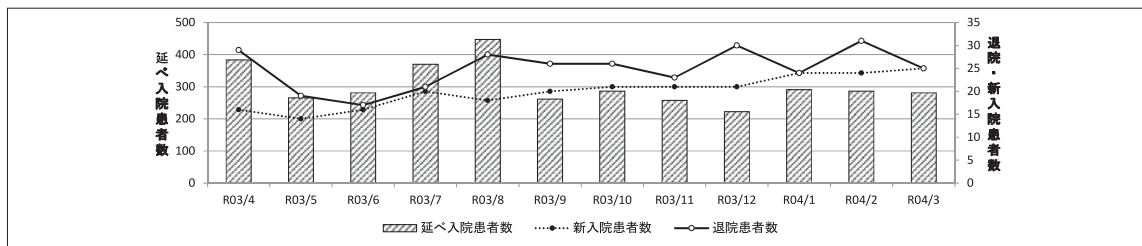
脳神経内科

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
延べ入院患者数	1,003	1,021	988	1,075	1,165	1,171	1,117	990	971	979	848	1,224	12,552
新入院患者数	20	18	17	25	14	17	15	18	14	22	19	27	226
退院患者数	18	17	26	18	17	18	21	21	23	21	14	18	232



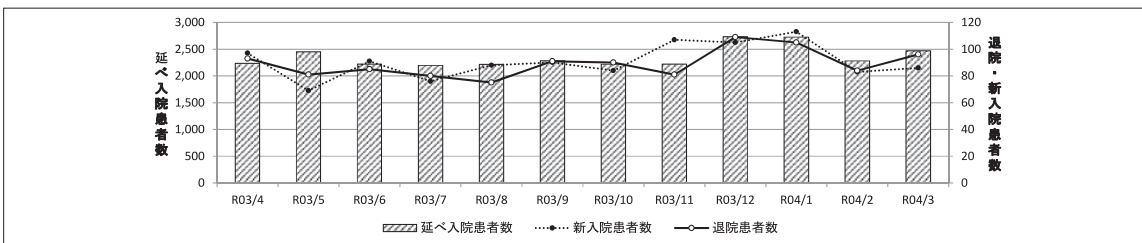
外科

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
延べ入院患者数	384	265	281	370	447	262	286	258	222	291	286	281	3,633
新入院患者数	16	14	16	20	18	20	21	21	21	24	24	25	240
退院患者数	29	19	17	21	28	26	26	23	30	24	31	25	299



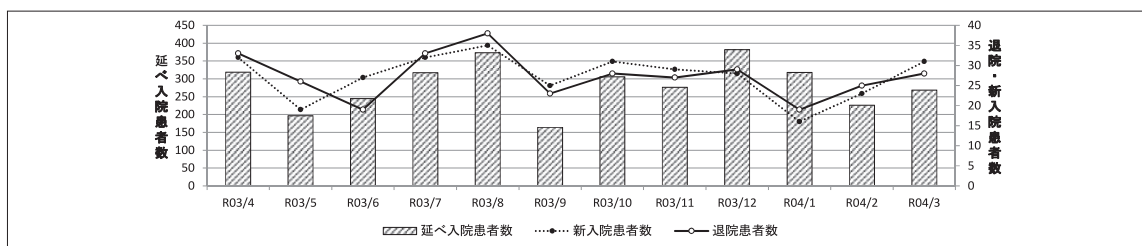
整形外科

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
延べ入院患者数	2,235	2,449	2,219	2,195	2,214	2,283	2,217	2,220	2,734	2,724	2,279	2,471	28,240
新入院患者数	97	69	91	76	88	90	84	107	105	113	83	86	1,089
退院患者数	93	81	85	80	75	91	90	81	109	105	84	96	1,070



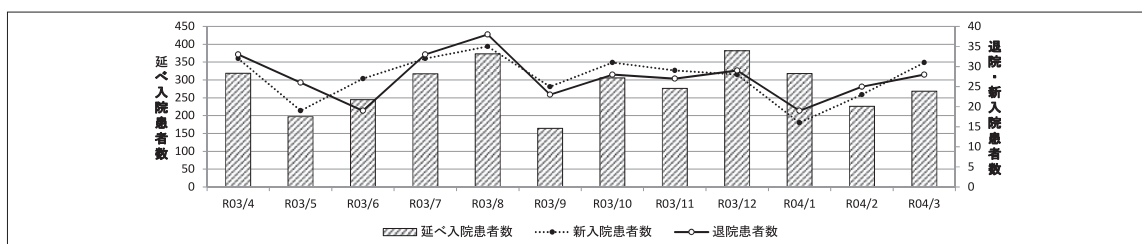
泌尿器科

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
延べ入院患者数	319	197	245	317	373	164	306	276	382	318	226	268	3,391
新入院患者数	32	19	27	32	35	25	31	29	28	16	23	31	328
退院患者数	33	26	19	33	38	23	28	27	29	19	25	28	328



緩和ケア内科

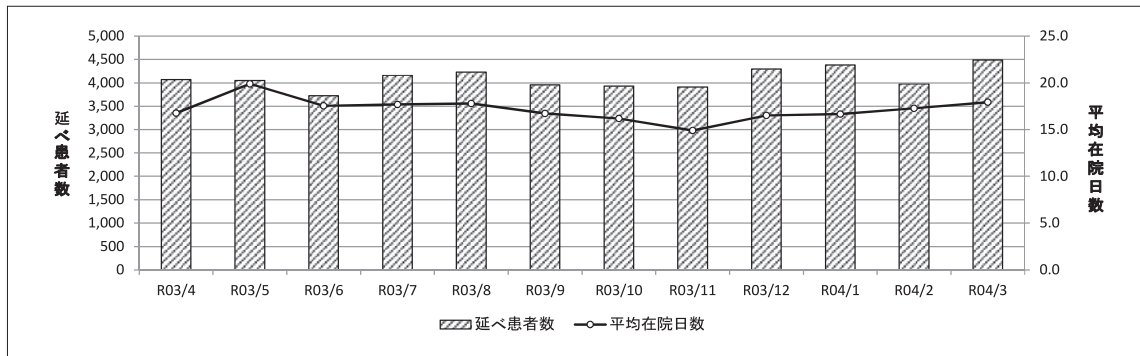
	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
延べ入院患者数	95	88	74	30	41	91	106	84	54	46	62	18	789
新入院患者数	6	2	7	1	3	5	4	3	4	3	0	1	39
退院患者数	4	4	7	1	5	2	3	5	5	3	1	3	43



病棟別入院患者数

一般病棟入院患者数・平均在院日数

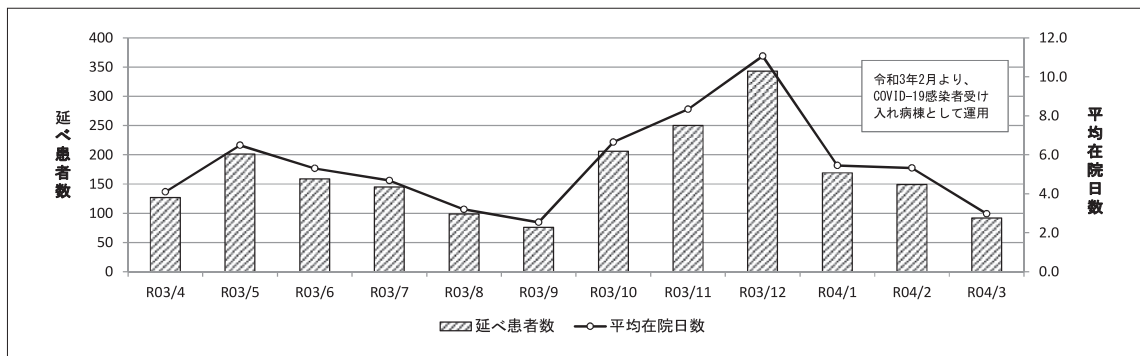
	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
延べ患者数	4,067	4,048	3,727	4,159	4,229	3,956	3,934	3,906	4,294	4,382	3,972	4,487	49,161
1日平均患者数	131.2	130.6	124.2	134.2	136.4	131.9	126.9	130.2	138.5	141.4	141.9	144.7	134.3
平均在院日数	16.8	19.9	17.5	17.7	17.8	16.7	16.2	14.9	16.5	16.7	17.3	17.9	15.5



地域包括ケア病棟入院患者数・平均在院日数

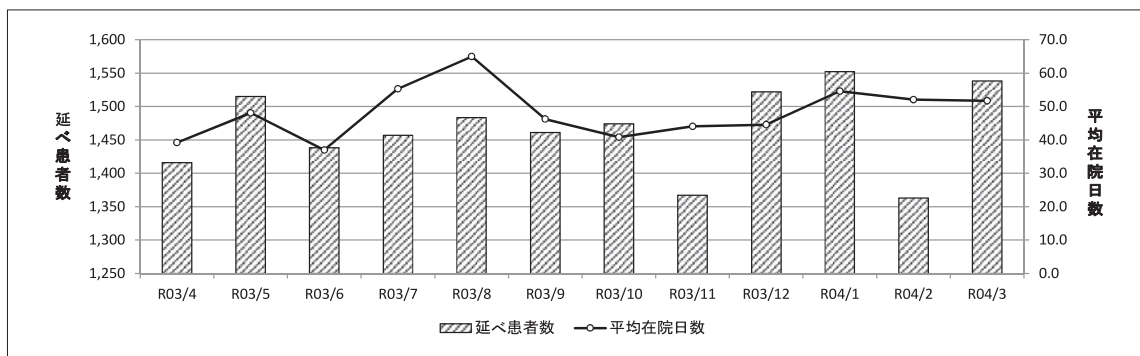
	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
延べ患者数	127	201	159	145	99	76	206	250	343	169	149	92	2,016
1日平均患者数	7.0	10.6	19.9	10.8	9.5	8.0	12.3	20.1	11.7	10.4	7.1	8.8	11.3
平均在院日数	4.1	6.5	5.3	4.7	3.2	2.5	6.6	8.3	11.1	5.5	5.3	3.0	19.5

※令和3年2月より地域包括ケア病棟にてCOVID-19感染患者の受け入れ開始



回復期リハ病棟入院患者数・平均在院日数

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
延べ患者数	1,416	1,515	1,438	1,457	1,483	1,461	1,474	1,367	1,522	1,552	1,363	1,538	17,586
1日平均患者数	45.7	48.9	47.9	47.0	47.8	48.7	47.5	45.6	49.1	50.1	48.7	49.6	48.0
平均在院日数	39.2	48.0	36.9	55.3	64.9	46.2	40.8	44.0	44.5	54.6	52.0	51.7	49.2

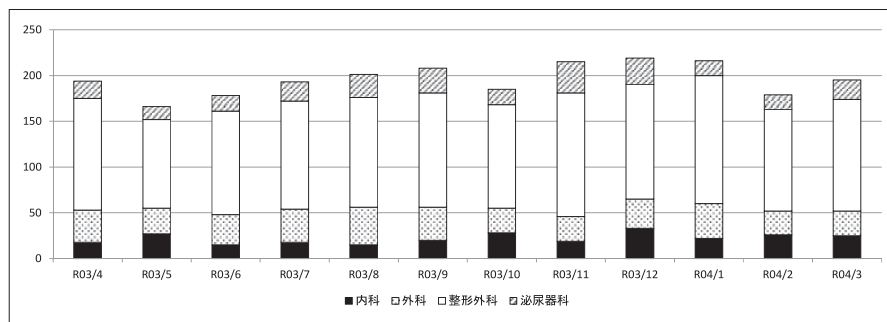


手術

診療科別手術件数

		R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
内科	入院	15	24	11	15	11	19	28	18	32	22	26	25	246
	外来	3	3	4	3	4	1	0	1	1	0	0	0	20
	合計	18	27	15	18	15	20	28	19	33	22	26	25	266
外科	入院	27	20	26	21	36	24	21	21	29	25	21	25	296
	外来	8	8	7	15	5	12	6	6	3	13	5	2	90
	合計	35	28	33	36	41	36	27	27	32	38	26	27	386
整形外科	入院	93	73	87	85	96	89	82	105	98	117	85	98	1108
	外来	29	24	26	33	24	36	31	30	27	23	26	24	333
	合計	122	97	113	118	120	125	113	135	125	140	111	122	1441
泌尿器科	入院	18	13	16	19	25	26	16	30	25	15	14	20	237
	外来	1	1	1	2	0	1	1	4	4	1	2	1	19
	合計	19	14	17	21	25	27	17	34	29	16	16	21	256
総計		194	166	178	193	201	208	185	215	219	216	179	195	2349

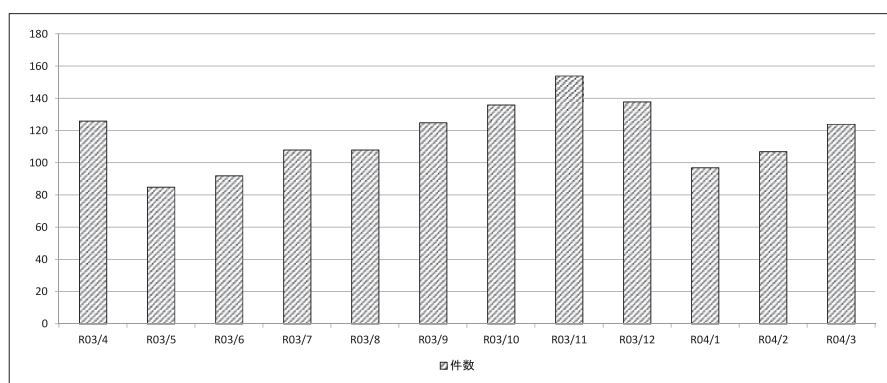
※診療報酬点数表の診療行為のうちKコードの算定件数



内視鏡検査件数

	R03/4	R03/5	R03/6	R03/7	R03/8	R03/9	R03/10	R03/11	R03/12	R04/1	R04/2	R04/3	計
件数	126	85	92	108	108	125	136	154	138	97	107	124	1400

※健康診断での内視鏡検査件数を除く



学生受け入れ

■ 診 療 部

令和3年度 実習受け入れ実績

令和3年度は札幌医科大学より計76名を受け入れました。

養成職種	関連機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
医 師	札幌医科大学	6年	地域包括型診療参加臨床実習(内科3科合同)	令和3年 5月17日～6月10日	1
		6年	地域包括型診療参加臨床実習(脳神経内科)	令和3年 6月21日～7月15日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 4月15日	2
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 4月19日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 4月22日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 4月26日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 6月23日～6月24日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 6月29日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 7月1日～7月2日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 7月6日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 8月18日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 8月25日	1
		6年	整形外科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 9月3日	1
		6年	神経内科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 4月14日	4
		6年	神経内科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 6月9日	3
		6年	神経内科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 6月30日	1
		6年	神経内科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 8月11日	3
		6年	神経内科臨床実習(選択クリクラ)	令和3年 9月8日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和3年 5月19日～6月30日中止	
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和3年 7月14日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和3年 8月4日	4
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和3年 9月1日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和3年 9月15日	4
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和3年 10月6日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和3年 10月20日	4
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和3年 11月17日	4
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和3年 12月1日	5
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和3年 12月15日	3
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 1月12日	3
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 1月26日	4
		5年	神経内科臨床実習(必須クリクラ)	令和4年 2月9日～3月23日中止	

中止はコロナウイルス感染防止のため

臨床研修医受け入れ

診療部では関連する病院から2年目の医師を地域研修等で受け入れています。

職種	関連機関名	実習目的	実習期間	実習人数
医師	山形済生病院	2年次研修医地域研修	令和3年 8月 1日～ 8月29日	1
	山形済生病院	2年次研修医地域研修	令和3年 8月30日～10月 3日	1
	山形済生病院	2年次研修医地域研修	令和3年 10月 4日～10月31日	1
	済生会富田林病院	2年次研修医地域研修	令和3年 11月 1日～11月12日	1
	KKR札幌医療センター	2年次研修医地域研修	令和3年 12月 6日～12月28日	1
	済生会富田林病院	2年次研修医地域研修	令和4年 2月 2日～ 2月11日	1

実習・研修のことなど。

札幌医科大学6年次の「地域包括型診療参加臨床実習（令和3年）」2名を各々1か月ずつ、卒後2年目の地域医療研修は山形済生病院、大阪済生会富田林病院、KKR札幌病院の先生を6名受け入れました。地域毎に特徴のある地勢のなかで日々の医療の多様性にもふれていただけたなら幸いです。

平成31年4月から当院を基幹とする「北海道済生会小樽病院内科専門研修プログラム」を専攻してきた内科医1名が令和4年3月をもって全課程を終了しました。今後内科専門医試験に挑み消化器分野に進むそうで今後の活躍にも期待したいです。

看護特定行為研修は呼吸器関連分野で看護師1名、瘻孔管理で1名がそれぞれ研修中で卒業見込みです。既にそれぞれ呼吸療法士、WOCを取得しており急性、慢性の場面で、学修した特定行為自体の実施のみならず、身体所見の把握や病態の理解・指導・家族・地域看護を医療現場の多職種とつなぐ役割としてその高度な実践力を発揮いただくことを希望します。

新年度令和4年4月からは当院を基幹病院とする内科専門研修プログラムに2名の先生を、札幌医大を基幹施設とする内科・神経内科並行研修の先生を1名、卒後研修病院として札幌医大プログラムを基幹とする1名の先生をそれぞれお迎えする予定です。新しい時代を担う先生がたです。院内の皆様には次年度もよろしくご協力ご指導いただきますようお願いいたします。

従来、急変時の対応向上を期しICLSとJMECC（日本内科学会救急研修）を開催してきましたものの今年度は開催を見送りました。開催学会事務局はWEB等ではなく実技の受講のみを認めており、今般の感染症蔓延下では困難という判断からです。ただ防護服での実施形態もあるようです。来年度は状況を鑑みて講師の招聘とともに再開を図ります。

なお専門医試験受験、維持・更新等に日本専門医機構認定の共通講習（倫理・感染・安全分野）の受講が必要とされています。各分野・学会ごとに規定は細部で異なるものの昨今の情勢から外部での受講が困難な場合が予想されます。当院ではコロナ禍でもZOOM併用で年2回の認定共通講習を開催し受講票も発行しています。これは厚労省が医師に限らず職員に受講を勧奨する倫理・感染・安全の講習会としても当然認められるものです。全職員が聴講対象となるため講師の先生には内容や形式にご配慮をいただき高度な内容をできるだけわかりやすくお話しいただいております。どうか各職の認定要件もご確認の上、院内開催の共通講習歴を研修歴としてお役立てください。

令和3年度開催分共通講習

- ・「札幌中央病院における感染対策」市原浩司先生（札幌中央病院感染コントロール）10月14日
登録番号XXXX-211014-1-231-01-01（感染分野）。
- ・「個人と共同体—私たちの高齢者像の再考」船木祝先生（札幌医大医療人育成センター哲学・倫理学）3月11日
登録番号XXXX-220311-1-331-01-01（倫理分野）。

図書室を移転して1年半たちました。

支部や事務部の協力で図書室を移転してから1年半が過ぎました。以前は古い本が多く雑庫然としていたのが、OPACで収蔵資料検索ができるようになり、また資料の貸借も職員のネームプレート（IDカード）と本に添付のバーコード読み取りだけで可能となるよう、情報システム課の本間主任にプログラムいただきました。資料も揃いはじめ看護協会主催の研修時等にはまあ役立っているとききひと安心していきます。

令和4年2月集計で

登録蔵書数	598冊
年間購入雑誌	52タイトル（英文誌5、邦文誌47）
年間貸出数	78件
蔵書中平成22年以後発刊のもの	306冊（全蔵書中51.2%）

となっています。図書室移転前令和2年2月には年間貸出数15件、全蔵書中に占める平成22年以後発刊書籍17%、さらに紛失資料7冊あったことからみると顕著な進歩といえましょう。実際の貸出数以上に一瞬本見て帰る（閲覧）利用者もある様です（移転前はほぼ入室者のない状況でした）。

まだ考えなくてはならないことも多くあります。

第一、寄贈された年報、病院誌、記念誌、報告書、大会・学会抄録、企業から贈呈されたマニュアル類など市販もされず公文書でもないいわゆる「灰色文献」に属するものが収蔵資料の多くを占め、残念ながら利用もほとんどなく整理も十分ではない状況です。それらを図書室に「捨てに来る」残念な人もときにおられます。当図書室では書籍は国立国会図書館の全国統一書誌情報に準拠し整理しています。「灰色文献」の多くはその統一書誌に収載なく管理方式が明確化していません。副本（ダブった資料）もかなりあり場所を占めているため、独自に整理し場合によっては廃棄の基準も必要でしょう。既に図書室の整備案と蔵書構築方針の枠組みはありますので、今後職員有志で運用していくことが求められます。

第二には増加してきたとはいえ、まだ新しい資料が少ないです。医療・福祉分野で10年以上前の資料が多いのは危険でもあり、各部署実習生や長期のインターンシップ、新規入職のスタッフ、現任職員の生涯継続学習に各分野の足掛かりとなる資料の整備にしばらく努力を要すると思います。WEB情報は近年充実し各人活用しているところですが、紙の書籍も3対7ほどで併存するのが本邦の現状とおもいます。一方、諸橋の大漢和辞典13巻や小学館の日本国語大辞典14巻の拠出をいただき日本語について最大級のレファレンスがそろったのは良いことでした。

第三には中央管理か部署（分散）管理かの問題です。研修施設関連で厚生局のサイトビジットでも指摘される永遠のテーマです。個人的には最もその資料を利用する部署に置いて活用していただきたいと考えます。ただ病院予算で購入した雑誌や書籍がどこにあるのか不明とか、本日図書委員が不在でわからないとか、書棚にカギがかかっていて出せないとか、紛失したでは困ります。他部署の者が訪ねたら快く見せてあげて欲しいところで、そのため購入時には図書室でラベル付けし所蔵部署を明確にしています。どんな資料がどこにあるかは図書室向かって右手側のPCや院内LANで検索できます。ちなみにこれは病院機能評価で3次病院の院内図書室整備基準Aを満たすランクです。

雑誌は12カ月でかなりの分量になり大きな空間を占めてしまいます。図書室で預かりたいところですが古い雑誌はさらに需要がありません。雑誌は10年前を備蓄しても仕方がない（重要な新内容は教科書や書籍、ガイドラインに反映されます）ので、みんなのために雑誌は5年で各部署において廃棄する（図書室に捨てにこない）など統一ルール作りが必要とおもいます。過去の雑誌を捨ててもご心配なく。典拠性の高い情報は、医学中央雑誌やMedicalOnlineという2つのデータベースで検索可能です。パスワードは上職か総務課に聞いてください。過去の医薬保健看護介護関連分野の国内雑誌記事はこれらのデータベースでほぼ網羅しています。本文全文を見られない場合もあるので、事務管理室長には札幌医大附属総合情報センターと連絡し、低額の実費で職員の欲しい文献を個人請求し当該コピーを個人あてに郵送してもらおうしくみをつくろうと尽力いただいているところです。

第四は図書室内です。雑庫化させないためにも、個人的な調べものからセミオープンの会議・研修、交流の空間になるよう、資料の増えることを見越して機能的でかつ、くつろげる魅力的な空間演出や什器の整備も要するでしょう。

現在の図書室の状況と実現可能な展望を書きました。皆様のご利用とご意見をお待ちします。

令和4年3月

文責 人材開発センター 松谷 学

■ 医療技術部

医療技術部における令和3年度の実習受け入れ実績として、5部署において計10校からの実習受け入れ依頼に応じ、6職種、30名の学生が当院で実習を行いました。コロナ以前であればもっと多くの学校から沢山の実習生を受け入れておりましたが、行動制限が要請されるような状況であったため、受け入れは限定的なものになりました。中には実習予定日の数日前に受け入れをキャンセルさせていただいた例もあり、学生はじめ学校には大変ご迷惑をおかけしてしまいました。今年度もコロナの状況を見ながら、地域の基幹病院として積極的に教育機関からの実習受け入れを行うとともに、実習内容の質向上に努めてまいります。

文責 医療技術部次長 松尾 覚志

【薬剤室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
薬剤師	北海道科学大学	5年	薬学実務実習	令和3年 5月24日～令和3年 8月 8日	1名
		5年	薬学実務実習	令和3年11月22日～令和4年 2月13日	1名
		1年	早期臨床体験実習		

【リハビリテーション室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
作業療法士	北海道文教大学	4年	臨床実習Ⅳ	令和3年 6月28日～令和3年 8月 6日	1名
	北海道文教大学	3年	臨床実習Ⅱ	令和3年 8月23日～令和3年 9月10日	2名
	北海道大学	3年	臨床実習Ⅱ(追加実習)	令和3年11月30日～令和3年12月13日	3名
	札幌医科大学	4年	臨床実習Ⅱ	令和3年 6月23日～令和3年 7月16日	1名
	北海道医療大学	2年	臨床見学(特別追加)	令和3年 8月 2日～令和3年 8月 4日	1名
理学療法士	北海道文教大学	4年	臨床実習Ⅳ	令和3年 7月 5日～令和3年 7月30日	1名
	北海道千歳リハビリテーション大学	4年	臨床治療学実習Ⅱ	令和3年 7月 5日～令和3年 8月27日	1名
	札幌医学福祉歯科専門学校	1年	臨床実習Ⅰ	令和3年 7月 5日～令和3年 7月 9日	1名
	日本医療大学	4年	臨床実習Ⅲ	令和3年 7月26日～令和3年 9月17日	1名
	札幌医学福祉歯科専門学校	3年	臨床実習Ⅳ	令和3年 8月 9日～令和3年10月 8日	1名
	日本医療大学	3年	臨床実習Ⅱ	令和3年11月22日～令和3年12月17日	2名
	北海道文教大学	2年	臨床実習Ⅱ	令和3年12月 6日～令和3年12月17日	1名
	北海道医療大学	3年	臨床実習Ⅲ	令和4年 1月 6日～令和4年 1月17日	1名

【栄養管理室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
管理栄養士	藤女子大学	3年	臨床栄養学実習Ⅲ	令和3年 8月16日～令和3年 8月27日	2名
	天使大学	4年	臨床栄養学実習Ⅴ	令和3年 8月30日～令和3年 9月17日	2名
	名寄市立大学	3年	臨床栄養学臨地実習Ⅰ	令和3年10月 4日～令和3年10月15日	2名
	天使大学	3年	臨床栄養学実習Ⅲ	令和3年11月 8日～令和3年11月19日	2名

【臨床工学室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
臨床工学技士	北海道科学大学	3年	実務実習	令和3年11月30日～令和3年12月16日	2名

【臨床検査室】

養成職種	教育機関名	学年	実習目的	実習期間	実習人数
臨床検査技師	札幌医学技術福祉歯科専門学校	3年	臨地実習	令和3年 8月16日～令和3年 9月24日	1名

■看護部

令和3年度も前年度と同様COVID-19による感染拡大のため実習が中止になることも度々ありましたが、感染対策、教員との連携を強化しながら臨地実習の受け入れを行うことができました。限られた日数、時間の中で実習目標を達成し、効果的な指導ができるよう指導者の育成と実習の環境調整に力を入れてまいりました。フォローアップ研修での実践報告会では、指導場面の再構成を行ってもらうことで客観的な振り返りができ課題を明確にすることができました。今後もWithコロナ時代の実習指導者育成に努め、学生の学びを支援してまいります。

文責 看護主任 佐々木 雪絵

教育機関名	学年	学習目的	実習場所	実習期間	実習人数
小樽市医師会 看護高等専修学校	2年	基礎実習	3A病棟・3B病棟・ 4A病棟・5B病棟	5月13日～ 6月 2日	8名
小樽市医師会 看護高等専修学校	2年	成人老年看護実習	手術室・3A病棟・ 3B病棟・4A病棟・ 5B病棟	6月 7日～ 7月 2日 8月16日～12月17日	32名
北海道科学大学	看護学科 2年	基礎看護学実習Ⅱ	3A病棟・3B病棟・ 4A病棟・5B病棟	7月12日～ 8月 4日	66名
小樽看護専門学校	3年	看護の統合と実践実習	3A病棟・3B病棟・ 4A病棟・5B病棟	10月18日～11月 1日	25名
北海道科学大学	1年	看護学科基礎実習Ⅰ	3B病棟・4A病棟・ 5B病棟	1月31日～2月4日 中止	26名
小樽看護専門学校	2年	基礎看護実習	3A病棟・3B病棟・ 4A病棟・5B病棟	2月 7日～2月18日 中止	15名

Ⅲ 部門報告

診療部

■ 総 括

令和3年度は、整形外科に池田康利医師、大島崇史医師、脳神経内科に河田由香医師の3名の新規加入がありました。新体制でも各科の風通しは良く、協力して診療ができました。

新型コロナウイルスの影響は大きく、我々の日常診療にも影を落としましたが、屈する事無く皆でこの1年

間は守り抜けたと思います。

コロナ禍にあっても、誰一人欠ける事無く診療できたことに感謝しつつ、これからも日々精進したいと思います。

文責 副診療部長 木村 雅美

【スタッフ】

氏 名	役職名
水越 常德	副院長
宮地 敏樹	院長補佐
明石 浩史 今井 貴史	診療部長 内科医長
工藤 準也	内科副医長
舩谷 治郎	内科医師
本谷 雅代	非常勤医師(札幌医大消化器内科)
志谷 真啓	非常勤医師(JR札幌病院消化器内科)

【当科の概況】

当科では札幌医大消化器内科（旧第一内科）出身者中心にて成り立っており、診療内容は消化器疾患を中心に内科一般診療を行っております。今年（令和3年）も新型コロナウイルスの全国的な猛威により今までに無い経験をしております。当科でもコロナ病棟を担当しており、筆者水越と明石診療部長、今井内科医長が行っています。重点医療機関として、特に令和3年の2月から再度の受け入れをしていますが、いわゆるコロナ肺炎を呈する患者さんが多く、かなり緊迫しています。ワクチン接種対応・発熱外来対応など、通常診療もありますが、ほぼコロナに関する対応が主となっているのが現状です。

【当科の診療内容】

診療内容に大きな変化はありません。内視鏡は各医師が上下部内視鏡の検査及び処置に当たっておりますが、札幌医大消化器内科の協力を得て、胆膵は同医局の専門医師(本谷・志谷両医師)が来てくれており、胆道・膵疾患の検査・治療に当たってくれています。ど

ちらかといいますと特殊な手技である胆膵疾患に対する内視鏡的乳頭切開術（EST）、内視鏡的胆道ドレナージ術（EBD）などを数多く処理してもらっています。消化管の治療内視鏡としましては、胃や大腸など消化管の腫瘍に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）、消化管閉塞に対するステント留置術、出血性疾患に対する各種止血術などを行っています。内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）につきましては、医局の同門でもある札幌中央病院の消化器内科田沼医師に来てもらいやっております。消化器以外では、引き続き内分泌診療を水越が、緩和ケアを明石診療部長が行っております。今井医長も緩和ケアに精通しており、担当してくれております。

【学会認定施設】

- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本甲状腺学会認定専門医施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設

【人の動きとこれからに向けて】

こちら昨年と変わりはありません。工藤準也副院長が当院の内科専門医研修プログラムでの他院研修ということで、小樽協会病院に行っていました。10月に戻って来ています。毎週火曜日朝内科のカンファをして症例検討を重ねております。まずはコロナ禍が治まることを祈りながら、頑張っていく所存です。

文責 副院長 水越 常德

【スタッフ】

高田 美喜生	循環器内科部長
汐谷 優	循環器内科医長
國分 宣明	非常勤

【当科の特徴】

当科は、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、心不全、不整脈、弁膜症、大動脈疾患、先天性心疾患などの心血管疾患全般を専門的に扱うとともに、腎疾患および高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病も対象に幅広い分野の診察・治療を行なっています。

特に腎機能が低下する原因は多様ですが、原疾患が何であろうとも進行した状態においては体液組成を中心とした共通かつ複数の代謝異常が生じます。

しかも、それぞれの代謝異常自体が腎障害の進行因子として作用し、同時に他臓器の障害も進行させることが多くあります。

高齢化にともない、慢性腎臓病に代表される腎臓病は増加しており、当科外来の患者さんの多くも、腎機能障害を有しています。当科は日常診療において1人、1人の病態を理解し、対策を講じることにつとめています。

【令和3年度の取り組み】

診療面では、慢性腎臓病（CKD）の原因疾患である糖尿病性腎症、高血圧性腎硬化症の治療に力を注ぎ、末期腎不全（ESRD）への進行の抑制と心血管病変の発症の予防を目的として、高齢化社会に対応した実践的なCKD対策に努力しています。

【今後の目標】

慢性腎臓病（CKD）が注目されるのは、1つは透析療法や腎移植などの腎代替療法を必要とする末期腎不全（ESRD）患者の増加です。多くの患者のQOLを低下させるだけでなく、経済的、人的に多大なコストを要しています。

2つ目は、CKDは末期腎不全のリスクのみならず、心血管事故や死亡あるいは入院のリスクファクターとして重要であることが、多くの疫学研究により明らかにされています。

すなわち、CKDはその数の多さと腎臓以外の健康障害の危険因子として人々の健康を脅かす重要な疾患として位置づけられています。

CKDは高血圧・糖尿病などの生活習慣病や加齢など、今後も増え続けることが確実な背景因子と深い関連があります。したがって、増え続けるESRDの発生を抑えるため、そして、心血管事故を予防するために、CKDの早期発見と、原因疾患に対する適切な治療に取り組んで行くことが大切であると考えています。

文責 循環器内科部長 高田 美喜生

脳神経内科

【スタッフ】

松谷 学 部長

日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本神経学会専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医、司書資格

林 貴士 部長

日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本神経学会専門医・指導医、認知症サポート医

藤倉 舞 医長

日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医、認知症学会専門医・指導医

平野理都子 医長

日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医

河田 由香 副医長

山本 大輔 (非常勤医師)

(札幌医科大学神経内科学講座講師)

野中 隆行 (非常勤医師)

(札幌医科大学神経内科学講座助教)

【部署の特徴】

当科は、脳脊髄、末梢神経、筋肉に関連した疾患の診断と治療を行っております。脳脊髄の疾患としては、脳梗塞や一部の脳出血などの脳血管疾患、記憶障害や遂行機能障害などがみられるアルツハイマー型認知症、動作緩慢に振戦や筋強剛、姿勢反射障害が見られるパーキンソン病、パーキンソン症状に加え変動のある認知機能の低下などの特徴があるレビー小体型認知症、運動神経の変性により全身の筋肉が萎縮していく筋萎縮性側索硬化症や、そのほか脊髄小脳変性症、多系統萎縮症などの神経変性疾患、感染症や代謝障害に伴う脳炎・脳症、症状の再発寛解を繰り返す多発性硬化症などがあり、末梢神経の疾患としては、先行感染後に四肢筋力低下をきたすギラン・バレー症候群や慢性の経過で筋力低下・感覚障害の再発寛解を繰り返す慢性炎症性脱髄性多発神経炎、神経と筋肉の接合部の疾患では眼瞼下垂や複視、筋力の易疲労性を呈する重症筋無力症、筋肉の疾患として筋痛や筋力低下を呈する多発筋炎などがあります。脳脊髄・末梢神経・筋肉の症状は上記の疾患以外にも肝障害や腎障害、糖尿病や甲状腺機能異常などの内分泌疾患、悪性腫瘍などを原因としても生じるため、内科疾患の知識も動員しながら診療しております。

少し古いデータですが、全世界で1990年から2015年にかけて、パーキンソン病の有病率、パーキンソン病による身体障害や死亡が2倍以上になったと報告され、2014年のメタ解析で世界の有病率データを世界の将来の人口予測に当てはめると控えめに言っても2015年の690万人から2040年には1420万人へ

倍増するとされ、パーキンソン病パンデミックと警鐘を鳴らす論文がありました。日本では2040年に全人口に占める65歳以上の人口の割合は35.3%になると推計され、パーキンソン病および関連疾患もますます増えていくこと（パーキンソン病に限らず脳卒中やアルツハイマー型認知症をはじめとする認知症性疾患も）が予想され、脳神経内科の必要とされる場面は非常に多いと思われます。

【令和3年度の実績および取り組み】

医療面では、脳神経内科のある急性期病院として、外来診療や他医療機関からの紹介患者の適時受け入れを行なっています。脳卒中や免疫性神経疾患などの急性期治療の後や神経変性疾患増悪時の治療後には、必要に応じ地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟での治療を継続し、病院から地域へとシームレスな患者対応ができるように診療をしています。神経疾患の診療には一般的に時間がかかり、認知症性疾患を疑う患者をはじめ神経疾患の初診にはかなりの時間を要します。このため受診の申込みから外来診察までの期間が長くなってしまうことが多くありました。この点を改善すべく新患者の予約枠を新たに作りました。

教育面では、神経内科専門医を4名、日本内科学会総合内科専門医2名を擁し、日本神経学会教育施設となっております。専攻医（後期研修医）の先生に当院独自で神経内科専門医資格を取得できる体制を引き続き取っています。さらに小樽市を含む後志医療圏内で中核的急性期病床および回復期リハビリテーション病床を有する当院を基幹病院とした臨床研修協力施設、新・内科専攻医研修基幹施設の認定を受けております。専攻医の先生には日本神経学会北海道地方会で症例報告も行なっていただきました。新型コロナウイルス感染症パンデミック下で学生受け入れに一時制限があったため今年度は例年より人数は少なくなりましたが、札幌医科大学から、必修クリニカルクラークシップ（5年次）として46名、神経内科選択クリニカルクラークシップ（6年次）として16名の医学部生を受け入れております。このような形で医学教育や若手医師の育成などに力を入れております。

【今後の目標】

神経疾患の診断および治療を適切に行うとともに、難治な例や治療法がない疾患においても最善なケアを提供していきたいと考えております。その中でも嚥下機能の低下や呼吸機能の低下などが伴う疾患では、栄養摂取の方法や呼吸補助の方法などの決定に様々な倫理的問題が伴います。患者本人だけでなく、介護に関わる家族などそれぞれに療養に対する考え方や希望

があり、それらを上手く抽出して患者自身にとって何が最適な療養かを多職種が関わり、意思決定支援を行うことが大変重要になります。

急性期疾患の治療が必要な認知症患者やせん妄発症者への対応能向上のため、認知症ケア推進室が中心となり認知症ケアチームでカンファレンスや回診を行っています。当科は認知症ケアやせん妄への対応を医師の立場からサポートし、病院全体のケアの質の向上を継続して行なっていきたいと考えています。

引き続き神経内科必修および選択クリニカルクラークシップの医学生を受け入れ、神経学的診察から臨床推論、鑑別診断、必要な各種検査、疾患ごとの治療について実践的に学べるよう指導していきたいと考えています。また新・内科専攻医研修基幹施設として専攻医の受け入れをしていきたいと考えています。

文責 脳神経内科部長 林 貴士

外科・消化器外科

【スタッフ】

氏 名	役職名	専門・認定資格等
木村 雅美	副診療部長	日本消化器病学会 指導医・専門医 日本外科学会 指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会 指導医・専門医 日本消化器外科学会 消化器がん 外科治療認定医 日本内視鏡外科学会 技術認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医
孫 誠一	外科部長	日本消化器病学会 指導医・専門医 日本外科学会 指導医・専門医・認定医 日本消化器外科学会 指導医・専門医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医
田山 誠	外科部長	日本外科学会 専門医
島 宏彰	非常勤医師	日本外科学会 指導医・専門医 日本乳癌学会 指導医・専門医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 検診マンモグラフィ読影認定医 乳房超音波読影認定医 エキスパンダー／インプラント実施医師
和田 朝香	非常勤医師	日本外科学会 専門医 日本乳癌学会 専門医 検診マンモグラフィ読影認定医 乳房超音波読影認定医

【部署の特徴】

当科では消化器疾患および甲状腺疾患の外科治療や、ヘルニア、乳腺疾患、肛門疾患の診断・治療を行っています。

「体にやさしい手術」を提供するために、「腹腔鏡による外科治療」を積極的に行ってきました。常勤の日本内視鏡外科学会技術認定医の指導により安全かつ質の高い腹腔鏡手術を提供していると自負しています。国内でも先駆的な平成3年より腹腔鏡下胆嚢摘出術を導入し、平成5年には胆嚢胆管結石症に対し一期的治療が行える腹腔鏡下胆管切開結石摘出術を開始しております。現在は、高精細な3Dスコープ等を駆使し、胃癌や大腸癌の外科治療においても、適応や安全に配慮しつつ積極的に腹腔鏡下手術を行っています。様々なヘルニア疾患をはじめ、急性胆嚢炎・急性虫垂炎・腸閉塞・潰瘍穿孔などの急性腹症での緊急手術にも実施しています。

当院の特徴である充実したスタッフにより、術後早期からリハビリテーションを積極的に行っています。術後早期離床を目指すことで合併症を予防し、ご高齢の方でも早期の回復・退院・社会復帰につなげています。

各種がん手術症例を中心に術後補助化学療法、進行・再発症例に対する化学療法を行っています。甲状腺内科との連携した手術、札幌医科大学乳腺チームと連携した乳がん診療も実施しております。緩和ケアチームの一員として緩和治療の一翼も担っています。

【実績（抜粋）】

年度	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年
胃切除術	0 (0)	6 (2)	9 (2)	1 (0)	8 (4)
胃全摘術	4 (0)	2 (0)	6 (2)	10 (3)	1 (0)
胆嚢摘出術	32 (31)	42 (38)	41 (41)	33 (33)	38 (35)
胆管切石術	13 (12)	5 (5)	13 (13)	4 (4)	6 (6)
結腸切除術	29 (15)	18 (9)	22 (13)	25 (17)	24 (13)
直腸切除術	8 (7)	7 (5)	6 (3)	5 (4)	8 (5)
直腸切断術	1 (1)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	3 (1)
虫垂切除術	11 (11)	14 (13)	6 (5)	15 (14)	15 (14)
鼠径部ヘルニア手術	29 (23)	32 (24)	33 (22)	28 (23)	35 (25)
腹壁疝ヘルニア手術	7 (1)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (1)
甲状腺手術	8	10	7	12	11
乳腺手術	2	2	2	0	0
肛門手術	5	5	7	3	4
外来手術	102	120	135	134	139
中心静脈ポート造設	74	84	64	77	75

【令和3年度の取り組み】

スタッフの異動はなく、常勤医3人体制でこれまでと同様に安全かつ質の高い外科診療を行えるように努めました。新型コロナウイルスの影響を病院内外から受けつつも、日常診療を維持してまいりました。感染対策に配慮しつつも、目立った手術件数の減少はなく、地域医療に貢献できたと思います。

【今後の目標】

近年、消化器がん治療は腹腔鏡手術の導入による低侵襲化、新規化学療法・集学的治療の開発、等々による予後の改善など飛躍的な進歩を遂げています。技術的な進化に遅れることなく研鑽を積み、患者様に還元できるよう努力を続けたいと思います。

地域の医療連携を推進し、これまで同様に内科・消化器内科とも連携して、切れ目のないより効率的な診療を行っていきたいと考えております。また、これからも札幌医科大学乳腺チームと連携し、後志管内のより広い地域の乳がん患者さんに対応してまいります。ニーズ増加した緩和的外科治療にも積極的に対応していきたいと思います。

文責 副診療部長 木村 雅美

整形外科

【スタッフ】

近藤 真章 名誉院長 整形外科専門医
 和田 卓郎 病院長 整形外科専門医、手外科専門医
 織田 崇 診療部長 整形外科専門医、手外科専門医、骨粗鬆症専門医
 池田 康利 整形外科医長 整形外科専門医
 藤本秀太郎 整形外科医長 整形外科専門医
 大嶋 崇史 整形外科副医長

【当科の特徴】

後志地区で最も整形外科医が多い医療機関として、1次救急から専門的な手術治療まで幅広く診療を行っています。膝、脊椎、手・肘については、常勤医が専門的な診療を担当しています。膝関節では、変形性関節症に対する人工関節置換術のほか、関節を温存する骨切り術、前十字靭帯の解剖学的再建術、損傷半月板を可及的に温存する縫合修復術の件数が多くあります。脊椎では顕微鏡を使用した低侵襲かつ愛護的な術式を採用し、手術件数が右肩上がり増加しています。手や手関節、肘では外傷のほか変形性肘関節症、上腕骨外側上顆炎の鏡視下手術の実績が豊富です。専門外来を担当する非常勤医による人工股関節置換術や鏡視下腱板修復も、2-4件/月のペースで手術を行っています。救急車の搬入や近隣医療機関からの転院要

請はほぼ断ることなく受け入れ、合併症や入院中に発生した偶発症に対しても他診療科からの力強いバックアップを得て対応しています。

【令和3年度の取り組み】

膝関節担当が池田医長に替わり、さらに手術件数が増加しました。藤本医長が脊椎担当として独り立ちし、より多くの病態に迅速に対応できるようになりました。助教として帰学した清水医師が股関節・骨軟部腫瘍担当の非常勤医として診療を継続することで診療のレベルと守備範囲を維持しながら、大嶋副医長の加入により多くの救急搬入に対応できるようになりました。

【今後の展望】

各専門部位で日本トップレベルの診療を提供すること、小樽で診療を完結できること、救急患者の受け入れ要請に迅速に対応することを目標としています。小樽・北後志地区において患者と医療者の双方に選ばれる整形外科を目指します。札幌医大整形外科との連携により医学生や初期研修医の育成にも取り組み、診療・研究・教育を3本の柱とした社会貢献を進めていきます。

文責 診療部長 織田 崇

手術実績（令和3年1月～12月）

骨折・外傷	
橈骨遠位端骨折	74
上肢骨折その他	80
大腿骨近位部骨折	143
下肢骨折その他	115
骨盤骨折	2
脊椎骨折	9
腱・神経損傷	13
開放骨折(指以外)	2
開放骨折(指)	1
抜釘	89

総手術件数 1097

変性疾患など	
肩関節唇形成術	1
ARCR	12
TSA+RSA	3
TEA	2
肘部管症候群	9
手根管症候群	54
滑膜切除(肘・手)	8
腱移行術	2
関節形成(手・指)	16
関節固定(手・指)	2
腱鞘切開	151
上肢その他	19
THA	27
TKA	65
膝関節鏡手術	54
膝靭帯再建術	17
膝周囲骨切り術	22
外反母趾	0
下肢その他	23
腫瘍	20
頸椎	8
胸椎	0
腰椎	54

泌尿器科

【スタッフ】

堀田浩貴 副院長：

日本泌尿器科学会、専門医、日本泌尿器科学会指導医、ICD（インфекションコントロールドクター）、日本性機能学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本医師会認定産業医、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医

安達秀樹 副診療部長：

日本泌尿器科学会 専門医・指導医、日本性機能学会 専門医

新海信雄 泌尿器科部長：

日本泌尿器科学会 専門医・指導医、日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会、泌尿器腹腔鏡技術認定医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、日本内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医、日本排尿機能学会認定医

【当科の特徴】

泌尿器科では、日本泌尿器科学会認定の専門医・指導医の資格を有する医師三名が診療を担当します。また北海道済生会小樽病院は、日本泌尿器科学会の専門医拠点教育施設の認定を受けております。

泌尿器科は、副腎・腎臓・尿管・膀胱・前立腺・陰茎・尿道・精巣などを対象として、これらのさまざまな症状や疾患を診察・治療する診療科であります。

診療内容は、泌尿器科一般（排尿障害、尿路感染症、尿路結石など）、悪性腫瘍、慢性腎臓病（腎不全、透析）、性機能障害（勃起障害：ED）などを中心に多岐にわたっております。

患者さんの病気・病状に合わせて、最善と思われる治療方法を検討し、十分な説明を行います。患者さんもお自身の病気・病状について充分にご理解いただいたうえで、説明と同意のもとに治療を行うことを目標として、日々診療に従事しております。

【実績】

I. 外来

外来は火曜日と金曜日は午前二枠、月曜日、水曜日、木曜日は午前各一枠、そして火曜日午後には性機能

専門外来を行っています。令和3年の外来延患者数は、8,432名でした。紹介率は48.0%、逆紹介率は54.3%でした。主病名による上位疾患は、前立腺肥大症、急性膀胱炎、過活動膀胱、神経因性膀胱、などでした。外来化学療法は前立腺がん症例などを中心に積極的に取り入れています。

II. 入院

令和3年の延べ患者数は3,391名、新入院患者数は328名、手術件数は237件、平均在院日数は15.5日でした。主な入院病名は、膀胱がん、前立腺がん、尿管結石症、慢性腎臓病、水腎症などでした。札幌医科大学泌尿器科と綿密な連携を図り、集学的治療により改善が期待できる症例は積極的に紹介を行っています。

III. 透析医療

他の治療法による改善が見込めず、自覚症状も認められる末期慢性腎臓病症例に対しては、今後の治療方法（血液・腹膜透析、腎移植等）に関する十分な説明を行っております。血液透析の導入は、本人の十分な理解が得られた症例に対して行っております。令和3年の新規導入患者数は10名でした。おおよそ60名の血液透析患者さんに対して、安全かつ快適な医療を提供できるように泌尿器科医師ならびにスタッフ一同日々奮闘しております。また長期的な入院による血液透析が必要な場合には、近隣の透析施設に治療を依頼しております。

【令和3年度の取り組み】

安全な医療の提供を第一として、患者さんが当院にかかって良かったと思っていただけるような泌尿器科医療の提供を目指しております、

【今後の目標】

札幌医大泌尿器科との提携を密として、より安全かつ信頼できる医療の提供ならびに地域貢献ができるような医療の実践を心掛けております。

文責 副院長 堀田 浩貴

【スタッフ】

菊地 未紗子 医長

(精神科専門医・指導医、精神保健指定医)

【当科の特徴】

令和2年4月に新設された当科ですが早いもので3年目を迎えました。入院・外来患者さんに対し、他職種からなる「緩和ケアチーム」を立ち上げ活動しております。医師、薬剤師、看護師、理学療法士、栄養士、社会福祉士の他、放射線技師も加わりより多方面でのサポートを、より細やかで丁寧に、時間をかけて一人一人の患者さん・ご家族へ対応が可能となりました。がんと診断された時から、その治療と並行して、身体だけでなく、心のつらさ、苦痛を和らげ、できるだけその人らしい快適な生活が出来るように外来・入院を通してサポートさせていただいております。

また、緩和ケア部門に限らず、他科通院中・入院中の患者さんにおける心理・社会的な問題についても対応させていただいております。不眠や不安、意欲低下、興味関心の減衰等の抑うつ症状や、認知症に伴う不穏、興奮、不眠等、様々な精神症状について精神医学的に対応しております。

【令和3年度の取り組み・実績】

緩和ケア外来では他院からの紹介と院内からの紹介が半数ずつを占めております。開設当初は8割が院外からの紹介患者さんで占めておりましたが、令和3年5月より開始した「がんスクリーニング」の実施により、当院でのがん治療患者さんへの、より早期からの緩和ケアの介入が実現しました。「がんスクリーニング」では、入院されたがん患者さんにおいて原則、全員に緩和ケアについての情報提供を行い、希望される患者・家族へ緩和ケアチームの介入を開始しました。当科開設以降、チーム介入数は約20件/月から、「がんスクリーニング」開始により現在では約30件/月と増えており、より適切な時期に適切な緩和医療や意思決定支援が行えるようになりました。また、「せん妄」や「看取りの時」についてのパンフレット作製によ

り、よりわかりやすく病態や今後の変化における社会的・経済的問題だけでなく心の準備についても整理できる時間を設けらるよう支援できるようになっていきます。現在のところ、ご案内した患者さんの9割以上が緩和ケアの介入を希望され、より充実した緩和ケアの介入ができるようになりました。

また本年度よりがん疾患だけでなく、末期心不全患者に対しても緩和ケアチームが介入することになりました。循環器チームと連携し「心不全の緩和ケア」について呼吸苦や倦怠感等の症状緩和や、意思決定支援、せん妄などの精神症状のコントロール等、なるべく症状緩和がはかれるよう努力していく方針です。

院内の精神科介入としては、せん妄予防について持続的な介入を継続しております。入院時にスクリーニングを実施し、せん妄ハイリスク患者においては認知症ケアチームと連携しケアの提供や、必要時は精神科医による薬物療法を行っています。(リエゾン介入件数200件以上/月)。ハイリスク患者へ入院時から徹底的に介入を行った事で、せん妄予防率は87%と良好な結果となっています。せん妄予防が可能となったことで、入院期間の短縮、予後の延長、認知機能への影響の改善、ふらつき・転倒率の軽減、身体拘束率の低下と様々なメリットが得られるようになっております。

その他、入院中のメンタルケアや認知症に伴う精神症状のコントロール、アルコール依存についての介入、不眠、不安等、幅広く他科からご依頼いただき対応させていただいております。

【今後の目標】

本年度から開始されたばかりである「心不全の緩和ケア」について、院内外での周知を行い、介入によりより症状緩和ができるよう緩和ケアチームの活動を活発化させていく予定です。また、後志管内の緩和医療を担うべく、より良い緩和ケアを提供できるよう他職種・地域医療の皆様とさらに協力しあい、質の高い医療を提供していきたいと思っております。

文責 医長 菊地 未紗子

医療技術部

■ 総 括

【医療技術部について】

※令和3年4月1日時点の状況を記載。

◆部門構成

- ・医療技術部長
- ・医療技術部次長
- ・薬剤室
- ・臨床検査室
- ・放射線室
- ・リハビリテーション室
- ・栄養管理室
- ・臨床工学室

◆医療技術部職員数 122名

◆職員構成

薬剤師	13名
臨床検査技師	9名
診療放射線技師	9名
理学療法士	41名
作業療法士	21名
言語聴覚士	7名
管理栄養士	6名
臨床工学技士	11名
助手	5名

【医療技術部理念】

私たちは、専門職種の壁を越えた協力体制を築き、患者さんが安心できる専門技術を提供します。

【令和3年度医療技術部目標】

- ☐ 確かな技術と知識の習得
- ☐ 安全・安心・納得して頂ける医療の提供
- ☐ 患者・家族・地域の満足度向上

【令和3年度の活動】

令和3年度の部門目標において、確かな技術と知識の習得としては人事考課制度を利用し、スタッフ一人ひとりが1年後の自分のあるべき姿を想像し、その理想のすがたに近づけるよう、職員一人ひとりが計画を期首に立案し、どこまで実行できたかを上司と共に期中に確認、期末に振り返るという取り組みを昨年度と同様に実施して定着を図る計画でありましたが、新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり、計画通りとはいかず概ね達成という状況です。

また、医療技術部会議も度々中止になるなど、各部署の状況を共有するのもコロナ以前の様にはいきませんでした。しかし、必要な情報はコメディックスを活用して情報共有したり、10月には役職者だけではなくLINEのグループを作り、院外にいても情報共有できる体制を整えたりとITを活用して情報共有するのにもすっかり慣れてきました。

一方、コロナの感染力は強力で一昨年までのように誰も感染者を出さないということは不可能で、本人の感染だけでなく家族の感染や家族の濃厚接触等が多数発生し、業務を遂行するのが厳しいという部署もありました。そんなときでも、みんなで知恵を出し合い、協力しあってピンチを乗り越えた1年でした。

【今後の目標】

令和4年度に関しても新型コロナウイルス感染症の終息を見通せない状況ではありますが、医療技術部として患者さんに安心・安全の医療を提供し続けることが最大の目標です。職員が感染してしまうことは仕方がないと思われかもしれませんが、病院のルールを徹底し感染が疑われる場合はきちんと検査をして陰性が確認されてから業務につくなど、院内にコロナウイルスを持ち込まないことで、患者さんに安心・安全な医療を提供し続けていきたいと考えております。

文責 医療技術部次長 松尾 覚志

薬 剤 室

【スタッフ】

氏 名	役 職	認定・専門資格等
上野 誠子	室 長	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト 介護支援専門員
鈴木 景就	課 長	日病薬病院薬学認定薬剤師 緩和薬物療法認定薬剤師（日本緩和医療薬学会） 麻薬教育認定薬剤師（日本緩和医療薬学会） N S T 専門療法士（日本静脈経腸栄養学会） 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
木島 紀子	係 長	
小野 徹	主 任	日病薬病院薬学認定薬剤師 抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会） 感染制御認定薬剤師 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
一野 勇太	主 任	腎臓病薬物療法認定薬剤師（日本腎臓病薬物療法学会） 認定実務実習指導薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
笠井 一憲		N S T 専門療法士（日本静脈経腸栄養学会） 健康食品管理士 腎臓病薬物療法単位履修修了薬剤師（日本腎臓病薬物療法学会） 認定実務実習指導薬剤師 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト 介護支援専門員 JPALS認定薬剤師（日本薬剤師会）
青木有希子		糖尿病薬物療法准認定薬剤師（日本くすりと糖尿病学会） 日本糖尿病療養指導士 高血圧・循環器病予防療養指導士（日本高血圧学会・日本循環器病予防学会） 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
村川麻里子	薬剤師	日本糖尿病療養指導士 認定実務実習指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師
中村 圭介		老年薬学認定薬剤師（日本老年薬学会） 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト
芦名 正生		外来がん治療認定薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会） 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
佐渡 望		高血圧・循環器病予防療養指導士（日本高血圧学会・日本循環器病予防学会） 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
又村 健太		
松田 浩紀		
西野 純子	薬剤助手	
金住 綾香		

【部署の特徴】

『安全な薬物療法を支援する』を基本に主に入院患者さんに対する治療の支援を行っています。内服薬・注射薬調剤が薬剤師業務の中心ではありますが、各病棟に担当薬剤師を配置しチーム医療の一員として業務を行っています。薬剤師としての基本的な知識・技能

を持ち合わせた上で、各分野における各種認定・専門薬剤師の資格を取得しながら日々自己研鑽に努めています。薬剤師間の風通しも良好で、専門知識を持つスタッフと日々ディスカッションを行い、適切な薬物療法の実践をめざし日々業務を行っています。

【実績】

調剤業務件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方せん枚数 (枚)	院外処方せん	6,467	5,855	6,099	6,156	6,130	6,174	6,253	6,347	6,280	6,051	5,304	6,446
	院内処方せん	68	52	37	47	43	56	40	39	26	32	33	37
院外処方せん発行率(%)		99.0	99.1	99.4	99.2	99.3	99.1	99.4	99.4	99.6	99.5	99.4	99.4
入院処方せん(枚)		4,851	4,291	4,600	4,740	3,974	4,786	4,740	5,264	5,446	5,201	4,869	5,346
入院注射処方せん(枚)		4,610	4,559	4,005	4,125	4,041	4,013	4,639	4,229	4,065	4,189	4,136	3,772

診療報酬関連

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
薬剤管理 指導料	ハイリスク薬	145	113	158	124	121	130	190	93	73	76	21	88
	その他の薬	136	128	125	132	83	121	159	91	97	62	39	96
	合計	281	241	283	256	204	251	349	184	170	138	60	184
	退院時薬剤情報管理提供料	23	6	7	22	20	3	4	2	7	0	0	2
	麻薬管理加算件数	9	6	27	12	10	20	17	4	2	2	1	1
無菌製剤 処理料	無菌製剤製剤処理料1	33	30	45	35	40	54	42	47	26	41	42	39
	無菌製剤製剤処理料2	193	243	174	200	244	287	359	248	170	231	256	278
抗悪性腫瘍薬処方管理加算		45	40	50	45	39	45	44	48	47	49	41	55
病棟薬剤業務実施加算		54	71	73	61	83	58	109	43	48	148	216	229
特定薬剤使用管理料(TDM)		4	0	10	6	6	10	14	10	10	8	2	6
薬剤総合評価調整加算		0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
がん患者指導管理料ハ		10	7	12	8	7	17	13	11	7	10	3	9

その他

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来面談件数(入院前)	38	31	43	46	46	40	63	54	47	50	27	44

【令和3年度の取り組み】

令和3年度は薬剤師数13名、調剤助手2名のスタッフでスタートしましたが、1月から1名が産休・育休に入り、年度末には薬剤師12名体制となりました。業務内容としては例年同様、調剤・注射調剤・院内製剤・無菌製剤・薬品管理・麻薬管理・医薬品情報管理(DI)・薬剤管理指導業務(病棟業務)・チーム医療への参画(感染対策チーム、栄養サポートチーム、がん化学療法、緩和ケアチーム、糖尿病チーム、褥瘡対策チーム、認知症ケアチーム)を行いました。

後発医薬品の使用推進を目指し、後発品使用割合は90%以上を目標にしています。みどりの里移転に伴い、一時的に下がった事もありましたが年度末には90%以上を達成できています。

薬剤管理指導件数は300件/月を目標に設定しまし

たが、コロナ禍で職員の勤務制限等の影響もあり、目標に達することができない月が多くなっています。病棟薬剤業務実施加算は算定要件でもある週20時間以上の病棟業務を行う事ができており継続して算定しています。

コロナ禍において各々が感染対策に取り組みながら業務を行っています。関連する業務としてワクチン接種ではワクチンの品質管理、数量管理に加え希釈・充填業務を継続実施しています。また、薬学実務実習生については院内立ち入りが制限されている場合はZoomを活用した遠隔実習に変更し、すべての期間で滞りなく終了することができました。

地域における役割としても地域薬剤師会、病院薬剤師会との連携を深め情報の共有を図っています。臨床研究に関しては学会がオンラインでの開催された中、2件の発表を行いました。学会・研修会についてはオ

ンラインで参加しやすい環境でもあるため、積極的に参加できています。

3月から服薬指導システムが導入されました。電子カルテと連動した新たなシステムを導入することで病棟薬剤師業務の効率化が図れ、算定件数の増加、また、持参薬のシステム導入により医師の負担軽減、医療安全に寄与できるものと考えています。

【今後の目標】

令和4年度は服薬指導システムの導入により、業務効率化を図る事ができる環境になりました。人員配置の見直し、業務の更なる効率化を図り薬剤管理指導件

数増加による増収と共に安全管理の向上に努めていきたいと考えています。12月以降に育休明けの薬剤師が復職することで薬剤管理指導件数の増加を見込めますが、出勤制限は今後も続くと思われます。その中でも他部署の協力を得ながら病棟・外来業務を継続していきます。また、医薬品情報管理室を中心に後発医薬品への切り替えも薬事委員会の提案を継続していきたいと思います。今後もチーム医療の一員として質の高い業務を行うため、専門薬剤師の養成・更新等などの人材育成を今後もすすめていきます。

文責 技術課長 鈴木 景就

資格の更新

医療技術部 薬剤室 青木 有希子

資格を取得後、日本糖尿病療養指導士9年、高血圧循環器予防療養指導士6年、糖尿病薬物療法認定薬剤師2年が経ちました。その間に子供を2人産み、公私共に忙しい毎日を送っていますが、資格には更新があり、大抵の資格は5年ごと更新となります。資格更新には学会発表や自験例の提出、単位取得などが必要になり、子供がいない頃は、仕事後の時間も比較的自由が利き、勉強会や学会参加、発表の準備などが容易にできましたが、子供がいる今はなかなか自分の時間自体をとることが難しいのが現実です。しかし、幸か不幸かコロナ禍という時代がやってきたため、Web学会や勉強会が急速に進み、大方のものは自宅にいながら取得できるようになりました。もちろん現地に行つて、その雰囲気を味わいながら集中的に勉強して、ちょっと観光でもして帰ってくるというのも、とても有意義なものではありましたが、子育て世代にとっては、子供を置いて学会に行くのは後ろ髪が引かれる思いがあり、ましては一人目が小さい時は、我が子を置いて、祖父の元で泣き叫ばれながら後にするのは、結局学会に集中できませんでした。この環境下を逆手に

取って、子育て世代の資格取得、現場での活躍が進むといいのではないかと考えています。ただ仕事と子育てをされていて思うのは、バランスをどう取っていくかは、その家庭其々で違うと思います。子育ては、今しかない、可愛い時期はほんの一瞬という話もよく耳にします。資格を取ったから、全力で仕事をやらなきゃいけないという負担にするのではなく、将来の自分の糧のために、取りやすい時期に取得しておいて、子育てが終わったら全力で資格を生かすでもいいのではと個人的には思っています。どちらも80%くらいの力でストレスをため込みすぎず充実した毎日を送りたいと思っています。



臨床検査室

【スタッフ】

木谷 洋介	技術係長	
岡本 晃光	技術主任	糖尿病療法指導士
高橋 賢規		
小林 拓真		
向田 真綺		
伊藤 朱莉		
嶋 優人		
一條 周一		
中畑亜紀子		
伊藤 千春	(助手)	

【部署の特徴】

検体検査や生理検査等の検査業務が主となりますが、院内の様々な支援業務を行い医療技術部の枠を超えて、診療部・看護部・事務部等の部門間の連携がスムーズ行われるように技術支援を行っている部門と考えています。また、今年度は新型コロナ遺伝子検査分析機を導入したことにより、院内での迅速な検査体制が整い、入院時のスクリーニング検査や発熱外来等の検査を実施しています。

【実績】

(検体検査)

生化学	免疫	血液	検尿	血糖・HbA1c	止血機能	血型	交差試験	輸血人数	CGM
41,300	12,203	36,387	25,232	35,307	5,689	1,918	1,467	535	15
△3373	△1350	△3023	△2193	△3018	△732	▲421	△130	△35	△2
108.9%	112.4%	109.1%	109.5%	109.3%	114.8%	82.0%	109.7%	107.0%	115.4%

(生理検査)

心電図	ホルター心電図	肺機能検査	眼底検査	聴力検査	トレッドミル	ABI
7,574	109	1,202	198	3,491	7	229
△574	▲4	△78	△52	△580	▲8	△55
108.2%	96.5%	106.9%	135.6%	119.9%	46.7%	131.6%

頸動脈エコー	NCV (技師)	脳波	睡眠検査	心エコー (技師)	下肢静脈エコー
67	0	187	21	656	154
△12	0	△55	△17	▲26	△44
121.8%	0%	140.6%	525%	96.2%	140.0%

【令和3年度の取り組み】

- * コロナ禍の影響により昨年度は検体検査数が減少しましたが、今年度は検体検査及び生理検査件数が回復しました。また、今年度は、昨年度に引き続き、新たに新型コロナウイルス遺伝子検査分析機を10月に1台導入し、感染時のウィルス量を把握できるようになりました。これにより、入院時前検査や職員が職場復帰をするための目安としています。今年度の院内コロナ検査件数は5121件でした。
- * 今年度は新入職者1名が入り、職場の年齢層が若返りました。超音波検査など、色々な検査ができるようにしていきたいと思っています。

【今後の目標】

昨年同様診療部・看護部など病院全体から検査に関して必要とされる様々な事柄に丁寧に対応していきま。医療技術部の横のつながりをより密にして患者さん、病院運営に更に貢献できるように活動していきま。若手技師へのスムーズな業務の移行、教育支援を強化していきま。様々な勤務形態の中で働きやすく、能力を発揮できるような職場環境作りを目指していきま。

文責 技術係長 木谷 洋介

どういう検査技師になりたいか

医療技術部 臨床検査室 嶋 優人

済生会小樽病院の新入職員として働き始めて約1年半が経ちました。検査室から出ることが少なく、私のことを認知している人は数少ないと思います。私も顔と名前が一致している人は数えられるくらいしかいません。なので、軽く自己紹介をします。平成10年生まれの24歳で大学を卒業してすぐ入職しました。出身は小樽と同じ後志の黒松内町、高校は札幌市、大学は茨城県です。趣味はスノーボードと釣りです。小樽には良いスキー場があるのでぜひ行ってみたいと思っています。学生時代は野球を12年間やっていたこともあり、体を動かすことが好きです。最近の休日はドライブをして気分転換しています。何の話題でも話しかけてくれるととてもうれしいです。ぜひ、気軽に話しかけてください。自己紹介はこれくらいにしておきます。

検査は大きく分けて、7つに分けることができます。一般検査、生理検査、血液検査、生化学検査、病理検査、細菌検査、輸血検査。ちなみに、当院では主に一般検査、生理検査、血液検査、生化学検査、輸血検査の5つを検査室で行っています。私は学生時代、輸血検査に興味があり将来は輸血検査を詳しく学び認定輸血検査技師になりたいと思っていました。認定輸血検査技師とは一言でいうと「輸血検査について詳しいですよ」と伝えられる認定資格です。ですが、実際入職して先輩方の働く姿を見て考えが180度変わりました。もちろん認定輸血検査技師の資格も取りた

いですが、どの部門の検査もオールマイティーにできるスーパー検査技師を目指したいと思いました。病院によっては1つの部門の検査の専門性は高いのですが、他の部門ができない検査技師の方もいらっしゃいます。ですが、当院の先輩方はどの部門でも検査ができます。私はまだ知識や技術が足りなくまだできない検査があります。次の年報が出るころには先輩方のような、どの検査もオールマイティーにできるスーパー検査技師になりたいと思っています。

また、すべてできるオールマイティーな検査技師になれば、どの部門でもいいので専門的な知識も習得したいと考えています。前にこんなことがありました。働き始めてすぐのことです。私は先輩の技師について処置室にポーター心電図に行きました。患者さんは意識がもうろうとしていました。ドクターは心室中隔欠損などの循環不全だと思い心電図をオーダーしたそうです。ですが、心電図をとってみると心電図には特に異常が見られませんでした。その時、検査技師の先輩が「私は心電図に特に異常が見られないので、別の原因が考えられると思います」と言いました。自分の知識に自信がないとはっきりとドクターに意見することは難しいと思います。ですが、先輩技師は自分の知識、経験から意見していました。その出来事から検査をするだけではなく、先輩のような結果から考えられることをコメントとして伝え、ドクターが診断する材料を少しでも増やすことがとのできる検査技師にもなりたいと思いました。

最後にまだまだ分からないことがたくさんありますが、これからも頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

放射線室

【概 要】

令和3年度、放射線室は診療放射線技師10名、受付1名の11名体制で日々の業務に努めました。

当院は、令和3年2月から地域包括ケア病棟にて新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを開始したことで、令和3年度は通常業務とコロナ業務を並行して行った大変忙しい1年となりました。

通常業務としては一般撮影、移動型X線撮影（ポータブル撮影）、骨密度測定、X線透視（主に検診の胃バリウム検査）、手術中X線透視・撮影、CT、MRIこれらの業務を1週間ローテーションで行いながら、一部の技師は腹部・甲状腺超音波検査を、また、女性技師は乳房X線撮影業務を担当しました。

夜間および日曜・祝祭日も当番制で、呼び出し対応にて緊急撮影業務にあたりました。

一方、コロナ業務としましては、入院時のスクリーニング胸部～骨盤CTの実施。また、経過観察やCV挿入後の胸部ポータブル撮影を行いました。

【スタッフ】

放射線室長 松尾 寛志
技術係長 釜石 明、佐藤 政弘
技術主任 舟見 基
技 師 久保田裕美、本村 暁子、高橋 志織、
但木 勇太、内藤 格、小林 洸貴
助 手 森 尚美

【設備機器】

・一般撮影装置 (FPD3台)
・移動型X線撮影装置 (3台)
・乳房X線撮影装置 (1台)
・外科用X線透視装置 (2台)
・骨密度測定装置 (DEXA) (1台)
・X線透視装置 (2台)
・CT (80列MDCT) (1台)
・MRI (1.5T) (1台)
・超音波検査装置 (1台)
・放射線情報システム (RIS) (1式)

【令和3年度 検査実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
単純撮影	1,970	1,762	2,059	1,921	2,035	2,005	2,029	2,376	1,988	1,896	1,685	2,039	23,765
乳房撮影	10	11	19	22	27	29	46	24	25	18	17	21	269
ポータブル撮影	197	203	224	226	207	197	213	222	273	220	192	232	2,606
C T	505	414	456	543	546	495	525	496	483	559	451	521	5,994
M R I	309	278	306	314	272	295	311	293	326	275	255	329	3,563
造影・透視	43	53	105	89	118	138	131	130	82	59	87	100	1,135
骨塩定量	87	102	126	116	106	104	120	129	155	112	91	111	1,359
E S W L	1	0	1	0	2	1	0	1	0	0	1	1	8
オペ室	95	69	99	94	109	99	103	102	115	114	94	108	1,201
造影・透視(内視鏡)	67	48	45	54	51	55	78	88	81	54	65	70	756
嚥下造影(V F)	9	7	3	4	6	2	3	1	10	4	5	5	59
超音波検査	67	52	78	103	119	89	114	108	134	96	70	84	1,114
合 計	3,360	2,999	3,521	3,486	3,598	3,509	3,673	3,970	3,672	3,407	3,013	3,621	41,829

【令和3年度の取り組み】

・新型コロナウイルス感染症患者に対して安全に接することが出来るように、X線CT装置、超音波検査装置、ポータブルX線装置の更新を行いました。更新により検査の効率化が図られ、安全かつ高速に検査実施可能になりました。技師だけでなく医師からも好評を得ています。また、コロナウイルスとは関係なく、手術室の外科用透視装置が更新時期を迎えたことから、I.I式のものからFPD式の装置に更新

されました。

・新型コロナウイルス感染症が小樽に広がり始めた当初、感染症患者の撮影業務は一部の技師だけで担当していましたが、コロナ病棟を開設したことで、一部の技師だけでは対応できなくなり、全員で担当することにしました。撮影はフルPPEでの撮影となる事から着脱の手順を忘れないように、なるべく平等に担当が回って来るように配慮して撮影業務に努めました。

当初は2人がペアになってポジショニングと撮影を行い、感染リスクを抑えていましたが、患者数の増加により対応が困難になったため、休日や夜間時は1人で行うようにオペレーションの見直しを行いました。

- ・技師の業務範囲が拡大されました。講習を受講後、告示研修を受講することではじめて業務範囲が広がるのですが、今までは想像も出来なかった造影検査時のルート確保が可能になるなど、大きく業務の流れが変わってきています。残念ながら、この告示研修を終了した技師が当院では1名しかおりません。今後、修了者が増えた際には、タスクシフトやタスクシェアが大きく進もつと考えられます。
- ・当院では以前から読影の補助を実施していますが、年度末に退職された医師から『読影の補助にすごく助けられた』というお言葉をいただくことができました。日頃から色々な先生に、お礼の言葉をいただきますが退職時にも言っていただけたということは、本当に先生の診断の役に立てたのだと、技師冥利につきます。

【今後の目標】

令和4年度も通常業務とコロナ業務を並行していかなければならないと考えられることから、業務中の感染が起これないように注意していきたいと思います。また、日常生活の中で感染することは、もはや避けられないくらい感染爆発がおこっております。感染しても放射線室に持ち込まない。をモットーに業務を遂行していきたいと思います。

コロナが発生してから講演会等が中止され勉強の機会が大きく失われました。しかし、一方でオンラインでの開催が多くなり、聞く場所を選ばないオンラインでの講演会の案内がたくさん来るようになりました。このオンラインでの講演会を活用して、最新の知識を習得し、患者さんに最高の医療を提供できる様に努力していきたいと考えています。

令和3年度から開始された告示研修を全スタッフが早期に終了してはじめてタスクシフト、タスクシェアの話が出来ると考えられることから、全員が受講を早く終えることも、放射線室の目標にしたいと考えております。

文責 放射線室長 松尾 覚志

こんな母ですが

医療技術部 放射線室 本村 暁子

早いもので、私が済生会病院に入職して3年がたちました。

私は大学卒業後、主に健診センターで働いており、病院での仕事はいまだに不慣れなことが多く、時に命に直結するという緊張感を持って働いている日々です。

思えば、私は自分の妊娠出産時に初めて「命」に直面しました。妊娠が体に合わなかった私は6か月ほどしか娘をお腹の中で育てることができませんでした。妊娠がわかってから私の体調は日々悪化…そんな私とは裏腹に、娘はお腹の中で元気いっぱい。産科の先生から「小さいけど元気に生きているよ」という言葉を信じて帝王切開で出産しました。1816gの赤ちゃんは本当に小さくて保育器の中で何本のチューブにつながっていたことか。そのチューブが1本ずつ外れ体重が3000gになった時の感動と感謝は今でも忘れられません。

そんな娘も10歳になり、もうすぐ私の身長に追いつきそうです。よく食べてよく寝て、風邪すらひかな

い健康体です。一緒にテレビを見て「この人かっこいいよね〜」なんて話をするようになろうとは…。

10年の間には弟が生まれ、その弟が入院、手術をするという経験をしました。大切な人が亡くなるという経験もしました。普通にごはんを食べられて、普通に眠れる生活は当たり前ではないと理解するのは難しそうですが、自分の周りには支えてくれる人がたくさんいて、その人たちへの感謝の気持ちを忘れずにいて欲しいと願うばかりです。

私はというと、そんな娘に弟の世話を任せっぱなし、両親にも迷惑をかけっぱなしで…感謝です。



リハビリテーション室

【概要】

算定疾患別リハビリテーション料

- ・脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ
- ・運動器リハビリテーション料Ⅰ
- ・心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ
- ・呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
- ・がん患者リハビリテーション料

【スタッフ】

室長：平塚 渉
 課長：髭内 紀幸
 係長：松山 朋也、山中 佑香
 主任：松村 真満、高橋 靖明、加賀 潤輝
 理学療法士：41名 作業療法士：24名
 言語聴覚士：7名 助手：1名

【業務内容】

地域の中核的医療機関として地域に密着し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が各々の専門性を生かして協働し、患者さんを中心としたリハビリテーションを提供することで、患者さんの生活・社会復帰を支

援しております。

対象としては運動器疾患、脳血管疾患、神経難病、内部障害（呼吸器疾患、循環器疾患、がん、糖尿病など）等、多種多様な患者さんへ病期に問わず介入しております。

【リハビリテーション室の特徴】

急性期病棟では受傷（術後）早期から介入し、多職種と協働しながら早期離床を促します。また、域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟とも連携を図りながら、早期回復を目指したりハビリテーションを提供しております。

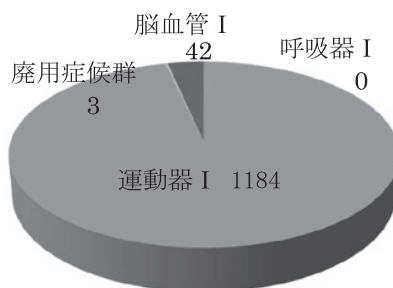
回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟ではチーム一丸となって患者さんへのリハビリテーションを提供し、患者さん個人の生活背景や生活環境を意識しながら、再びその人らしい生活が送れるよう支援しています。

また、各種専門外来（肩・手・肘・膝・スポーツ、骨粗鬆症、内分泌）、各チーム（NST栄養剤・摂食・呼吸、緩和ケア、認知症ケア、内分泌・糖尿病）へ積極的に協力し、より高い専門技術の提供に努めています。

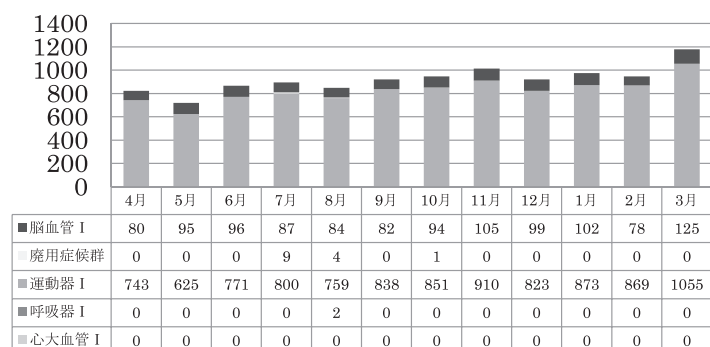
【実績】

処方

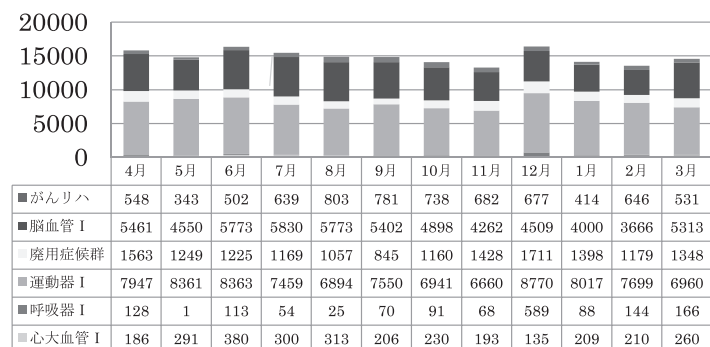
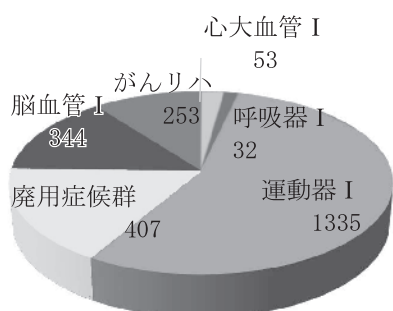
外来



単位数



入院



【令和3年度の取り組み】

感染対策の徹底：昨年度に引き続き、リハビリテーション室では①リハビリスタッフの体調管理徹底 ②標準予防策遵守 ③環境消毒や室内換気の習慣化 ④時間差出勤によるリハビリスタッフ及び患者様の分散化 ⑤密室・密集・密着を避けた環境整備の徹底 ⑥外来リハビリと入院リハビリのゾーニング継続 ⑦外来リハビリ予約調整による来室患者数の分散化 ⑧リハビリスタッフ防護対策強化の実施 ⑨外来リハビリ患者様の問診（体調等）と検温チェックの継続など、感染対策の徹底を図ることで、安心で安全なリハビリテーション提供に努めてきました。

心大血管リハビリテーション：4月からは、循環器内科医師や病棟看護師と連携を図りながら、慢性の心大血管疾患患者に対しても、積極的なリハビリテーションを提供してきました。並行して、ベッドサイドモニターなど、評価機器の老朽化に対し、切り替えの見直しを行うなどリスク管理体制強化の構築を目指してきました。

COVID-19病棟へのリハビリ介入：5月からは多職種との連携を図りながら、急性期リハビリスタッフによる新型コロナウイルス感染患者へのリハビリテーション直接介入を開始しました。介入当初より呼吸状態悪化が認められる重症患者もみられ、酸素化を目指した体位変換や呼吸機能改善のための可動域訓練や全身状態に合わせた運動療法の実施に努めてきました。

地域との連携強化：今年度も感染症拡大予防の為、リハビリテーション室主催の市民公開講座、小樽市医師会主催の健康教室、院内主催の健康セミナー、介護従事者向けの出前健康教室、中高校生を対象としたコメディカル体験ツアーや野球検診、済生会健康フェスタ・地域主催の健康フェスタ等々、数多くの活動が中止となりました。しかし、一方で、昨年度に引き続き、令和3年度老人保健健康増進等事業（厚生労働省）協力に関わらせていただきました。喜茂別町と当院では遠隔システム（以下ICT）等を効果的に活用しながら地域個別ケア会議を開催し、ケアマネジャーや行政の方との積極的な意見交換を行うことができました。また、新たに第8期後志広域連合介護保険事業計画等推進支援業務委託として「リハビリテーション専門職と連携した住宅改修の介護給付費適正化と自立支援の推進に向けた体制整備について」というテーマで共和町の行政・専門職と連携する機会を持つことができました。喜茂別町と同様、ICTを有効活用し、複数の介護保険対象者のモデルケースへの関わりを通じ、1）住宅改修の支給決定に関わるリハ職による評価の可能性、2）高齢者の生活機能評価を踏ま

えた住宅改修、3）1）2）を円滑に実施するための多性整備や実施方法等について、意見交換を行うことができました。昨年度からの継続的な研究事業協力を通じ、今年度は「ICT活用型高齢者の自立支援・重症化防止に向けた外部リハビリテーション専門職との連携マニュアル」の作成に貢献することができました。更に今年度は、小樽市委託事業として骨粗鬆症に関連する二次骨折予防事業（ハイリスクアプローチ）への協力も他職種と連携しながら積極的に行ってまいりました。

グループ施設との連携強化：昨年同様、関連施設の老人保健施設 はまなすへ当院スタッフが定期的に出向し、入所リハビリテーションや訪問リハビリテーションを提供することで、横断的な在宅復帰支援を継続することができました。

糖尿病運動指導：今年度も感染拡大の影響で、一般市民の方を対象とした健康増進教室や日本糖尿病協会協賛の小樽ウォークラリーなどの企画が中止となってしまいました。

学術活動：今年度は、オンラインによる学会・研修会の開催が主体となりましたが、作業療法課・理学療法を中心に、学会発表・症例検討会・講演等を行ってきました（下記参照）。

・第64回日本手外科学会オンライン学術集会

「母指CM関節症に対する関節形成術の満足度に関する要因の検討」

「橈骨遠位端骨折術後の患側手の満足度に影響を与える因子の検討」

・日本作業科学研究会 第24回学術大会（オンラインで口述発表）

「農業からの引退！OTが関わった高齢男性の作業的移行」

・第51回北海道作業療学会

「北海道における筋電電動義手に対する認知度と課題」

「地域包括ケア病棟での肺がん患者に対する介入」

「二次産業の半導体製造労働者におけるストレス応答ホルモン濃度、血糖値、主観的疲労度の経時的変化」

・第140回北海道整形災害外科学会

「運動恐怖回避思考が橈骨遠位端骨折後の成績に与える影響の検討」

・第7回日本臨床作業療学会

「語りに基づく作業と役割の提供により退院後の目標設定に繋がれたがんの事例」

・北海道理学療法士会 後志支部 第2回研修会 症例検討会

「COVID-19症例の介入を通して」

・第5回ヘルスケア ロボット展 セミナー講演

「医療・介護における遠隔ICTの有効活用 ～地方自治体と外部リハ職との連携による高齢者の介護予防推進研究事業を通して～」

・リハビリテーション連携強化研修会（zoom）

「令和2年度介護予防推進研究事業内容の紹介」

・慢性疼痛診療ガイドライン研修会

「慢性疼痛に関するグループディスカッション」のファシリテーターとして参加。

・第16回QC活動：テーマ「経費削減・業務改善」

最優秀賞（院内表彰）

「モーニングリハビリによるリハビリ実績指数・病床利用率向上への取り組み」

優秀賞（院内表彰）

「目標設定等支援・管理料算定」

参加賞

「新人教育用入院時業務マニュアルの見直し」

その他の活動協力：

・東京オリンピックの開催にあたっては、札幌マラソン・競歩競技への理学療法士ボランティア派遣要請に対し、理学療法士1名の派遣協力を行いました。

【今後の目標】

次年度も引き続きリハビリテーション室では、万全な感染対策を行いながら、安心・安全でかつ患者様にとって最高のリハビリテーションが提供できるよう取り組んでいきたいと考えます。具体的には、「患者様の治療ファーストの考え方」を推進し、可能な限り、患者様に寄り添ったリハビリテーションの提供を目指します。併せて業務効率化を図りながら、時間外業務量の削減を図ることを継続し、ワークライフバランスの安定を目指します。顧客の視点では、患者様を迎え入れる準備（清潔保持・整理整頓）、患者様に接する際の姿勢・態度・言葉遣いなどについて、常に「初心」を忘れず丁寧に対応することを心がけ、「かかって良かったと思う病院」を目指していきます。地域健康増進に関しましては、今後しばらくは、感染拡大防止の観点から従来のような市民公開講座や健康教室等の積極的な開催は難しいと考えられますが、感染状況に合わせながら、済生会ビレッジにて多職種協働で企画しています「健康相談会」や「介護予防啓蒙活動」等へ積極的に参加することで、地域住民の皆様に対して貢献できればと考えております。

【理学療法 PR】

令和3年度は引き続きコロナ禍ではありましたが、今まで通り可能な限り住み慣れた環境へ戻れるよう、十分な感染対策をして早期から積極的に関わりシームレスに機能回復を目指すよう取り組みました。

院内での取り組みとしては、COVID-19病棟患者

への間接的・直接的介入の開始、心大血管リハビリテーション介入の強化などへ尽力いたしました。

院外での取り組みとしては、昨年度に引き続き、オンラインシステム等を活用した遠隔診療への関わり・地域医療介護従事者との交流、学術活動へも精力的に関与しました。また、感染対策を徹底した環境下で、東京オリンピック2020へのボランティア活動へ参加するスタッフ、骨粗鬆症に関連する二次骨折予防事業へ協力するスタッフと、withコロナに向け様々な活動へ参加させて頂きました。

今後も、地域へ貢献できる様に研鑽しながら励んでいきます。

【作業療法 PR】

令和3年度もCOVID-19の影響を受け、作業療法部門の強みである地域での作業訓練（外出しての買い物訓練、公共交通機関の利用に向けた外出訓練）の積極的な参画が制限されざるを得ない状況にありました。その中でも類似した環境下で患者様が退院後も住み慣れた小樽・後志で安心して暮らせるよう日々精進しております。質の高い作業療法が提供できるようオンラインでの院内・院外勉強会や学会にも積極的に参加しております。今後も更なる発展と患者様の笑顔のためスタッフ一同も笑顔で充実した時間を過ごせるよう頑張っていきます。

【言語聴覚療法 PR】

令和3年度はCOVID-19により言語療法も大きく影響を受け、嚥下機能障害や構音障害などの主に口腔機能に障害を有する患者様へのリハビリテーションに対して対応を考えさせられる1年でした。スタッフの感染予防はもちろんのこと、患者様に対しての感染対応として、環境調整・環境配備をより一層強化し日々の業務に取り組んでまいりました。

院外の活動に関しては、後志地方の医療従事者が不足している町村へのオンラインを使用した助言等で活動を進めておりました。今後も言語療法として地域に根差したリハビリテーションの提供はできるよう、スタッフ力を合わせて日々の臨床業務に励んでいきます。

文責 技術室長 平塚 渉

1年を振り返って

医療技術部 作業療法課 渡邊 日可里

社会人一年目に、熱や吐き気など体調不良に陥ったことがある人は少なくないのではないのでしょうか？私も経験し、慣れない環境や人に対し、気づかないうちにストレスを抱えていたのだと思います。そんな中、この一年を乗り越えられたのは、食事やボウリング、花火に誘ってくれる先輩がいたり、気にかけてくれる家族がいたりと周りの人に支えられていたからだと思います。

私の家族の話になりますが、私は5人と1匹家族で愛犬は15歳。日々年老いていきますが、家族から送られてくる写真や動画を見ると疲れを忘れてしまうくらい幸せな気持ちになります。両親は帰省をしたら美味しいご飯で迎えてくれて、2人の姉とは同じ趣味をもち、推し活をしたり車中泊をしたり、時には相談に乗ってくれたり、と思えば家族みんなが私の心のケアをしていてくれました。

恵まれた環境で周りの人に支えられたからこそ、社会人2年目を迎えられるのだと思います。感謝してい

ます。こんな素敵な人に囲まれている私のように、患者様にも大切な人がいると思います。私は定期的に連絡を取ることはできていますが、患者様は連絡がとりにくかったり、コロナ禍で会うことが出来なかったりと制限された環境で暮らしています。どんな人でも大切な人と少しでも長く過ごせるよう、今度は私が支える立場となり、寄り添ったりリハビリテーションを提供できるよう精進していきます。



ボウリングの上手な先輩たち

COVID-19病棟でのリハビリ介入を経験して

理学療法課 リハビリテーション室 廣田 正和

令和2年に国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されて以降、急速に感染が拡大し、令和3年2月には当院での新型コロナウイルス感染患者の受け入れが始まり、その後、病棟からの要請により5月31日から理学療法士による直接的な介入が始まりました。

当時は、全国的にも理学療法士が新型コロナウイルス感染患者に直接リハビリ介入することは稀であり、ほぼ前例がない状態からのスタートでした。もちろん感染対策を講じながらの介入ではありましたが、もし“自らが感染してしまったらどうしよう”と恐怖・不安を感じながら関わっていました。しかし、すぐにその不安は解消され、“これだけしっかり感染対策をしていれば大丈夫”と思えるようになりました。何度も感染対策を指導して頂いたICT・病棟看護師に深く感謝しております。

介入していく中で、“自ら感染する不安”から“患者さんが良くならなかったらどうしよう”という不安へと変化していきました。呼吸理学療法に関わるスタッフと何度も意見交換をし、今までの経験を踏まえ

て介入内容を検討し、効果が得られた時には達成感を感じることが出来ました。しかし、一方で治療の甲斐なく亡くられる患者様も経験しました。本来であれば、より高度な治療が必要であるにも関わらず、感染拡大が深刻化しており医療資源が限られているという理由で治療ができないという、もどかしい思いもしました。私たちに出来ることは限られていますが、この経験を少しでも多くの方に伝え、今後の新型コロナウイルスとの関わりに役立てていきたいと考えています。



呼吸リハスタッフ

栄養管理室

【概要】

(1) 臨床栄養管理業務

チーム医療の一員として多職種と連携した栄養管理を行っています。適切な栄養アセスメントや栄養指導を実施することで、患者さんの食生活を変容させ、栄養状態や食事の内容、摂り方などを改善し、健康の維持・増進、疾病の予防や疾病の治療に寄与することを目的としています。

(2) 給食経営管理業務

病院給食は、通常の食事とは異なり医療行為の一環として実施されるものです。疾病治療あるいは治療上の医療効果を高めるために必要な栄養源の補給を行い、衛生管理に十分配慮し、安全で安心な給食を継続的、かつ安定的に提供し、患者さんの食への楽しみに対する満足度を得ることを目的としています。

(3) 沿革

・給食管理業務は、平成16年より給食委託会社へ業務委託しています。平成30年4月1日～令和3年3月31日の期間においては、日清医療食品株式会社と締結しています。

平成25年度以降、温冷配膳車・選択メニューの導入、お楽しみ食の拡充など患者サービスの向上に努めています。

・令和2年9月に小樽病院と重症心身障がい児(者)施設みどりの里が統合し、急性期から回復期までの医療と福祉の栄養管理を管理栄養士6名体制で行っています。

【栄養管理室 理念】

- ・患者さん一人ひとりの状態に合わせた栄養管理に努めます。
- ・安全で安心して食べられる、家庭料理に近い食事の提供に努めます。
- ・退院後も継続できる食事療法の支援に努めます。
- ・患者さんに栄養と笑顔をお届けします。

【スタッフ】

(1) 職員構成

- ・臨床栄養管理業務 技術課長：多田 梨保
技術主任：權城 泉
管理栄養士：一島 妃東美
管理栄養士：小貫 留美子
管理栄養士：栗田 靖子
管理栄養士：西澤 一步
管理栄養士：奥嶋 寿美子
(産休代理)

・給食経営管理業務 日清医療食品株式会社 計26名

管理栄養士：2名

栄養士：4名

調理師：8名

調理員：11名

事務員：1名

(2) 認定、専門資格の現状

(同一管理栄養士の重複資格取得あり)

・病態栄養専門(認定)管理栄養士 3名

・がん病態栄養専門管理栄養士 1名

・NST専門療法士 3名

・日本糖尿病療養指導士 2名

・日本栄養代謝専門療法士 1名

・静脈経腸栄養(TNT-D)管理栄養士 1名

・栄養経営士 1名

・人間ドック健診情報管理指導士 1名

【当部署の特徴】

臨床栄養管理業務では入院早期に栄養計画を立案し、患者個別に必要な栄養量を算出、病態を把握し、適切な食事が提供されるように、医師・看護師など多職種に働きかけています。提供された食事が、きちんと患者さんに摂取されるよう、食欲不振がある場合など個別に嗜好調査を行い食べていただけるように食支援を行っています。給食経営管理業務には、臨床栄養管理・給食経営管理のどちらの知識も持ち合わせていなければ、患者さんの栄養管理は行えません。そのため、給食提供における運営方法、臨床栄養学に基づいた献立作成についてまとめた給食管理業務マニュアルを作成しています。

チーム医療にも積極的に参画し、NSTをはじめ、緩和ケア、糖尿病ケア、認知症ケアにおいて、臨床栄養管理を行っています。外来患者さんにおいても、栄養教育として継続的に様々な栄養指導を行い、疾病の改善・予防に努めています。

【実績】

(1) 栄養指導実施件数

入院 個人指導		147件
外来 個人指導		366件
糖尿病透析予防指導		5件
特定保健指導	動機付け支援	2件
	積極的支援	0件
合 計		521件

(2) 栄養情報提供書の作成：72件

栄養補助食品の付加	51件
嚥下食	11件
経腸栄養	9件
静脈栄養	6件
その他	2件
合計(重複項目あり)	79件

(3) 給食延数

食 種	小樽病院	みどりの里
一般食	110,409食	66,789食
特別食	52,087食	5,463食
濃厚流動食	5,700食	53,949食
入院患者合計	168,196食	126,201食

(4) お楽しみ食提供回数

行事食		28回
日本全国味めぐり給食		6回
世界味めぐり給食		1回
あんかけ薬膳焼きそば		6回
減塩食 小樽ゆかりの人	石原裕次郎御膳	4回
	伊藤整御膳	4回
	小林多喜二御膳	4回
みどりの里お楽しみ食		2回
給食委託会社提案食		7回
総合計		62回

(5) 嗜好調査

後 期	
対 象 食 種	入院患者 (但し、経管濃厚流動食・嚥下食・きざみ食・ミキサー食・流動食を喫食している患者は除く)
目 的	食事サービスの向上と食欲増進に結びつく食事提供を行うため、患者さんの嗜好や満足度を調査する。
実 施 日	11月8日～11月12日
方 法	聞き取り
調 査 内 容	◇食事について(聞き取り) ①主食の硬さについて(ソーメン・パンは除く) ②おかず(肉・魚・野菜)の硬さについて ③食事の味付けについて ④病院食は今後の食生活の参考になるか ⑤食事の満足度調査について ◇その他ご意見、ご感想

(6) 学生教育
・実習受け入れ

養成職種	学校名	学年	期間	人数	実習目的
管理栄養士	藤女子大学	3年	8月16日～8月27日	2名	臨床栄養学実習Ⅲ
	天使大学	4年	8月30日～9月17日	2名	臨床栄養学実習Ⅴ
	名寄市立大学	3年	10月4日～10月15日	2名	臨床栄養学臨地実習Ⅰ
	天使大学	3年	11月8日～11月19日	2名	臨床栄養学実習Ⅲ

(7) 栄養情報誌「栄養だより」の発行

発行月	テーマ
9月	他人事にできない！血糖値スパイクの危険
11月	日本の伝統！発酵食品についてしろう！

(8) 北海道済生会支部事業

事 業	
食料支援事業	27件
済生会ビレッジでの健康相談	3回
小樽市医療・福祉の一体化事業	骨粗鬆症予防の講話 3回

【令和3年度の取り組み】

- ・協会けんぽ北海道支部の「被保険者に対する特定保健指導の業務委託」を受託しました。

健康経営に取り組む事業所が増えており、健康への意識が高い健診当日に腹囲・BMI・血圧から保健指導の対象となり得る方に、特定保健指導を実施し

ます。健康診断課と連携し、次年度の本格始動に向け準備を進めました。

- ・チーム医療における専任管理栄養士の配置、カンファレンス・回診への参加で必要なことは、多職種との連携はもちろん、病態を理解し適正な栄養管理を行うことです。管理栄養士の育成のため、月に一度

症例検討会を行っています。臨床場面での気づきや疑問点を整理し、客観的に捉え分析する能力を高める、またディスカッションすることで他者の意見や考えから学びを深めることを目的としています。

- ・研究活動として、二次医療圏を越えて栄養情報連携に向けた当院での栄養情報提供書発行状況についてまとめ、学会発表をしました。
- ・医療安全の観点より、経腸栄養剤の払い出し方法を見直しました。経腸栄養剤は一日に160本提供しており、厨房・病棟において栄養剤の種類・エネルギー量の取り間違いが起り、また病棟では経腸栄養剤に氏名を手書きするという作業がありました。厨房で経腸栄養剤にラベルシールを貼付し払い出すことで、取り間違いの防止、作業量の軽減を図りました。
- ・患者さんにとってより食べやすい病院食の提供を目指し、献立の改善に取り組みました。毎週、給食委託会社の栄養士と、味付け・料理の組み合わせ方・盛り付け方など様々な視点から意見交換を行い、問題点については厨房内の作業工程を把握し改善しました。
- ・給食委託会社次期契約に向けて、総合評価落札式一般競争入札の準備を進めました。仕様書の見直し、技術評価点の評価項目・評価基準を作成しました。
- ・北海道済生会支部事業にも取り組みました。済生会ビレッジでの健康相談では、健康・暮らしの悩みに

ついて地域住民の課題解決に、栄養の専門家として参加しています。また、小樽市の業務委託を受け、高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業である二次骨折予防として骨粗鬆症予防について取り組みました。ハイリスクアプローチとして地域包括支援センター4圏域中1圏域で、過去5年間に骨粗鬆症の診断歴がある方へ、電話・訪問による受診勧奨、栄養・運動など骨粗鬆症予防の指導を行いました。また、市民啓蒙として骨粗鬆症を予防する栄養の摂り方について3会場で講話をしました。

【今後の目標】

- ・管理栄養士一人ひとりのスキルアップを図り、栄養管理室の質向上を目指します。自己研鑽に努め、研修会などの参加、資格の取得などを促します。
- ・医療安全・感染予防の観点より給食委託業務内容を標準化し、安全で安心して食べられる食事の提供を目指します。
- ・献立内容の見直しを行い、治療食でもおいしい食事を目指します。
- ・済生会ビレッジを活用した、地域住民への栄養情報の発信、食事による健康改善・疾病予防に繋がる取り組みを目指します。

文責 技術課長 多田 梨保

桃栗三年柿八年、英語論文三年

医療技術部 栄養管理室 一島 妃東美

令和元年、知り合いの先生に誘われて国際学会に初めて参加しました。

もちろん発表はすべて英語で、聞き取るだけで精一杯でしたが、世界は広いことを痛感しました。日本から参加していた管理栄養士が英語で発表している場面を見て、痛いほど刺激を受けました。同行していた先生方とは常に、次はどんなテーマで論文を書くか、最近どんな論文が発表されているか、という雑談ばかりで、当時の私には別世界でした。そんな中、「臨床だけやっていてもだめだよ。英語で論文を書かないと。アカデミックキャリアを積むことも大事。やってみたら世界が変わるよ。」と言われ、返事もできないまま二言目には、こういうテーマはどう？と英語論文を書くように説得されました。帰りの飛行機の中で研究テーマを探し始め、1か月後には着手しました。修士論文で論文の書き方など基礎的なことは学んだもの

の、言語が違うだけで一歩ずつ壁にぶつかりました。英語の投稿規定を読み、英語のレターに返信を書き、投稿した雑誌にリジェクトされたらまたやり直し…と、崖に爪を立てて登るような辛い日々でしたが、前に進むことだけに集中しました。

始めて3年。3つ目に投稿したフランスの研究雑誌に英語論文がアクセプトされました。あの時、自分にはできないと思っていたら絶対に辿り着きませんでした。ライバルは他人ではなく昨日までの自分だと実感しました。

この過程で様々なご縁があり、その1つは日本リハビリテーション栄養学会の診療ガイドライン2023の委員に推薦していただきました。作成委員のミーティングでは、全国の御高名な先生方とディスカッションすることができ、情報の見え方・捉え方が変わり、刺激的な時間を過ごしています。もう1つは元当院整形外科の先生と当院リハビリスタッフとの臨床研究チームに参加させていただくことになりました。当院のコメディカルで研究マインドを持ったスタッフが増えるといいなと思います。

臨床工学室

【スタッフ】

技 術 室 長 笹山 貴司
技 術 係 長 横道 宏幸
技 術 主 任 奥嶋 一允
臨床工学技士 吉田 昌也 今野 義大 山内 揚介
中村 友洋 及川 尚也 中野裕城子
斉藤亜里沙 服部 淳貴
3学会認定呼吸療法認定士：2名
透析技術認定士：1名

【業務内容】

臨床工学室では、生命維持管理装置である人工呼吸器や血液浄化装置を始めとした医療機器の操作および保守点検を中心に様々な医療機器を管理し、安全かつ迅速に医療機器を提供できる体制を整えております。また、日々高度化する医療機器に対応できるよう、最新の知識と技術を習得し、医師や看護師、その他メディカルとともにチーム医療の一員として、安全で安心な医療の提供に努めております。

【当部署の特徴】

血液浄化業務・医療機器管理業務・手術センター業務・内視鏡センター業務と幅広い分野で他の医療職と協働して業務を遂行しており、急なオーダーや機器トラブルにも迅速に対応できるよう、365日・24時間オンコールにて対応できる体制を整えております。また、安全で適切な医療機器の操作を促進するため、看護職をはじめとする幅広い職員に対する研修や、当院独自の医療機器操作マニュアルの作成・改訂を行っております。

1. 血液浄化業務

透析センターでは、看護師とチーム制で慢性腎不全患者さんに血液浄化療法を提供しており、患者さん個々の生体適合性に見合った人工腎臓の提案・透析関連装置の保守管理やガイドラインに基づく水質管理・リスクマネジメント業務等を担っております。また、体外循環によって血液を体外へ導き、病気の原因となる物質を分離除去する治療（アフェレシス療法：血漿交換や吸着療法等）にも携わっております。その他、腹水や胸水を濾過・濃縮して、アルブミンなどの有用なタンパク成分を回収し安全に体内に戻す治療法（CART）も施行しております。

2. 医療機器管理業務

院内の高度医療機器を一括管理し、必要時に安全かつ迅速に医療機器を提供できるように、年間点検計画表の策定および計画に基づく定期点検や日常点検、定

期部品交換を実施しております。また、日常的な院内ラウンドにより、人工呼吸器や除細動器・AEDをはじめとした使用中機器の点検も施行しております。その他、気管挿管や気管切開をせずに専用マスクを使用する事で人工呼吸管理が可能なNPPV療法や鼻カニューラを使用し高流量酸素投与を行うネーザルハイフローにも対応しており、現場や患者さんのニーズに応えられるよう、様々な場面でサポートを行っております。

3. 手術センター業務

手術センターでは、麻酔器や内視鏡装置等の手術用機器の始業点検や準備を施行する他、内視鏡関連装置の操作や人工関節置換手術時の機器操作・管理も行っております。また、手術野における直接介助業務には、全手術件数1294件中644件(49%)携わっており、チームの一員として医師や看護師と連携しながら業務を行なっております。

4. 内視鏡センター業務

内視鏡システムや軟性内視鏡（ビデオスコープ）等の始業点検・準備・終業点検に加え、使用後のビデオスコープを再生処理する為に洗浄消毒装置の操作を行うなど、安全に検査・治療が行われる環境づくりに努めております。

【過去3年の実績】

1. 血液浄化業務

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
血液透析・血液濾過透析	9,457件	8,409件	7,876件
持続的血液濾過透析	21件	25件	9件
アフェレシス療法	4件	0件	5件
腹水濾過濃縮再静注法	41件	72件	49件

2. 医療機器管理業務

(1) 終業点検件数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
シリンジポンプ	281件	250件	276件
輸液ポンプ	842件	768件	1137件
人工呼吸器	18件	20件	26件
フットポンプ	242件	179件	291件
低圧持続吸引器	21件	22件	9件
エアマット	149件	108件	114件
血管用エコー	72件	106件	154件
その他(主にモニター関連)	78件	71件	170件

(2) 医療機器修理及びメンテナンス件数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
シリンジポンプ	15件	10件	13件
輸液ポンプ	42件	39件	48件
人工呼吸器	6件	6件	8件
除細動器	3件	6件	3件
フットポンプ	2件	3件	6件
生体情報モニター	8件	30件	11件
エアマット	7件	10件	4件
透析関連機器	236件	148件	98件
内視鏡関連機器	2件	6件	7件

3. 手術センター業務

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
外科腹腔鏡操作	108件	111件	106件
整形関節鏡操作	130件	103件	115件
泌尿器膀胱鏡操作	203件	160件	130件
手術関連機器メンテナンス	15件	18件	3件

【令和3年度の取り組み】

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向け、各種ガイドラインをもとに医療機器の使用法や各種備品の見直しを図りながら、人工呼吸器をはじめとした“医療機器を介した感染防止対策”に努めております。また、医療機器のメンテナンス研修や学会参加を通じて得た知識を活かし、ME機器の中央管理化を推進すると共に、RST（呼吸サポートチーム）のコアメンバーとして、人工呼吸器の適切なセッティングや無理のない離脱が出来るよう、他の医療スタッフと協同して適切で安全な使用を啓発してまいりました。透析業務においては、看護師とチームを組み、医師も交えたカンファレンス等を通して、患者さまの病態や背景を十分把握したうえでより効果的な治療が行われるよう、装置の機能に関する知識やデータを活かして

様々な提案を行ってまいりました。多種多様化する医療機器の安全使用に向けては、院内教育や医療機器操作マニュアルの整備を行うほか、“CE通信”と題した医療機器操作等に関する広報誌を定期的に発行しており、院内スタッフの皆さまより大変ご好評をいただいております。

【今後の目標】

透析装置及び水質管理関連装置や病棟で継続使用されている生体情報モニターを始めとした医療機器の安全性確保・維持に向けた取り組みを引き続き強化すると共に、人工呼吸器をはじめとした“医療機器を介した感染防止対策”に努めてまいります。透析業務においては、装置トラブルを未然に防ぐ為にメンテナンス技術を活かした消耗部品の交換や早期修理を積極的に実施し、コロナ禍においても安心して透析センターを利用していただけるよう、感染面に配慮した環境作りを強化してまいります。院内医療機器につきましては、終業点検の件数からも見て取れるように、年々使用頻度が高まっております。特に人工呼吸器については、新型コロナウイルス感染症の影響によりメーカーからの借入れも容易ではない状況にあります。必要時に管理医療機器が使用できない事のないように、管理体制を更に強化しながら保守・点検・管理を適切かつ効果的に行い、機器トラブルの未然防止に努めてまいります。その他、内視鏡センター業務・手術センター業務、みどりの里での医療機器管理と当院における臨床工学技士の活躍の場は年々広がってきております。引き続き全ての管理機器を安全に提供できるよう、スタッフ間での情報共有をこれまで以上に密に行い、地域住民の皆さんの健康と安全を支えてまいります。

文責 技術係長 横道 宏幸

「これまで、これから」

医療技術部 臨床工学室 斉藤 亜里沙

臨床工学技士の資格を取得して3年の月日が経ちました。

入職1年目のことがつい最近のように思います。当初は、先輩方や患者さんとのコミュニケーションをはじめ、仕事への取り組み方など、右も左もわからず、不安と緊張の毎日を過ごしていました。正直、月曜日が恐怖にさえ感じることも…。

そんな中、新人の私に優しく声をかけてくれる患者さんや、プリセプターをはじめ、先輩方が優しく時には厳しく指導してくれました。

入職2年目は、今もなお収まらない「新型コロナウイルス」に振り回される生活が始まりました。当たり前に行えていたことに制限がかかり、息抜きの場を失い、活気をなくしている自分がいました。危機を感じた私は、息抜きになることはないだろうかと考え、たどり着いたのが、大好きなテーマパーク（USJ）の動画鑑賞でした。また、新たな趣味として「大人の塗り

絵」を始めました。

そんなある日、後に仕事で自信を持つきっかけとなる出来事がありました。

それは、透析室のスタッフで構成されている、災害対策チームに任命してもらったことです。

任命1年目は先輩方の背中を見て学び、言われた仕事をこなしていくことが多かったのですが、2年目は、率先して計画立てや、年に1回行っている災害訓練の司会進行を務めさせてもらうなど、主体となって参加することができました。入職してはじめて、主体となって取り組むことができた仕事であり、得意では無いことを成し遂げ、達成感を味わいました。今までの私なら、反省ばかりの自己評価をすることが多かったのですが…。これを機に、良かった点を探し、課題は次に活かそうと、前向きな視点になることができ、心情に大きな変化が表れました。

気が付けば入職して3年が経ち、令和4年4月から、CE通信の発行や、委員会活動への参加など新たな挑戦が始まります。いつも気にかけてくれる患者さんや、温かい指導をしてくれる先輩方の気持ちに応えるために、諦めずに前向きに取り組む、更なる成長を遂げられるよう精進していきたいと思います。

看護部

■ 総 括

【看護部概要】

- ◆看護部職員：238名
令和3年4月1日現在
 - ・看護師：164名
 - ・准看護師：16名
 - ・看護補助者：53名（介護福祉士6名含む）
 - ・看護事務：5名
- ◆看護部管理者
 - ・部長1名、次長1名、室長1名、課長10名、主幹2名、係長5名、主任11名
- ◆診療看護師（NP）1名（13区分、21行為）
- ◆特定行為研修修了者：2名
 - ・精神・神経・循環領域コース＋栄養水分に係る薬剤投与関連、1名修了
 - ・創傷治療領域コース、1名修了
- ◆特定行為研修受講：2名
 - ・ろう孔管理関連コース
 - ・救急病態管理コース
- ◆専門・認定看護師（4分野・7名在籍）
 - ・慢性疾患看護専門看護師1名
 - ・緩和ケア認定看護師2名
 - ・皮膚排泄ケア認定看護師2名
 - ・認知症看護認定看護師2名
- ◆看護師離職率（令和3年度）
 - ・9.4%

【看護部理念】

- ・済生会の創立精神「施薬救療」にのっとり、患者さん一人ひとりに「安心できる質の高い看護を提供します。」

【部署の特徴】

看護管理室は、中川尚美次長、金澤ひかり室長の体制となり2年目を迎えました。

コロナ禍において、令和3年度は新人看護師11名、准看護師4名、中途採用看護師2名が入職しました。看護師の離職率は、9.4%と昨年度よりも0.4%の増となりました。子育て世代の看護師が短時間正規職員制度や院内保育所などを利用され、子育てと仕事の両立をされています。その一方で、一部の職員の夜勤回数の増加や偏りが発生している課題に対しては、夜勤専従看護師の採用を積極的に行った結果、緩和されつつあります。中堅層が少ない傾向は、他施設と同様の悩みであるため、経験者の中途採用に関しては継続しています。さらに、令和3年度は、病

棟看護師が看護師特定行為研修の第Ⅱ期生として、「救急病態コース」に入講し、関係各位のご協力のもと無事に修了することができました。今後は、先の特定看護師の2名と共に、将来は院内のみならず地域や在宅の場での活躍に大きな期待が寄せられておりますため、まずは臨床での実践を積んで参ります。

【実 績】

1. 看護師数（常勤換算）と離職率（%）

年度	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
離職率	9.8	7.1	9.0	9.4

2. 42日以内再入院率（%）

	一般病棟
令和元年度	4.9
令和2年度	2.9
令和3年度	6.8

* 化学療法の再入院は除く。

3. 摂食機能療法算定件数及び算定額（円）

	件数(件)	収入(円)
令和元年度	3,038	4,679,850
令和2年度	2,991	4,989,800
令和3年度	3,404	6,220,950

4. 2019年度入退院支援加算件数（件）

	入院支援加算2	入退院支援加算1
令和元年度	45	827
令和2年度	387	568
令和3年度	283	655

5. 看護部に関するお礼と苦情件数（件）

	お礼	苦情
令和元年度	20	26
令和2年度	9	7
令和3年度	3	7

令和3年度 看護部目標

1. 患者の思いに寄り添い、意思決定を支える看護を提供する
2. 働き改革に柔軟に対応する

【令和3年度の主な取り組み】

- ・新型コロナウイルス感染症重点医療機関として2年目を迎えました。前年度に引き続き地域包括ケア病棟で患者の受け入れに対応してきました。さらに発熱外来の運用、集団ワクチン接種の運用を継続しながら、予定入院並びに救急患者は、全て3つの急性期病棟での受け入れが続いています。急性期病床を確保するために、回復期リハビリ病棟もフル稼働してきました。地域の感染状況の影響を受けて、緊急手術、透析治療にも尽力して参りました。誰が、何処が…ではなく、職員一人一人の頑張りによって、乗り越えられた一年でした。
- ・看護管理者は、3年前より患者中心の医療の提供を目標に、日常における倫理的問題解決に向けて、患者・家族の意思決定を支援する『臨床倫理』に関する取り組みを継続して参りました。令和3年度は、看護師だけではなく患者に関わる多職種参加による臨床倫理カンファレンスを実践し、多職種連携の重要性を再認識しました。この取り組みは、次年度以降も継続していきます。
- ・ある事例を通して、各部署において「看護計画」の見直しをしました。看護問題は妥当か、計画は具体的に個別性があるか、適切な時期に評価がされ更新されているか。この取り組みを通して「看護の原点」に戻る必要性を痛感する1年でもありました。

- ・「患者の情報を的確に捉え、アセスメントし早期に医師に報告をすることで急変を回避する」ことを目的に、医師への報告基準としてRRSの考え方を導入しました。チーム医療における情報共有のツールとしても、活用の推進を図っていきたいと思います。
- ・看護研究の研究計画書に関しては、令和2年度に「看護部の倫理審査」を受ける仕組みを作りました。看護管理者を含め、まだまだ不慣れであるため時間を要していますが、研究チームにとっても倫理審査メンバーにとっても非常に重要な思考過程を学ぶ機会になっていると評価しています。

【今後の目標】

『住み慣れたこの地域で、その人らしく生活できる』そのために、地域密着型公的病院として、高齢化における多死社会に向かって地域（在宅）医療を支えることが重要であると考えます。地域に求められる病院とはどのような機能が必要でしょうか。済生会の看護師として何が求められているのでしょうか。提供される医療、看護の質を評価するのは対象者であることを忘れずに、組織の使命を果たしていけるよう職員と一丸となって前進したいと思います。

文責 看護部長 菅原 実夏



中川次長

菅原

金澤室長



管理者研修『臨床倫理』

3 A病棟

【スタッフ】

杉崎 美香 看護課長
齋藤 亜妙 看護主任
砂川 友紀 看護主任

看護師：27名

准看護師：2名

（うち短時間正職員：2名 夜勤専従：2名

緩和ケア認定看護師：1名 糖尿病療法指導士：1名）

看護補助者：11名 看護事務：1名

医療クラーク：1名

【部署の特徴】

3 A病棟は外科・循環器内科・消化器内科・緩和ケア内科の一般急性期混合病棟です。

患者は、手術目的・検査目的・薬剤調整・緩和目的等様々な理由で入院されています。あらゆる健康問題を抱える患者の傍らに立ち、声に耳を傾け、患者・家族にとって最善のケアを提供するために多職種と連携し定期的にカンファレンスを開催しています。「この病院に入院して良かった」と感じていただけるような看護の提供を目指し、日々活動しています。

【実績】

入院患者数	退院患者数	稼働率	平均在院日数	手術件数	内視鏡件数	化学療法件数
761人	822人	81.7%	18.7日	98件	161件	15件

【令和3年度の取り組み】

今年度は「患者・家族と意思を共有し、看護過程を展開する」「自己の役割を認識し行動できる」という目標を立て、看護活動を行ってきました。1年目からベテランまで幅広い年数の看護師が協働する中で、各自の経験年数・立場によって役割が異なります。看護部の目標である「患者の思いに寄り添い、意思決定を支える看護を提供する」ためには、看護師1人1人が専門職としての自覚と責任を持ち、自ら考え判断する能力を養うことが必要と考えました。そのために、各自が自己の役割を遂行するために必要とする分野のeラーニングの視聴や定期開催する学習会に参加し、レベルアップに努めました。令和2年に緩和ケア内科が加わったことにより知識の習得が必要と考え、緩和ケア認定看護師による学習会を予定していましたが未開催となってしまったため、次年度の課題としています。

【今後の目標】

当病棟は4科の混合病棟であり、入院理由も多岐に渡っています。1人1人の患者に合った看護を提供するために、今後も学習の機会を設け、看護師全員がレベルアップしていきたいです。そして「看護計画の充実」「倫理的配慮のある看護の提供」「安心・安全な看護の提供」を目指し、受け持ち看護師としての役割を発揮できるよう取り組んでいきたいと思っています。

文責 看護課長 杉崎 美香



癒しのペットたち

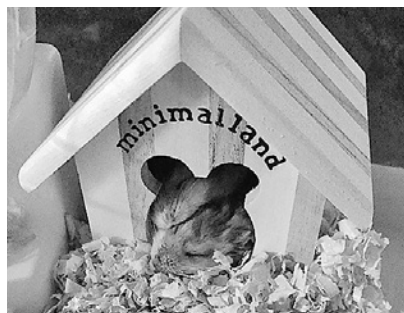
3A病棟 工藤 祐華

私は動物が好きでペットを今は2匹（犬：ポメラニアンとハムスター）を飼っているのですが、今回はハムスターについて紹介します。小さい頃ペットショップで見かけたハムスターがとても可愛く、いつか飼いたいと思っていて一昨年の春に知人からたまたま譲り受ける機会があり、姉妹の2匹を飼い始めました。姉妹だからなのか顔がそっくりで、見た目では区別がつかないのですが性格は対称的で、動きが堂々としていて強気な方をハム子、消極的で弱気な方をハム美と名付けました。単純な名前ですがこれでも決まるまでに結構考えました。

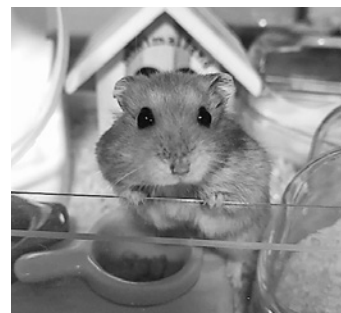
最初は2匹仲良く同じ家でくっついて寝ていたのですが成長と共に縄張り意識が出たようで、会わせると



砂場で遊ぶ様子です



狭い家の中でくっついて寝ています



ケージのドアを開けると寄ってきます

2匹が1個のボールになるような激しい喧嘩をするようになり、別々のケージで飼うようになりました。喧嘩になると怖いですが普段は2匹とも穏やかで、砂場に行くところんと仰向けになりお腹を出してしばらくごろごろしていたり、回し車で真剣に走っている表情、大きなバナナチップスを両手で持って食べる姿など、見ていて毎日癒されました。

しかしハムスターは寿命が短く私が飼っている種類は約2年だそうで、半年前にハム美は寿命通り2歳で亡くなってしまいました。ハム子の方は2歳半を経過した所ですが、まだまだ元気に回し車で走っていますが、80歳を過ぎているそうなのですが、80歳の動きとは思えないほどです。いつまでも元気に過ごしてほしいのですがそう上手くはいかないので、最期まで責任を持って快適に過ごしてもらえようお世話していきたいと思っています。そしてペットとの生活の中で癒しをもらって、私も日々の仕事を頑張っていこうと思います。

心のリフレッシュ

3A病棟看護助手 池邊 雪絵

済生会小樽病院の看護助手として働き始めて、丸2年が過ぎました。毎日いろんな患者様と接することで、沢山の事を経験し学ばせていただいております。常に笑顔でいることを心掛けていますが、そのためには自分の心も健やかでないと良い笑顔にはなれません。

私の場合、心を健康に保つためのリフレッシュ方法は、我が家の猫達とふれあうこと。（以前は犬もいましたが今は猫だけ）どんなに忙しくて疲れていても、猫達と一緒に遊んだり寛いだりしていると、自ずと温かい気持ちになれ「明日も仕事頑張ろう!」と、前向きになれます。（我が子ども達よ、すまん）

猫達とありますが、実は現在8匹が我が家におります。みんな保護猫ばかり。昨日も我が家の物置き小屋から、生後2週間程の子猫を保護したところ。3時間おきのミルクやりや排泄のお世話など、パタパタとして体力的にはキツイですが、有難いことに心はと

ても満たされています。

猫達や家族のお陰で、私は充実した毎日を送らせてもらっています。感謝。

今日も毛むくじゃらに囲まれ幸せいっぱいになった心で、患者様に笑顔を届けたいです。



3B病棟

【スタッフ】

岡本 麻理 看護課長
原田 真里 看護係長
仙保 知子 看護主任 糖尿病療法士
看護師 25名 看護補助者 11名

【部署の特徴】

3B病棟は、整形外科と泌尿器科の混合病棟です。
整形外科は、幼児から超高齢者まで幅広い患者さんを

対象とし、骨折、交通外傷など周手術期を中心とした急性期看護を行っています。

泌尿器科の主な疾患は、尿管結石、腎結石、前立腺がん、膀胱がん、腎がん、慢性腎不全です。検査や手術、化学療法、ターミナルケア、透析療法と求められる知識の幅は広く、高齢者が多いため、家族を含めた援助が必要となり高い看護スキルが求められます。

以前に増して看護師一人一人の知識の向上と安全な看護が提供できるよう努めています。

【実績】

病床利用率	平均在院日数	入院転入数	退院転出数	手術件数
82.2%	13.03日	1303人	1302人	1314件

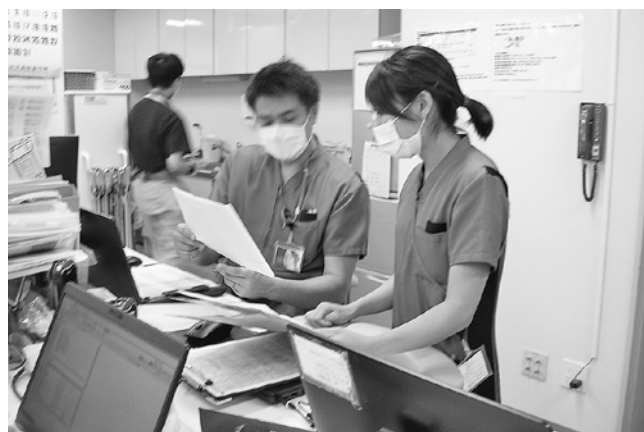
【令和3年度の取り組み】

今年度の3B病棟の目標は看護部の目標をもとに「受け持ち看護師の役割を発揮し意思決定支援を支える」「個々のスタッフが自立した看護を提供する」という目標をたてました。受け持ち看護師としての役割として患者さんが望む療養生活を送るために看護計画を充実させる目的で定期的にカンファレンスを開催しチームで話し合い情報の共有を行いました。そして一人一人が自ら考え行動できることを目指し取り組みました。まだまだ目標達成とは言えませんが次年度も看護計画の充実、一人一人が成長し自立した看護が提供できるように取り組んでいきたいと思っています。

【今後の目標】

3B病棟は入退院数、手術件数も多く、在院日数も短いめじっくり患者さんと向き合う時間を取ることが難しい時も多いですが患者さんに寄り添った看護を提供するために次年度も継続して受け持ち看護師の役割を理解し実践すること、看護計画の充実、一人一人が成長し自立した看護が提供できるようになることを目標に取り組んでいきたいと考えています。

文責 看護課長 岡本 麻理



1年を振り返って

3B病棟 磯野 由衣

当院に就職して4年が経ちました。入職当初は仕事を覚えることが大変でミスもたくさんしインシデントレポートを何枚も書き毎日が必死でしたが、病棟スタッフやプリセプター、同期に支えられながら今ではリーダー業務を行うことができるようになりました。

3B病棟は整形外科と泌尿器科の混合病棟で入院や手術入室・退室があり忙しい日々ですが、患者さんがリハビリを頑張る回復し笑顔で退院していくのを間近で見て看護師としてのやりがいを感じ充実して働くことができています。

5年目は新人指導者として自分が先輩方から教わった看護を教えることができ一人前に育てることができるように努力していきたいと思います。また、先輩看護師としてお手本となれるよう自己学習を継続していき、患者さんの異常に気付くことができ個別性に合った看護を提供できるよう取り組んでいきたいと思います。



同期

新天地

3B病棟 田村 政了

当院に勤めて半年と少しが過ぎました。小樽の地には水族館や大正ガラス、小樽運河など観光で足を運ぶ程度でまさか自分が住み着き、仕事をするなんて過去の自分からは想像もつかないことでした。

岩見沢に元々約8年間住んでおり、そこで結婚し子供が生まれ自分はここで一生を過ごすものだと考えていました。しかし、妻の産後の体調が不良で病院へ連れて行き、子供は夜泣きがすごく夫婦ともに寝られない日々が続いていました。

妻の地元が小樽で、子供を見てもらうために夜勤の日でも車で何往復もしていた時期もあり日常生活は波瀾万丈でした。

そんな中、少しでも今の生活を変えなければと思い立ち小樽への移住を決意しました。

当院に勤め初め、元々整形外科の経験はありましたが、前に務めていたところは慢性期の病院であったため、毎日入る入院、手術、退院の感覚をとりもどすのに時間がかかりました。

小樽の土地勘もないため休日の過ごし方に戸惑い、コロナ禍でもあったため子供と自宅で過ごす時間が多かった気がします。

今では子供ももうすぐ1歳半になりまだ一度も熱や

風邪を引くこともなく、すくすくと育っています。日に日に話す言葉やこちらが言ったことの理解もできていると感じ、毎日がとても貴重で楽しい時間が家庭では待っており、仕事の疲れやいやなことも子供の顔を見るだけで癒やされています。

小樽に来て半年ほど経ちまだまだ蘭島、銭函と言われてもおおよそしか場所がわからないですが、コロナが落ち着いたら子供を連れて小樽の町をいろいろと散策するのが今の楽しみの一つです。

仕事では日々患者さんとの関わりを大切にしたいと感じ忙しい中で少しでも時間をさいて患者さんの部屋にいくことを日々意識して仕事をしています。このスタンスはずっと忘れないように仕事を続けていくのが目標です。



初めてのおかつば頭



夏だー!!

4 A病棟

【スタッフ】

岸本 悦子 看護課長
佐野 舞 看護主任
丸岡 貴子 看護主任

看護師：28名 准看護師：2名 看護補助者：13名
医療クランク：1名 看護事務：1名

（うち短時間正職員：3名 パート：1名 看護師
夜勤専従：1名 看護補助者夜勤専従：1名）

3学会合同呼吸療法認定士：1名

特定看護師：1名

【部署の特徴】

4 A病棟は、消化器内科、脳神経内科の急性期病棟です。予約入院のほか、他医療機関からの紹介患者の受け入れを行っています。

消化器内科では、糖尿病（教育入院）や肺炎、胆膵疾患に対する内視鏡的乳頭切開術（EST）、内視鏡的胆道ドレナージ術（EBD）治療内視鏡では胃や大腸の腫瘍に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）消化管閉塞に対するステント留置術、出血性疾患に対する止血術を行っています。

脳神経内科は、後志圏内では数少ない急性期病院として、脳脊髄、末梢神経、筋肉に関連した疾患の診断と治療を行っています。脳卒中やアルツハイマー型認知症をはじめとする認知症疾患、パーキンソン病および関連疾患も増えています。認知症の患者が増加し、身体疾患を持った認知症患者は、せん妄や行動・心理症状を起こしやすく治療に難渋する事が多いです。受持ち看護師を中心にチームで情報共有しながら、患者・家族の思いに寄り添い意思決定支援をし多職種で連携しながら地域へとシームレスな対応ができるように看護ケアを実践しています。

【実績】

令和3年度

新入院患者数	715人
退院患者数	648人
平均在院日数	22.8日
稼働率	87.2%
内視鏡件数	449件

【令和3年度の取り組み】

昨年度より、COVID-19のパンデミックが発生し、当院もCOVID-19陽性患者を受け入れるため、病床調整が必要となりました。当病棟では、COVID-19陽性患者の受け入れはしていませんでしたが、他病棟で受け入れのために病床が減少した分、急性期の入院対応やその病棟への人員応援など協力し、地域の医療

に貢献できるように取り組みました。感染対策のため、面会制限が必要となり、入院される患者やその家族にも不安や多大なご不便をおかけしてしまいました。荷物の受け渡しや電話対応だけでなく、院内外でオンライン面会ができる様に工夫し不安の軽減に努めていきました。

安心して入院生活が送れるように、患者・家族へ寄り添い支えるということを再認識し見直す機会となりました。

1. 患者やその家族の立場に立った意思決定支援ができる

高齢化が急速に進む小樽市において、急性期から在宅まで切れ目のない医療・看護を提供するために、様々な取り組みを実施し、これまで以上に地域の患者のニーズに対応するための病院改革が必要となりました。看護部においても生活を見据えた対象として患者を捉え、看護を提供することを目標に、多職種連携、チーム医療の推進、退院支援の強化に取り組みました。

4 A病棟では患者・家族の立場に立った意思決定支援ができ、目標を共有し看護を展開するために、退院サマリーの未作成の件数を0にすることや退院支援が必要な患者に関して、ケースカンファレンスを8割以上実施することに取り組みました。コロナ禍の環境の中、家族と十分に話ができない場面も多く、意思疎通ができない患者に対して必要な情報が得られず、受け持ち看護師の役割や関わりが不足し、情報収集が不十分なこともありました。しかし、多職種カンファレンスをする機会は多くあり、倫理原則の4分割法も活用し倫理的側面から考え、整理することもできるようになってきました。多職種連携を強化していき、受け持ち看護師の役割や関わりが発揮され、患者・家族の思いに寄り添い意思決定支援を支え、倫理的配慮のある看護の提供ができるよう取り組みました。

2. 働きやすい職場環境作り

病棟運営ができるのはスタッフがいてくれることで初めて成り立ちます。そのスタッフが働き続けられる職場環境を作っていくことは重要です。それぞれのライフスタイルがあり、個々の看護師がこれまで行ってきた習慣等にとらわれず、職場環境をより良くするための改善に積極的に取り組む柔軟な姿勢を持つことが大切です。

さらに、自ら考え判断することができる自律した看護師の育成を強化し、1人1人の看護師の能力を高めることは、医療の質の向上や、看護師の達成感や満足感の向上にもなります。煩雑な各勤務帯の業務や看護師と看護補助者の共同業務を定期的に見直すことも重要であり、それにより時間外労働の削減などの職場環境の改善にも繋がってくると考えました。ワークラ

イフバランスの充実や安全な看護ができる職場作りをしていくことが、健康で働き続けられる職場、安全で安心して働く環境へ繋がっていくため、業務効率化を図り、業務改善していくことが求められます。電子カルテの機能を活用し、入院数の多い疾患や使用頻度の高い項目のケアについて項目のセット化を行ない、ピクトグラムを活用してスタッフ内の情報共有を強化しました。職員満足度調査でも業務効率が上がり働きやすくなったとの回答があり、働きやすい職場環境づくりの目標達成に繋がったと考えます。

【今後の目標】

1. 患者・家族の思いに寄り添い看護計画を見える化する
2. 多職種と連携し、患者や家族の意思を尊重した退院支援を行なう

2025年超高齢化社会を目前に、入院される患者も複数の疾患を併発し医療の高度化を求められる時代を迎えます。新型コロナウイルス感染症により面会も制限され閉鎖的な環境の中、家族からの聞き取り時間が制限され、入院時や入院中に患者や家族の意思を確認しなければいけません。そのため、退院支援アセスメントシート活用し、早期の段階で受け持ち看護師を主体とし、多職種やケアマネジャーと連携し、退院後の生活の場の調整を率先して整えることができるようになりました。倫理原則の4分割法も活用し3件の倫理カンファレンスを開催することもできました。倫理カンファレンスの必要性は、病棟スタッフ全体に浸透することができ、次年度は、倫理カンファレンスの充実化を図り個々にあった看護過程を展開し、患者の意思を尊重した看護を提供できるようにチーム一丸となり取り組んでいきます。

令和3年度の退院調整の基盤づくりを生かし、令和4年度は患者・家族の思いに寄り添い看護計画を見える化することで、個別性のある看護の提供、時代のニーズに添った退院支援の充実化、入院時から退院後

の生活を見据え患者参加型の看護計画立案、スタッフ1人1人が、退院支援に向けてのスキルや知識が統一し、一貫した方向性になるように、退院前カンファレンスを開催し更に多職種と協力し取り組んでいきます。

3. 看護の質の向上を目指しスタッフの積極的な研修の受講を勧める

研修や自己研鑽に関しては「やらされている感」を感じているスタッフも多く、研修参加に関しては消極的である。認知症患者の対応で疲弊、業務が多忙を極め学びの意欲が低下してしまう傾向であるが、高齢化社会に伴い、多種多様に疾患に対応するためには最新の治療や看護についての知識の習得が看護の質を高めるにあたり重要となってきます。そして自律心を養い、研修で学びを得たことを実践出来た際は、承認や称賛することでスタッフのモチベーションの向上につながるように環境の整備を行っていきます。

看護の質の向上のため、スタッフ一人一人が持っている最善の力を発揮し、人間性豊かな患者中心の看護実践に取り組んでいきます。スタッフ個々にポートフォリオファイル进行管理してもらい、要件研修とはの手引き書をスタッフに熟読してもらい、自ら進んで自己研鑽し知見する機会を作っていきます。

4. スタッフ間の協力体制を強化し、業務の効率化を図り、時間内に業務が終わる

年代・キャリアバランスはとれている。その強みを生かしベテラン看護師が的確に指示・采配を行う環境・ロールモデルとなる看護師の育成をしていきます。また、アサーティブなコミュニケーションを図り、気持ちよく働ける雰囲気を作ること、ライフワークバランスをとりながら、仕事に意欲的に取り組めるように、次年度はお誕生日有休や定時上がり★制度を設けて帰る風土づくりを意識づけし、時間外削減にも結びつけていきます。

文責 看護課長 岸本 悦子



憧れの看護師になって

4 A病棟 宮本 洋祐

私が勤務している4 A病棟は内科・消化器内科・脳神経内科の急性期病棟であり、多種多様な疾患の患者が入院されています。そのため、疾患についての学習が大変ですが休憩時間や業務の合間に症状などわからない部分を調べる事をして異常の早期発見ができるように自己研鑽をしています。認知症・認知機能が低下した患者が多く入院されているため、認知症に興味を持つ自分にとって4 A病棟で勤務できている事が、やりがいにも繋がり知識を深められるチャンスだと感じています。

認知症に興味を持つきっかけとしては、私の地元である寿都町にて高齢者の方と接する機会が多かったからです。幼少期は両親が共働きで帰ってくる時間も遅かったことから祖母と過ごす時間が長く、祖母の優しさに触れて自分も大人になったら優しい人になりたいなど夢見ていました。高齢者の方は更に年齢を重ねていくと認知機能が衰え、家族の名前を忘れる・誰かわからなくなる・自宅を自身の家と認識できなくなるなど“忘れる”ことが多くなり、私の祖母も例外ではないことから、そうなってしまった時のために、経験を積み重ねて対応できるようにしたいと強く思うようになりました。現在も、自分の事を忘れないよう定期的に祖母に電話をかけるようにしています。寿都町で幼少期の頃と変わらず元気に過ごしており、ふと優しい声を聞くと心が温まります。又、母親が看護師として高齢者の患者と接する姿を見て憧れを抱いたこと、父親が当時知的障がい者支援員をしておりその方々と接する機会があったことなど看護師を目指した理由は多岐に渡ります。認知症ケアは一朝一夕でできるのではなく、多くの経験を積み重ねた上で行うことができるものと思っています。まだ、一年目で失敗することは多い毎日ですが、患者の意思を尊重した看護を提供できるよう日々取り組んでいきたいと思っています。

私は海を眺めるのが好きで、寿都町でもよく海辺を散歩して気分転換をしていました。小樽市も海がすぐ

近くにあり、出勤のために家を出ると風に乗って潮の香りがし、心地よさを感じています。看護師として役割を果たしていると疲弊することもあります。気分転換をすることを忘れず体調管理をしながら、多くの患者に支援を行えるようこれからも頑張っていきます。



寿都町の海辺にある埠頭からの景色はとても良く、
天気の良い時は付近で海水浴をしていました。



海に沈んでいく夕日は絶景です。
夕日を眺めながら考え事などしていました。

看護師となった今の自分

4 A病棟 細矢 優花

私は人前に立って何かをすることが苦手です。働き初めは毎日顔を赤くして、緊張しながら研修や患者の処置、電話対応、処置の補助など実施していました。電話対応は受け答えするだけと働く前は思っていたのですが、いざ電話が鳴ると相手の名前や部署・情報が聞き取れるか不安になり電話をとることも逃げたくなるほど不安で嫌だなと思うことがたくさんありました。看護学校で学んだことと実際に患者を目の前にして観察やケアを実施することは私にとって大きく違い、毎日覚えることも多く今でも疾患について勉強・実践を繰り返す毎日です。私が看護師を目指したきっかけは一番近くにいる母が看護師だからということが大きいです。母が私を産んだのは今の私より2歳も若く、母は私が5歳の時に看護学校へ通い始めました。小さい頃から看護師を目指す母を見ているうちに、看護師として生き生きと仕事をする母を見て私は母のような看護師を目指したいと思うようになっていました。そして私は母と同じ看護師になりました。母の様に優しく、母が思う様に患者が安心した治療や安全な入院生活が送れるようにと私も心掛けています。また、入職すると同時に実家を離れ同棲生活を始め、家のことや家族・友人との過ごす時間が、充実させることができるか不安もありました。ですが、家族と休みを合わせて温泉に行ったり、夜勤終わりに実家で暮らす2歳の弟、5歳の妹、友人を含めBBQをしたりと充実した生活を送ることが出来ています。今年、同棲していた方からプロポーズを受け婚約することとなり愛犬と3人家族で笑いの絶えない日々を送ることができています。今私は自分の仕事に誇りを持ち看護師という素晴らしい仕事をこなしながら楽しい時間も送ることができています。

患者は一人一人性格や今まで暮らしてきた環境が異なり、病気や治療に対して多くの不安を抱えていることも多くどのように接したらいいのか、何が正しいのか正直分からなくなることも多いです。患者と日々関わることで今までの生活を知りどのようなことを考えているのか、今後の生活を一緒に考えていくことで、人間関係を築き少しでも安心した治療が受けられるよう日々努力しています。看護師にとって最後まで取り組まなければならない課題だと思います。まだまだ経験したこともない検査や対応も多く、これからも自己研鑽の毎日です。急変時にも迅速な行動ができる力を身に付け、無理のないよう心と身体を休ませながら、大切な家族と楽しく暮らしながらこれからも邁進していきたいと思っています。



プロポーズしてもらった大切な日



大切な家族の一員『まるんちゃん』



大好きな妹・弟たちと手持ち花火

4 B病棟

【スタッフ】

看護課長 伊井 洋子
看護係長 中山 優子
看護師 12名

【部署の特徴】

4 B病棟は本来、患者様と地域を結びより良い退院ができるように支援する地域包括ケア病棟です。しかし、令和2年から始まった新型コロナウイルスのまん延により、当院も地域医療の役割を果たすため、4 B病棟をコロナ専用病棟として陽性者の受け入れを開始しました。

当院を利用していただいている患者様やそのご家族をはじめ、当院の職員等の関係者がコロナに対して正しい知識を得て、不安なく当院を利用できるように、また、コロナウイルスに感染し入院となった患者様にも、専用病棟の看護師として他部署の協力を得ながら安心して入院生活が送れるように、コミュニケーションを大切にしながら日々取り組んでいます

【令和3年度の取り組み】

春になり新型コロナウイルスの収束の兆しが見え始め、地域包括ケア病棟として再始動することを念頭に、入院中の患者さんが孤立しないようにかかわりながら退院支援につなげることと、働きやすい環境をつくることを目標に掲げました。

実際には、コロナ専用病棟に入院してくる患者数に増減はありましたが、入院患者が〇になることはほとんどなく、1年間ほぼコロナ専用病棟として活動しました。1年間のコロナ陽性による入院患者数は81人で平均年齢は68.5歳、最年少は23歳、最高齢は107歳でした。ウイルスの株が変異するたびに患者層も変

わり、若い方が多い時期もあれば高齢者ばかりで介助量が多い時期もあり、個人防護具をつけての作業では、普段の力を十分に発揮できないという落とし穴もありました。特に高齢者の看護はコロナウイルス感染に伴う症状以外にもADLの低下やせん妄の出現、肺炎の遷延など緊張を強いられる場面が多かったように思います。しかし、そのような患者様が手を振って退院されたときは本当にうれしい気持ちになり、スタッフのモチベーションの維持にもつながっていたと思います。

新型コロナウイルスが蔓延してから、現在も入院中の患者様に対する面会を制限させていただいています。コロナ専用病棟では面会の禁止はもちろん、患者様にかかわるのは特定のスタッフのみに限られ、患者様が感じる閉塞感も通常の入院の比ではないと思います。その中で、患者様とコミュニケーションを図り、担当医師やリハビリ担当者と連携し、入院に関する不安やストレスが軽減できるよう努めました。また、家族もコロナウイルス感染後の経過がわからず不安を抱えているため、受け持ち看護師から連絡を入れるなど、退院を前向きに受け取れるように情報提供を行いました。

【今後の目標】

小樽市は高齢化が進み、コロナウイルスに感染すると重症化するリスクが高い方が多いと言えます。令和4年度の感染状況がどのように変化するか注視する必要がありますが、どのような患者様に対しても看護の専門性を発揮し、チーム医療の中の中心的役割を果たしていけるよう努めてまいりたいと思います。

文責 看護課長 伊井 洋子

コロナ病棟での息抜き

4 B病棟 青木 昭人

コロナ病棟となってから2年以上が経過しました。世間も不織布マスクの着用、ソーシャルディスタンスやオンライン授業、リモートなど新しい言葉も生まれました。今ではすっかり常識のように、生活に違和感なく入り込んでいます。

このコロナ病棟での業務は、感染対策の緊張の中、PPEを着用して、汗をかきながら日々ケアしています。シフトも日勤が少なく夜勤が多くなりました。業務が終わっても、帰宅してから、どこにも触れないように脱衣所へ行き、まずシャワーを浴びるという日々です。とくに院内クラスターとなったときは、オーバーベッドとなり、他病棟から応援スタッフがきていただき乗り越えることができ、感謝しています。本当にありがとうございました。

そんな中でも、我が家は相変わらず、趣味のアウトドア（キャンプ）に勤しんでいます。キャンプのいい

ところは、北海道という大自然で、テントたてたり焚火したり、直火でいつもと違う食事をしたり、家族と一緒にいられることです。このコロナでキャンプブームとなり、あちこちに新しいキャンプ場がオープンしましたが、人気のキャンプ場の予約が取れにくくなりました。今の時代にキャンプは、他人との距離がとれて、食事も個別で、コロナのリスク回避というところで、これだけキャンプブームとなっているのかもしれませんが。

我が家では、いろんなキャンプ場に出かけますが、一番のおすすめは、富良野にある「星に手の届く丘キャンプ場」です。ここは景色がよくて、トイレがキレイなのはもちろんですが、ウサギ小屋があったり、朝に羊の放牧があったりします。テント横まで羊がくることがあります。あとミシュランにも掲載されたことのあるジンギスカンがおいしいです。天気のいいときには、満天の星空をみることができます。

キャンプ場の宣伝のようになってしまいましたが、こんな制限のあるコロナ時代でも、時間をみつければキャンプに出掛けて息抜きをしています。



ウサギ小屋



こどもたち



今の弟と同じころの姉

笑う門に福来る

4 B病棟 中山 優子

私は数年前から、何を思っか座右の銘として「笑う門には福来る」とプロフィールなどに記している。単純な性格の私のことだから、言葉のまま、笑っていれば幸せになれるのだと解釈したのか？何故そう思ったのか振り返ってみようと思う。

さて、座右の銘とはそもそもなんぞや。Googleで検索すると『いつも自分のそばに置いておく、重要な言葉。人生で迷いが生じた時、自分を律したり、励ましたりするための「心の標語」のようなもの』とある。

思い起こせば10年以上前に当院のサービス委員会企画だったと思うが、接遇の向上の一貫だったのか、「スマイル賞」というのを頂き、金一封もあったと思う。とても嬉しかったのを思い出した。「いつも元気で、楽しそう」と、周囲の方々によく言われるが、実際にはいつも楽しいわけではなく、辛いことの方が多

いはずだが、物事を深く考えてないか、喉元過ぎて熱さを忘れているのだろう。「いつも元気」を誉め言葉と思うようにしているが、大人なので「能天気でもいいですね」くらいの内心はあるかとも思っている。でも楽しそうに思われるのは悪くないだろう…どっかで聞いたフレーズ。

2年前に父が事故で亡くなった。私がついていながら防げなかったことは後悔しかないのだが、そんな時父の遺影が私を励まし、心を穏やかにしてくれる。満面の笑みでいつも笑っているのだ。両手に孫を抱っこしている写真だ。新型コロナウイルスで最近疲れ気味の私にも孫が3人いる。なかなか思うようには会えないが、彼らの存在・笑顔のエネルギーはすごい、どんな疲れも吹っ飛ぶのである。そして、周囲も笑顔にしてくれる。

「笑う門には福来る」は今まで生きてきて、笑顔でいるほうが良いことがいっぱいあったはずだという願望かもしれない。父からもらったDNA・笑顔も受け継いだのだから、今後も「心の標語」としていこうと思う。



5 B 病棟

【スタッフ】

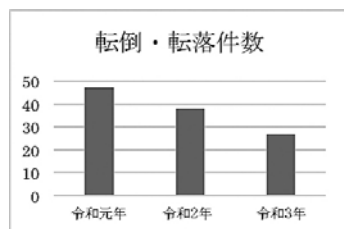
兒玉 真夕美 看護課長
 佐藤 由紀枝 看護主任 認知症ケア認定看護師
 小野 智子 看護主任
 看護 師 22名（うち夜勤専従2名）
 准看護 師 4名
 介護福祉士 5名
 看護補助者 6名

【部署の特徴】

5 B 病棟は、急性期の治療を終えた主に大腿骨骨折の手術後や脳血管疾患の患者を対象に家庭復帰・社会復帰を目指して365日リハビリテーションを重点的に行う病棟です。自院だけではなく、他院からの紹介患者も多く、全国各地からの転院もあります。医師、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種が一つのチームとなって患者・家族のために何ができるのか、それぞれの専門性を最大限に発揮し、患者・家族に寄り添いながら質の高いサービスの提供を日々目指しています。

【実績】（患者数・手術件数など）

入院患者数	稼働率	平均在院日数	在宅復帰率	他院からの紹介患者数
407名	96.4%	47.1日	92.5%	107名



令和元年	47件
令和2年	38件
令和3年	27件

【令和3年度の取り組み】

患者や家族の思いに寄り添い意思決定を支える看護の提供を目指し、病棟目標に「患者の思いに寄り添い、受持ち看護師として役割を発揮する」を掲げ看護を提供してきた。コロナ禍により面会制限もある中で、どのように現状を把握できるよう伝えられるのかなどの検討や工夫をし、ご家族へはオンライン面会だけでなく、距離を保ってのリハビリテーションの見学など、多職種で協力し実践してきた。また、多職種で構成している転倒・転落WGを中心に今年度は、患者がトイレへ行く前後での転倒が多い当病棟の特徴に焦点を当て、多職種一丸となってさらなる減少を目標に活動してきた。その結果、前年度より大幅に転倒・転落件数の減少となった。今後も各職種の専門性を生かし様々な視点で考え、検討できる多職種チームを目指し、質の高い医療を提供していきたい。

【今後の目標】

小樽市内はもちろんのこと、近隣ではない地域からも、この病院でリハビリテーションをしたいと選ばれる病院を目指していきます。また、地域の人々を支えていくことも当院の使命でもあるため、障害があっても安心して住み慣れた場所、望む生活に戻れるよう、地域社会との連携を密にし、不可能を可能にしていきたいチャレンジを今後も実践していきたいと思います。

文責 看護課長 兒玉 真夕美



指導者さんと出会って

5B病棟 磯部 真奈

看護師1年目に指導についてくれたO先輩看護師は、とても面白可笑しく、時には介護が必要で、看護師としてとても尊敬できる人です。

病棟勤務が始まった最初の頃は、勤務が合わず、自分の指導者がどんな人なのかわからずに仕事をしていました。初めてお会いしたのは、Oさんが夜勤で出勤してきた時でした。初めてお会いしたこともあって、緊張して挨拶することしかできませんでした。その後、日勤で一緒に勤務できる日が増えていきました。Oさんは、いつも優しく楽しく仕事を教えてくれました。さらに、Oさんから学べることは毎日たくさんあって、Oさんと勤務が一緒になる日を勤務表を確認して、いつも楽しみにしていました。話しやすかったこともあり、報告、連絡、相談しやすく、必要以上にコミュニケーションを取っており、周りの人たちからは、「仲良いね」、「本当に親子だね」と言われることも多々ありました。Oさんの受け持ち患者さんを一緒に受け持ち始めた時は、患者さんの思いを知る大切さや医療従事者としての視点などを見て学び、何より知識や経験の大切さを学びました。Oさんと患者のことを考えて二人で遅くまで残っていたこともありました。

時には、自分の知識が足りないと感じることもありましたが、Oさんも一緒に参考書やインターネットで調べて、二人で学ぶこともありました。

今、仕事が楽しいと思えるのは、Oさんから楽しく仕事を教えてもらえたからだと思います。Oさんのように学ぶことを止めずに、どんどん学んで知識や経験を増やしていきたいと思います。また、チームの一員として、報告、連絡、相談ができるようにし、メンバーシップを取っていきたいです。



指導者さんと私

学業と仕事と育児の両立

5 B病棟 神前 芳子

昨年までは透析室で助手をしており、今年からは准看護師として5 B病棟で働いています。現在は、看護師資格取得のために夜間の学校へも通っています。私にとってこの1年は季節を感じる余裕もないくらいあっという間に過ぎていきました。人生で初めて1日は24時じゃ足りないと感じています。私は准看護師であり、学生であり、小学生と園児の2児の母でもあります。少しだけ、私の平日の1日を紹介したいと思います。私の1日は、朝は園児を保育園へ送り出しそのまま出勤します。16時まで働いて園児を迎えに行き、すぐに夕飯の準備をし、学校へ向かいます。授業が始まり、終わるのは21時くらいです。家に着いたら、翌日の準備や課題、テストがある週はテスト勉強をします。そして、体力温存のために0時には絶対に就寝できるようにしています。これを週5日連続して繰り返します。土日や祝日はグダグダしたくてたまりませんが、子供達がそうはさせてくれません。そんな生活は最初はうまくいかないことばかりでしたが、最近はすっかり慣れて家のことの大半を手を抜くこと

で、なんとかなるようになりました。しかしいまだに子供達の学校や保育園のお知らせをすっかり忘れてしまって、〇日までに用意してくださいというものを前日の夜になって慌てて買いに行くという始末です。締め切りギリギリか、過ぎてしまうことも多々あり、きっとブラックリストに載っているのではないかと思います。あまりにも忙しくて学校を辞めたいと思ったこともあります。しかし、こうして続けられているのは周りの人達のおかげです。定時に上げられるようにフォローをしてくれる優しい先輩や同期、知らず知らずのうちに自分のことは自分でやれるようになってくれた子供達、できないことをカバーしてくれる家族、共に学ぶ同級生。とても恵まれていると感じています。

この1年は限られた時間で、思うようにいかないことがたくさんあり葛藤することもありました。看護師として成長したい自分、母親としてちゃんとしなきゃという自分、学業をおろそかにしてはいけないという自分。全てに手を抜いていけないと自分を追い込んでいたように思います。今考えるととても欲張りだと思います。しかし今では、頼れることは頼り、全てを抱えないことが大切だということに気づきました。学生生活あと2年、仕事も遊びも学業も悔いのないように頑張りたいと思います。



夏は必ず魚とりへ



アスレチックに挑戦

外来看護課

【スタッフ】

伊藤 瑞代 看護課長
 吉田真知子 看護係長
 中山 祐子 看護主任
 正職員看護師 7名 内スタッフ資格取得者
 : 糖尿病療養指導士 1名 内視鏡技師 4名
 NST専門療法士 1名
 准看護師 3名 短時間正職員 6名
 パート職員 5名

【部署の特徴】

当院外来は内科・外科・整形外科・泌尿器科・循環器科・神経内科・リハビリテーション科・精神科と9診療科に分かれており、看護活動を行っています。

患者の症状を聞き取り、診療科を選択する相談や診察時の介助、採血、検査説明や検査介助、治療内容や入院説明、その他様々な業務やケアを実施しています。

外来は患者が病院に来て最初に足を踏み入れる場所であり、初めて医療従事者に接する場所でもあります。その為、安心して診療や検査を受けて頂けるように看護スタッフは患者の話をよく聞き、よく看る事を心掛け、自身の看護知識・技術の向上を目指し、多職種とも連携し「質の高い継続した看護」が提供できるよう日々努めています。

【実績】

令和3年度外来患者数

科別	外来患者延数(人)
内科	23,784
外科	2,632
整形外科	42,277
泌尿器科	16,162
精神科	623
循環器科	9,701
神経内科	5,541
リハ科	359
総計	101,085

令和3年度内視鏡・化学療法件数

内視鏡検査	1,311
内視鏡手術	183
化学療法延件数	383

令和3年度 発熱外来患者数

発熱外来患者数	690
---------	-----

【令和3年度の取り組み】

今年度は1. 看護対応力UP!! 2. 働きやすい環境づくり 3. 業務整理・効率化 4. 適切な人員配置という目標で看護活動を展開しました。特に、「患者の思いに寄り添い、意思決定を支える看護を提供する」とい

う看護部の目標に沿って、昨年度から力を入れている各ブースでのカンファレンスの開催や多職種との協働に向けてどう動いていくか、必要な時に意思決定を支える為に患者とどう関わり記録を残していくか等、考えながら進んだ1年となりました。望まれる看護力を養うための学習や知識の習得はもちろんの事、実践力を強化するため救急対応・災害時対応のマニュアルを用いたシミュレーション実施等、多岐に渡った取り組み、活動を行ってきました。はっきりと成果が出た事、来年度に課題が残った事等があり大きな成果があったとは言えないかもしれませんが、確実に少しずつではありますが、求められる看護を実践できるよう外来スタッフは前を向いて頑張っています。

実際のところコロナ禍となり、先がはっきりとは見えない期間が長く感染対策が続き、それに伴う業務も増えていく一方の中、限られた人数で業務をいかに速やかにストレスなく実践できるか、各チームスタッフ、管理者共に考え続けて活動した1年だったと振り返ります。

どのような状況下の中でも地域に必要とされる病院、看護をこれからも目指し続け、より良い医療の提供に繋がるよう外来看護に取り組んでいきたいと考えています。

【今後の目標】

今年度の取り組みで行ってきたことを更に深めて、患者に寄り添う看護を実践していきたいと考えています。「地域に根付く病院」として地域とも連携し、入退院支援に力を入れていきたい、生活者としての患者さんを捉え何が出来るかを深く考え、看護師としてスタッフと共に成長できた事を実感できるよう進んでいこうと思います。

文責 看護課長 伊藤 瑞代



加賀家の事件

外来看護課 加賀 紗矢香

私の家族構成は夫、長女（5歳）、長男（2歳）の4人家族です。

日々子育てをしていると大変なことも多いですがそれ以上に楽しいこと、うれしいことがたくさんあります。そんな育児をしている中でつい先日我が家で起きた事件について話したいと思います。

夕方、私と長女とで夕食の準備をしている間に夫が体を持て余している息子を庭で遊ばせてくれていました。しばらくすると窓を力強くどんとどんと叩く音が聞こえ窓を覗くと血まみれの息子と旦那がいました。私は近所迷惑になるくらいの大声で「どうしたの!!!」とさけびその声に驚いた近所の人が集まるほどでした。夫は長男が「転んだ時にコンクリートテラスの角にぶつけた」と私に言い、息子をよく見るとおでこにぱっくりと傷ができそこから大量の出血と白い骨まで見えていました。これは大ごとだと急いで救急車を呼びました。救急車への電話も冷静にできず動揺してしまい救急隊員にお母さん落ち着いてくださいと言われる始末でした。

救急センターがある病院に運ばれすぐに傷を確認し「お母さん骨見えているけどこれなら大丈夫だよ」と言われ息子の処置が始まりました。

縫合され大泣きする息子と一緒に大泣きしている私に看護師が常に状況を伝え、声をかけてくれていました。その一つ一つの声かけに少しずつ落ち着いていったのを覚えています。

その後息子は無事家に帰宅することができました。自分自身が医療従事者であっても家族のこととなるとやはり冷静ではいられず今考えるととても恥ずかしかったなと思います。

今回のそんな経験から看護師が行う声掛け一つでこんなにも安心するのだと実感し、患者・家族へ寄り添う看護の大切さを改めて学ぶことができました。

患者さん・家族は疾患、治療、検査と様々な葛藤や不安を抱えています。少しでも安心して治療、検査が受けられるよう私も看護師として日々努力していきたいと思います。



休日の子供たち

私の楽しみ

外来看護課 打越 純子

早いものでこちらに入職して11年が経とうとしています。上の子が1歳になった時にそろそろ働こうと考えこちらの病院に短時間正職員として復職しました。

上の子も11月で12歳になり、来年中学生か〜と感慨深く思っています。

こちらで働き始めてからは二人出産しました。女の子と男の子で今7歳と2歳になります。おねえちゃんはとってもマイペースで優しい子で、2歳の末っ子はやんちゃな怪獣です。

毎日仕事から帰ってくると一息つく、暇なく毎日せわしない日々を送っています。

実は4年ほど前にお姉ちゃんが3歳になったのをきっかけに以前からいつか行こうと考えていた通信の西野学園に進学しました。実習や2週に1回の締め切りがあるレポート提出に神経を擦切らせ、ヒュー言いつつながら正看護師試験に合格しました。その国試の少し前に3人目の妊娠が分かり、つわりと闘いながらの国試の勉強は地獄でした。ちなみに試験中もオエオエしながら頑張りました。

ちょうどそのころからコロナが流行し始めました。試験が終わってから北海道で爆発的に増えた記憶があります。出産もコロナのせいで1人ボッチの出産でした。陣痛の合間にラインで主人とやり取りしながら頑張りました。

学生中は勉強のモチベーションを保つために目標として「国試が終わったら、いろんなところへ旅行に行って、美味しいものをたくさん食べて、家族とめっちゃくちゃ遊ぶ!!」を常に考えて頑張りました。

なのに、試験が終わるとコロナ+妊娠+切迫で自宅安静を余儀なくされ、楽しみにしていた旅行も全く行けなかったのです。かわいそうなわたし。

ですが、去年の夏からSUPを主人と始めてみました。海の上でボードに乗りながらプカプカ浮いて海を見ると太陽の光がキラキラしてとてもきれいです。岸で遊んでいる子供たちの声や蝉の音が沖の方まで反響して、ゆったりとした時間を過ごせます。子供も一緒に乗せて沖の方まで冒険したり、ボードからジャンプして海に飛び込んでみたり、夏を満喫しました。運が良ければイルカも見ることがあると聞いたので、いつかイルカに会いたいです。

今年はずっと行ってみたかった初山別のキャンプ場にも行きました。今風にいうならとてもチルな時間を過ごせました。

秋もキャンプを計画しているし、冬は温泉めぐりを考えています。このように楽しみを見つけてそれを目標にすることで、日々の仕事にも張り合いが出ていると思います。

早く週末になってほしいです。



初山別キャンプ

透析看護課

【スタッフ】

松江知加子	課長
本間美穂子	係長 フットケア指導士
井上 晶子	主任
看護 師	6名
看護補助者	3名（午前2名、午後1名）

【部署の特徴】

透析装置を25台有し、月水金は午前・午後の2部透析、火木土は午前のみ1部透析を実施、最大75名の患者さんの血液透析が可能です。外来維持透析の他、手術などで転院された患者さんの入院中の維持透析にも対応しています。

今年度から、医師、臨床工学技士と月1回、合同カンファレンスを開催し、患者さんの透析治療についてディスカッションをしています。各々の専門職としての見解を共有することができ、よりよい医療の提供に繋がっていると共に、多職種間のコミュニケーションの場にもなっています。後半はコロナ禍で休会が続きましたが、このような場面を今後も継続していきたいと考えています。

【令和3年度の取り組み】

令和3年度部署目標

- 1、家族や多職種との連携を強化し、その人らしく生きるを支える看護を提供する
- 2、看護実践能力の向上を目指し、チームと個々の役割を発揮する

昨今、認知症の独居患者さんや高齢夫婦の世帯などが増え、外来透析の継続には課題が山積しています。今年度は各チームで家族やケアマネなど、患者さんを取り巻く地域の方々との連携をより強化することで、患者さんが望む場所で患者さんらしく生活を送ることを目指して支援してきました。訪問看護師やケアマネから相談を受けることも頻回にあり、その都度チームや部署内で情報を共有し、相談をしながら進めてきました。

コロナ禍でもあり、ご家族や地域の方々と顔を合わせることは困難でしたが、電話や手紙などを活用してきました。今後も、患者さんを取り巻く方々と連携をとりながら、患者さんが「住み慣れた場所」から安全に外来透析に通うことができるよう、支援をしていきたいと思っています。

また、今年度は看護実践能力の向上を目指して、患者さんをチーム全体で支えることを目的に患者さんのチーム分けを行い、各チームが主体となって支援を行ってきました。透析患者さんを取り巻く諸問題は多岐に渡り、看護介入することが年々増えています。受け持ち看護師が責任を持つと共に一人で抱える事なく、チームや部署全体で支える透析看護を今後も目指していきます。

コロナ禍2年目になり、透析センター内で感染者が出ないよう緊張の連続でした。

透析患者さんは重症化しやすいこと、環境的にワンフロアであり感染拡大しやすいことから、一般の医療従事者より一段高い意識を持って部署一丸となって感染対策に取り組んで来ました。口うるさくいう私の言うことを聴き入れ、共に進んでくれた患者さん、スタッフには感謝の思いしかありません。

【今後の目標】

コロナ禍で透析患者さんはじめ、スタッフには本当に多大な協力をしてもらいました。窮屈な思いもしたと思います。しかし、コロナ禍で得たことも沢山ありました。どんな状況下でも創意工夫と協力があればなし遂げられる、と考えます。

患者さんや自分達を取り巻く環境など、常に先を見つめながら今何をする必要があるのか、一人ひとりが考えられ、皆で協力し合える部署であることが願いであり、目標です。

文責 看護課長 松江 知加子



在宅支援

透析センター 山口 千恵

透析室に異動し2年目になります。

今までほぼ病棟での勤務しかありませんでした。
透析も外来部門での勤務も初めてで戸惑う事ばかりでした。

1年経って在宅支援の重要性がわかりました。

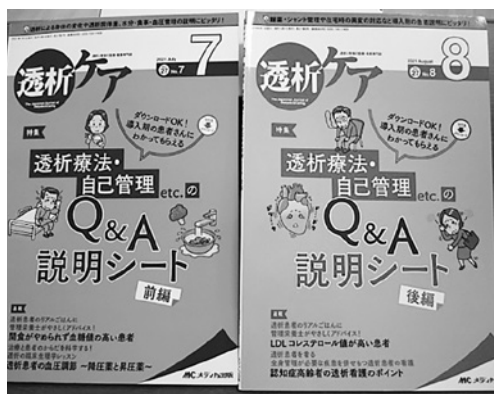
今年から在宅支援にチームで取り組んでいます。

在宅支援と言ってもどの様に行うのか、多職種や家族とどの様に連携したらいいかなど問題も多くありました。

ケースカンファレンスを行い、患者の問題点を解決できる様に指導を行ってきました。

患者や家族との信頼関係も築き、多職種との情報共有もスムーズになったと思います。

まだまだ足りない事もありますが、今後も継続して行っていきたいと思っています。



手術・中材看護課

【スタッフ】

谷川原智恵子 課長
臼杵 美花 係長
佐々木雪絵 主任
松木まさき 綱岸 大輔
野 達也 宮崎ゆかり
藤原 揚子 高橋久美子（助手）

【部署の特徴】

人員は、十分ではないが手術センター看護師の層が厚くなってきました。患者にとって手術という大きなイベントに対して安全な手術を行い患者を第1に考える看護、患者に寄り添い不安の軽減に努めています。

【実績】

手術件数：1490例（前年度同）
整形：1010例 外科：189例 泌尿器：231例
脊椎の手術、小児の手術の増加

新型コロナウイルスの蔓延でも手術制限を行うことなく手術を受けてきた結果、増加傾向となり成果が出たと感じています。

初めての部署異動を経験して

手術・中材看護課 中村 美幸

私にとっての令和3年は、育児休暇からの職場復帰と育児との両立で目まぐるしく過ぎていきました。

出産前は就職以降ずっと回復期リハビリテーション病棟に勤務しており、初めての異動先が手術室でした。1年半の産休育休を経てからの新しい部署への異動は、不安でいっぱいでした。

実際に働いてみると、たくさんの物品や器械の数、術式に合わせた部屋の準備や体位の固定、全身麻酔の導入等・・・挙げるとキリがないですが、覚えることがたくさんあり、どれも初めての経験でした。正直、私にはできないんじゃないかと思ってしまいました。しかし、働いているうちに少しずつできる事が増えていき、手術中に必要になった物品を間違えず取りにいった時は一人心の中でガッツポーズでした。間違えずに物品を取りに行くという事は当たり前の事ですが、異動当初は全然できず先生方にはご迷惑をおかけしたことも多かったと思います…（今もできない時がありますが…）。

直接介助では、局所麻酔の腱鞘切開術から始まり、全身麻酔で行う骨接合術や抜釘術、腹腔鏡下でのヘル

【令和3年度の取り組み】

前年より取り組んできたカウント業務の見直しや術前訪問開始を固定チーム中心に取り組んで来ました。カウント業務に関しては、器械セットを見直し局所麻酔手術、泌尿器科に（TUR）取り組みました。全症例には至りませんがその他の手術への取り組み、基準の作成等、来年度も継続して行っていく予定です。

術前訪問は、実施できて来ましたが基準、実施に関わる書類の整備も来年度に持ち越しとなりました。

【今後の目標】

カウント業務の完全実施、術前訪問の実施（看護計画含め）により安全で患者に寄り添う看護を継続できるように努めていきたいと思えます

文責 看護課長 谷川原 智恵子

ニアや胆嚢摘出術、尿管ステント留置術等もさせて頂けるようになりました。直接介助や記録業務の際に「大丈夫、できるよ！」「なにかあったら呼んでね」と先輩方が声をかけてくださり、この大丈夫という言葉がパワーになり少しずつ自信に繋がったと思います。

手術室の看護師や臨床工学技士、助手の皆さんには、いつも優しく教えてもらい感謝しています。まだまだ、至らないことがあり覚えなくてはならない事が山積みですが、たくさんの事を吸収して成長していきたいです。



手術準備をする筆者

地域看護課

【スタッフ】

高井 奈津子	看護課長	診療看護師 (NP)
		(日本NP教育大学院協議会認定)
		慢性疾患看護専門看護師 (CNS)
		介護支援専門員
千坂 あかね	看護主任	災害支援ナース
田中 寛子	看護師	災害支援ナース
今野 晶子	看護師	

【部署の特徴】

地域看護課は、主に入退院支援・調整、在宅療養移行支援を実践しています。院内外が多職種と連携・協働し、患者・家族へより良い看護・医療等を提供することを目指して、病気との付き合い方、生活上の工夫、地域サービスの利用などの情報提供、相談、調整を行い、患者・家族ができるだけ自分らしく療養生活を送ることができるよう支援しています。

【実績】

1. 入院支援

当院は50%の予約入院、50%の緊急入院の入院傾向があり、その中で整形外科の予約は70～80%であるため、令和元年8月からP F M機能の導入として整形外科予約入院患者を対象に支援を継続しています。その後、令和3年11月からは泌尿器科、令和4年1月からは外科の手術予定入院患者に対して入院支援を拡大いたしました。入院支援は地域看護課と外来スタッフをはじめ多職種の協力により、入院時から退院後の生活を見据え、多職種協働による支援を早期に介入できるように体制を整えています。入院時の情報収集から必要なマニュアルの整備を行い、患者が安心して入院生活が送れるような資料など作成しました(例：聴覚障害者用のパンフレット等)。

入院支援は入院時支援加算の算定にも繋がり、令和3年度(令和3年4～1月)は257件の入院支援を実施し、入院時支援加算2の算定件数は184件/年でした。

2. 退院支援・調整(在宅療養移行支援)

地域看護課の看護師は、地域連携課(M S Wや事務職)との日々のカンファレンス、病棟のカンファレンス、退院前カンファレンスに参加し必要時に家屋調査を実施しました。院内外が多職種と連携・協働することで、患者・家族が安心・安全に地域で過ごせるような支援を継続しています。

今年度も引き続きコロナ禍であるため、より一層の感染対策を講じた退院支援・調整となりました。面会制限に伴い、本人・家族面談、地域医療福祉者との面

談、退院前カンファレンス、家屋調査などの制限が続く中、情報交換・共有は電話やタブレット面談、Z O O Mの活用を駆使し、院内での短時間の面談や家族への療養指導の実践など患者個人に合わせて支援してきました。

今後も感染対策を講じ、患者・家族の意向に添えるように、支援体制の検討・構築を継続していきたいと考えます。

3. 教育

院内外の看護教育・人材育成に貢献できるような体制作りを継続しています。慢性疾患看護専門看護師の大学院講義、看護師特定行為研修を院内スタッフの協力を得ながら、高井が担当しました。また、北海道医療大学看護福祉学部看護学科の在宅看護学実習を受け入れました。実習指導者の田中看護師と千坂主任が中心となって学習環境の準備・調整・指導を行いました。

実習の講義資料やシャドウイングから、

- ・医学的視点と生活の視点からの情報収集や五感を使った観察が重要である。

- ・退院はゴールではなく病気や障害を抱えたままの新しい生活であり、家族には介護という新しい役割がつくためスタート地点である。

- ・今までの生活を大事に新たな生活を送ることができるよう、各部門の専門職種が連携をとりながら協働し、切れ目のないケアを提供することで、その人の療養生活・人生の物語が継続していく。

など、学びを得たと実習生とのカンファレンスやレポートから、私たちも学びを深めることができました。地域看護課各人が、実践及び教育的支援ができるように、計画的に研修に参加・オンデマンドによる学習等から自己研鑽しています。

【令和3年度の取り組み】

患者にとってより良い支援体制作りを目指すとともに、看護業務の負担軽減、看護ケアへの時間転換などへの評価をしながら、入退院支援体制の構築を継続しています。当院としてできるP F M機能を整形外科予約入院患者による支援で確立しました。今年度は、準備・調査を行い、段階的に泌尿器科、外科の2科を拡大することができました。

地域看護課の限られた人数と環境の中で、最大限の看護を提供するにはどうしたら良いかと相談・検討し続けました。入退院支援の実践評価を行いつつ、患者・家族のニーズを考慮し、退院前訪問看護・退院後訪問看護の導入について検討・準備を行っています。

看護部の入退院支援委員会とともに入退院に関する課題解決に向けて、入退院時に必要な書類の改訂など

の検討や、入退院時必要と考えられる患者・家族向けのパンフレットの作成をしました。

【今後の目標】

コロナ禍による影響も鑑み時世の変化に対応し、これまでと同様に入院・在宅の場だけでなく、病気を抱えながら、希望する生活場所で、安全に安心してその人らしく暮らせるような支援ができるように、医療・福祉・介護の連携・協働の強化・整備を継続的に実践していきます。

次年度は診療報酬改定も確認し、看護部、委員会等関係者と解決に向けて看護部全体で活用するデータベース、看護計画についての継続課題について、次年度も引き続き、策を講じていきたいと考えます。複雑な看護実践の中、これまでの入退院支援の課題を含め、看護師が患者主体のケアを実践し、生活と医療を統合したケアマネジメントができるようにアセスメント力の向上を目指し、体制作りを継続していきます。

文責 看護課長 高井 奈津子

教育看護課

【スタッフ】

早川 明美 教育課長
浅田 孝章 看護主幹

教育委員会

委員長：浅田孝章（看護主幹）
委員：岡本 麻理、兒玉真夕美、伊井 洋子、
岸本 悦子（以上課長）、臼杵 美花（係長）
中山 祐子、砂川 友紀（以上主任）

新人教育検討委員会

委員長：早川 明美（教育課長）
委員：浅田 孝章（看護主幹）、原田 真里、
吉田真知子、本間美穂子、中山 優子、
臼杵 美花（以上係長）、齋藤 亜妙、
佐藤由紀枝、丸岡 貴子（以上主任）

【部署の特徴】

教育理念「済生会の看護理念を理解し、安全で安心できる質の高い看護を提供できる看護師を育成」のもと、一人ひとりにあわせた、臨床現場で活かせる研修

【実績】

年度	新人研修時間数	新人の人数他	ラダー時間数
令和3年	168時間30分	16名（看護師11名、准看護師5名）	38時間35分

令和3年度ラダー研修 参加者一覧										
ラダーレベル	部署	3A	3B	4A	4B	5B	外来	地域看護	透析室	手術室
I	院内ラダー要件研修									
	フィジカルアセスメント①	安藤 優花	大村 和史	葛西 翔暉	北村 光	宮田 杏奈				松木まさき
II	フィジカルアセスメント②	上口 玲菜	村山 綾香	田中 聖美		小松田まどか			高橋 知子	
						藤林茂鈴恵				
	ケーススタディ	山本 信	佐々木知美	山崎多寿子	田村 英里	金田 匡代				
	看護過程④	田中 幸希	石丸 恵子	澤田 涼子	川崎 雅美	太田 聖子			山口 千恵	藤原 揚子
	リーダーシップ②	斎藤 朋美		南 郁美		太田 聖子	早川恵美子		安達奈那子	松木まさき
	退院支援②	木藤 絢子	森地 有希	森 愛華	渡辺 瑞季	浅香 香織	松本 美紀		高橋 知子	
III	フィジカルアセスメント③	今井 友裕	越智 侑哉	佐々木真琴		大石 睦美	本城祐美子			
				遠藤英津子	安宅 春華					
	リーダーシップ③	藤原 大地	小路 深雪	柴田 祐希	安宅 春華	石田ゆかり	菊池麻衣子		古瀬 康江	真田 智広
	看護倫理	見澤 早苗	今井 友裕	高橋 有沙		照井 りか	笈田 遥香		田中 葉子	宮崎ゆかり

【令和3年度の取り組み】

1. 新人看護職員入職時研修

新型コロナウイルス感染症の対応に関連した看護基礎教育における臨地実習の経験の不足を補い、新人看護職員のリアリティショックの軽減、職場適応を促進し、早期離職防止、臨床で指導をする看護職の負担軽減を図ることを目的として、入職時研修の日程を増やし支援しました。新人16名が入職し、4月2日（金）～15日（木）の10日間で入職時研修を行いました。今年度からの取り組みとして、新人指導者にも研修から携わってもらうことで、新人と良い関係性を構築するこ

を行うため、教育委員会と新人教育検討委員会が中心となり「新人研修」と「ラダー研修」の2本柱で1年間計画的に研修を企画・運営・評価を行っています。

新人研修は、基本的な看護技術を早く習得できるように演習を多くし、研修後個人練習、個人指導を行える体制を整え、職場でのリアリティショックが少なくなるよう工夫しています。また、新人指導プログラムの進捗と、メンタル面の変化に合わせ、新人に寄り添う研修で1年間の成長をサポートしています。

ラダー研修では、高度な社会のニーズに応えられる看護職員の育成を目指し、理念や基本方針に基づき実現できるように、看護実践（クリニカル）の能力に焦点化した4つの力（ニーズをとらえる力・ケアする力・協働する力・意思決定を支える力）と、済生会の組織人として幅広く看護実践の研鑽と積み上げができるよう研修を組み立てています。また、院内の研修にとどまらず済生会本部研修（東京）、看護協会の研修など院外研修の参加も、積極的に支援しています。

とに繋がったと思います。研修は社会人・組織人としての心構え、看護部の概要、各部署の紹介など看護職員として働くための基礎学習と、研修後すぐ職場で看護実践ができるように電子カルテ、看護記録、看護技術「採血」「静脈注射」など演習を多く取り入れました。

2. 新人研修

新人研修は新人看護職員研修ガイドラインをもとに、当院の「新人看護職員指導計画」に合わせ研修計画を立案しました。指導方法の統一をしていくためにナースングメソッドを活用できるか研修を通じて確認

し、全体での導入していくことになりました。4月、5月、6月は新人のリアリティショックが少なくなるよう基礎看護技術「清潔」「排泄」「環境調整」「移動・休息」日常生活援助技術の向上と、「感染予防」「与薬」「バイタルサイン測定」「採血」の実践力を強化しました。その後は、看護部の目標に合わせ「認知症ケア」「退院支援」「緩和ケア」「メンバーシップ」を実施しています。4月～11月までの間、毎月新人研修を組み込んだことで、新人同士が交流を持ち、お互いの成長を確かめ合う場ともなりました。新型コロナウイルス感染の拡大により、当初の研修計画の延期や変更を余儀なくされましたが、万全の感染対策の中、新人研修を行うことができました。

3. ラダー研修

昨年度より「なでしこキャリア開発ラダー」の改訂があり、新たな認定制度の運用となりました。それに伴い評価表兼認定書の見直しもあり、クリニカルラダー委員会と協力して研修との整合性を確認していきましました。昨年度の評価を基に担当者が中心となり内容を見直し、OJTに繋げていくために実践研修を多く取り入れていきました。また、監督職にも実践での指導を協力依頼して取り組みました。

コロナ禍で日程を変更することもありましたが、

リーダーシップⅠの研修対象者がいないため中止となった以外は、ほぼ計画通りに実施できました。

4. 研修を実践に繋げていくために

10月に『研修の心得』を作成し、研修のプログラムと共に配布して研修に対する心構えの意識付けを図っていきました。「インストラクショナルデザイン」についても学び、同じように指導していけるように統一した書籍を購入し、各部署に配布しました。また、『OJTを実践していくために』冊子を作成。OJTについて理解してもらい、同じように指導していけるように取り組みました。

【今後の目標】

研修の対象者が自ら望んで参加したいと思える魅力ある研修の企画・運営をしていきたいと思います。研修で学んだ事が看護実践の現場で活かせるように、どんな研修をして、何を学んだかを部署にかえしていきOJTに繋げていくことが課題であると考えます。今後も教育をシステムとして捉え、PDCAサイクルを回していき人材育成に取り組みます。

文責 看護主幹 浅田 孝章



新人入職時研修での早川課長の講義



点滴静脈内注射研修



技術研修 採血



令和3年度新入職看護職員



感染対策をしての研修



感染予防対策研修

事務部

■ 総 括

【事務部の体制】

(組織体制)

- ・ 管理事務室：総務課、経理課
- ・ 医療支援室：医事課、地域連携課、
医療クラーク課、健康診断課
- ・ 情報システム課
- ・ 院内保育所

(職員数)

正職員 44名 (内、保育所 1名)

常勤雇用契約職員 25名 (内、保育所 4名)

非常勤雇用契約職員 24名 (内、保育所 7名)

計93名 (内、保育所12名)

(役職者)

部長 1名、室長 2名、課長 2名、主幹 1名、
係長 2名、主任 11名

(主な保有資格)

診療情報管理士、社会福祉士、精神保健福祉士、社会
保険労務士、医療クラーク、医療メディエーター、医
療経営士、医療情報技士、保育士、看護師

※令和4年3月31日現在

【令和3年度の取り組み】

令和3年度は「積極的なコロナ対応とポストコロナ
を見据えた病院改革」を戦略テーマとして事業計画を
策定し取り組んで参りました。

1. 積極的なコロナ対応

①新型コロナウイルス感染症重点医療機関

令和4年2月から引き続き、5病棟のうち1病
棟を感染症専用病棟として感染患者の入院受け入
れ、診療を実施

(即応病床数はフェーズ1・2にて10床、フェーズ
3にて11床)

②発熱者診療・検査医療機関

令和3年12月から引き続き、敷地内に専用の発
熱外来棟を設けて、新型コロナウイルス感染症に
係る発熱外来を実施

(平日13:40~15:40、かかりつけ患者に関ら
ず1日最大12名まで)

③新型コロナウイルス感染症ワクチン接種

高齢者、医療従事者、一般の方に対して1~3回
目のワクチン接種を実施。

平日午後、休日にて集団接種を開催。令和3年度
ワクチン接種回数は延9,890回。

④新型コロナ診療と一般診療の両立

新型コロナ受け入れ専用病棟の設置により、通常
より1病棟少ない一般急性期3病棟、回復期リ
ハビリテーション病棟1病棟にて運用。地域医療
機関と連携を図りながら、救急患者の受け入れに
影響が生じ無いよう注力した。

2. ポストコロナを見据えた病院改革

①事務職員の人材育成の取り組み

事務室長をリーダーとして所属課の垣根を越えた
事務職員チームによる活動を行い次世代リー
ダーの育成を図った(ヒト、モノ、カネ、情報毎
にテーマを設定)

②DXの推進

ICTを用いて定型的な業務を自動化し、業務改善
により得られた時間を医療の質の向上や収益増に
つなげるため、DXの推進チームを発足

- ・ ワークフロー導入検討チーム
- ・ タブレット問診導入検討チーム
- ・ タイムスタンプ導入検討チーム

③働き方改革の推進

令和6年度から適用開始となる医師の働き方改革
に関して、医師の勤務実態の把握、タスクシフ
ト・タスクシェアの推進プロジェクトの本格的指
導

【今後の目標】

令和3年度を終え、未だ新型コロナウイルス感染症
は収束の気配がみられず、感染の拡大が続いていま
す。一方で社会経済活動は再開し、今後、ウィズコロ
ナとして感染対策を行いながら、コロナ診療と一般診
療の両立が求められることと思われます。今年度は病
院改革としてDXの推進の検討始めましたが、決定・
実行まで至らないケースが多数ありました。来年度は
実行の年度として早期に改革に取り組んで参りたいと
考えております。

文責 事務部長 五十嵐 浩司

管理事務室

総務課

【スタッフ】

蝦名 哲行	課長（管理事務室長兼務）
秋元かおり	人事・給与グループ、臨床研修・秘書グループ（主任）
内山 泰男	人事・給与グループ（主任）
石橋 慶悟	庶務グループ（主任）
細松 有香	庶務グループ、臨床研修・秘書グループ
中川 雅美	庶務グループ
吉田 理恵	臨床研修・秘書グループ
成田 明美	電話交換グループ
寺島 光代	電話交換グループ
吉田 悦子	電話交換グループ
神山 拓也	施設管理グループ（主任）
豊川 哲康	施設管理グループ
坂井 駿介	施設管理グループ
古田 順一	施設管理グループ
松原 明	施設管理グループ
《委託職員》	中央監視スタッフ 3名（夜間・休日）
	警備スタッフ 5名（夜間・休日）

【部署の特徴】

総務課は、大きく4部門に分かれて業務を行っております。

- ① 人事管理、労務管理、給与計算、文書管理、庶務関係
- ② 臨床研修事務、医局秘書業務
- ③ 電話交換、防災センター業務・窓口受付、制服の在庫管理
- ④ 施設管理、法定検査・自主検査の計画及び実施、備品の点検・修繕対応、中央監視室・防災センターの管理、委託業務の管理

【実績】

常勤職員数の推移（単位：人）

区分	平成31年4月	令和2年4月	令和3年4月
医師	25.1	25.8	26.4
看護師・准看護師	176.4	165.8	177.4
看護補助者	40.1	49.2	45.9
医療技術職	111.5	110.0	111.1
事務職員	72.9	66.3	71.7
その他職員	15.6	24.0	21.9
合 計	441.6	441.1	454.4

※令和2年度9月のみどりの里統合により、SPD・防災センターで増員あり

光熱水使用量実績

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
電気使用量(kWh)	2,743,010	2,531,846	2,544,260	3,253,294	3,397,594
ガス使用量(m³)	400,262	384,411	390,815	526,559	579,137
水道使用量(m³)	31,666	31,708	31,796	35,776	41,086

※令和2年9月以降、みどりの里増築棟光熱費含む

【令和3年度の取り組み】

○労務管理業務の効率化と新制度への対応

- ・新勤怠管理システム「勤次郎」導入
打刻システムにより、客観的な出退勤時間を把握、給与ソフトへの取り込みによる 給与計算一部自動化、出勤簿のペーパーレス化、職員の在院状況の把握、院内統一の勤務表、様式9の自動化の実現、職員が利用しやすい環境構築の為のメーカー交渉、有休取得率の把握、看護休暇・介護休暇の時間単位年休取得、緊急連絡先の把握
- ・職員満足度調査の実施
- ・ストレスチェックの集団分析の実施
- ・対象職員への生活習慣病予防健診の実施
- ・保健師による無料の特定保健指導の実施
- ・新型コロナウイルス感染症に関する職員周知
 - ・受入体制情報の外部提供禁止について
 - ・職員本人及び家族発熱の際の対応について
 - ・対応職員の手当等について
- ・職員緊急連絡メールのシステム運用
- ・給与明細ウェブ化開始
- ・社会保険事務の電子申請開始
- ・職員家族情報管理システム構築
- ・規程集のペーパーレス化（イントラネットへ収載）

○研修管理体制の強化

- ・専門医制度内科専門研修プログラム 1名修了
- ・専門医制度整形外科専門研修プログラム 認定
- ・看護師特定行為研修 第2期生研修修了

○電話交換業務の更なる応対力の強化と顧客サービスの向上

- ・「不審電話対策マニュアル」の院内周知

○施設管理

- 《法定点検》
 - 建築設備定期報告
 - 消防設備点検（総合点検、機器点検）
 - 防火対象物点検
 - 防災管理定期点検
 - 簡易専用水道検査、受水槽清掃
 - 作業環境測定（ホルムアルデヒド、エチレンオキシド）
 - 煤煙測定（冷温水発生器2基、温水ボイラー1基）
 - 事業場排水測定結果報告
 - 医療ガス設備点検
 - 第一種圧力容器性能検査（貯湯槽2基、滅菌機2基）
 - 非常用発電機負荷試験
- 《その他》
 - 自衛消防訓練の実施（年2回）
 - 備蓄飲料水の更新

送迎バスの入れ替え（新規リース契約・旧車両売却）

送迎バスダイヤ変更

正面道路アスファルト修繕工事

冷温水発生器冷媒配管交換工事

院内保育所の非常災害対策計画の策定

インフラ長寿命化計画の策定

暴力対応マニュアルの更新

【今後の目標】

令和元年度より導入となりました勤怠システム「勤次郎」の活用による更なる業務改善と標準化・平準化を図り、引き続き各部門との連携をしていきます。

さらに昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響による職員の体調（体温）管理や休暇の管理など、各グループでの業務分担・遂行することで一体感やチームワークを大切にし、職員に対する窓口業務も重要な業務の一つであることを再認識し、職員が安心して働きよく働けるよう、信頼される総務課として各業務に取り組み、病院の顔である電話対応窓口としてもスムーズに対応できるよう心がけたいと思います。

文責 総務課 細松 有香

もうこりた

総務課 石橋 慶悟

突然ですが、タイトルの言葉を見て何を連想するでしょうか。大多数の方は何かに「懲りた」とイメージし、何かやる気を無くした状態を連想するのではないのでしょうか。

私が当時高校生の時、修学旅行で奈良県にある薬師寺で説法を聞く機会があり、その時に初めて「忘己利他（もうこりた）」という言葉に出会いました。この言葉を要約すると「自分の事はひとまず置いておき、まずは他人の為に動けば自分を含め皆が幸せになれる」という意味だそうです。当時私はこの言葉の意味に何か感銘を受けたわけでもなく、弁舌爽やかなお坊さんの「もう懲りた」と掛けた駄洒落にただ笑っていた記憶があります。あとは、同じ読み方でも全く異なる意味に少し驚いていたような気もしますが、今こうして思い出になっているところを考えると、それなりに衝撃を受けていたのかもしれない。

前置きが長くなりましたが、そんな当時から15年が経ちました。済生会小樽病院に就職してからは9年目になり、今年度から人事・労務・経理などといった病院または職員の管理を行う管理事務室へ異動となりました。業務内容は多岐にわたるため割愛させていた

だしますが、私の役割の一つとして、職員からパソコン等といったシステム系のヘルプや相談を多く受ける立場となりました。これは、新型コロナウイルスの感染対策等からICT（情報通信技術）を使ったサービスの利活用が増えたことで、機械に対し苦手と感じている職員も、否応無くこうしたサービスを使わざるを得ない状況になったことが起因しています。世間では「コロナ禍でICT化は10年進んだ」などと言われており、ICTの介入が中々進まなかった医療業界でも、一見ポジティブに見える状況である一方で、得手不得手で人が二分化してしまい、こういったネガティブな面も同時に発生する事態となっています。様々な分野でデジタル化が求められ、パラダイムシフトが加速する現代では、こうした不得手と感じている方もできるだけ不安に感じさせない環境作りが必要であり、それが私自身の組織における一つの役割になっています。

令和2年度に小学校でパソコンの授業、プログラミング教育が開始されたように、これからの時代、パソコンはもちろんのこと、組織の中で導入されているアプリやツールを使いこなすことは、働くうえで必須条件となります。私自身も今後の流れについていけるのか、どこまで親身になって対応できるかと少し不安に感じているところですが、「もう懲りた」なんて少しネガティブになった時は「忘己利他」という言葉を思い返し、職員一人一人が不安なく仕事に取り組めるよう、前向きに取り組んでいきたいと思います。



奈良で食べた抹茶とあんみつ

【スタッフ】

蝦名 哲行	課長
堀 博一	係長
佐藤 緑	主任

【部署の特徴】

主な業務は、出納（現金・預金の管理）、旅費計算、会計システムへの入力・帳票の作成、郵便物の発送、予算・決算業務、借入金、経営分析、財務諸表作成、未収金管理、固定資産管理など病院の『資産』に関する業務全般となります。

令和3年度は、昨年度と同様に 新型コロナウイルス感染症に関する補助金の入金管理やWebによる会議や各研修会の開催など例年とは違った1年となりました。

また、院内教育の一環による事務課員の人事異動があった年でもあり新たなメンバーで業務を遂行し作業の効率化やDX推進に臨む前のデジタイゼーションに取り組みwithコロナに向けて準備をしてきました。

【実績】＜令和3年度 経理課関係行事＞

- 4月 令和2年度決算報告、支部監事監査
- 5月 令和2年度消費税報告、支部理事会
- 6月 令和2年度法人税報告
- 9月 支部理事会（令和3年度施設整備計画・補正予算）
- 10月 令和3年9月期 プレ決算実施
- 12月 有限責任監査法人トーマツ訪問往査⇒新型コロナウイルス感染拡大防止の為延期
- 1月 支部理事会（令和4年度事業計画、予算）
- 3月 有限責任監査法人トーマツ訪問監査⇒新型コロナウイルス感染拡大防止の為延期

【令和3年度の取り組み】

以前からの目標である月次決算・集計・分析作業等の迅速かつ正確に行えるよう業務の平準化、簡略化、作業分担の見直しなどにより他部署との連携強化さらに時間外勤務の減少など成果がみられました。

特に月次決算の処理については業務システムと日程の見える化によるスピード戦略を行い適正な処理を進めてきました。

【今後の目標】

人事異動による業務効率の低下がある事を踏まえた詳細な業務マニュアルの作成、業務の可視化、さらに作業効率を考えた自動入力システムの構築を進め日常業務を軽減し経営管理と経費の増減を分析できる環境を構築する事が当面の課題と考えます。

文責 事務係長 堀 博一

【スタッフ】

堀 博一	係長
木村 卓司	主任
宮崎 広次	
荒木亜由美	SPDスタッフ
碓井あさこ	SPDスタッフ
片岡 真彩	SPDスタッフ
山澤 啓子	SPDスタッフ
須貝 洋子	SPDスタッフ
吉田 有希	SPDスタッフ

【部署の特徴】

購買業務を主とし、SPDスタッフと共に各部署で使用する診療材料、医薬品、日用品などの物品管理・院内配送・受発注を行っています。

その他、売買契約、保守・委託契約の窓口として、各部署と調整し取引業務の最前線で日々業務を担っております。

また、各部署の業務改善や患者サービス向上に向けた取り組みのサポートを行う部署です。

今年度は、タブレット端末の普及が加速化し、オンラインサービスの拡大など、一部システム関連業務のサポートも多くなっています。

【実績】

診療材料購入実績：385,147千円

医療機器・器具備品購入実績：176,977千円

医薬品購入実績：298,391千円

入札実績：令和3年7月 CT撮影装置

令和3年12月 昇降機改修工事

【令和3年度の取り組み】

未曾有の感染症、新型コロナウイルスの影響から、物品供給不安定は継続し、欠品や代替品対応の調整が継続しました。

新型コロナウイルス時代3年目を迎え、感染対策に

対する疲弊感も伺えましたが、職員の意識の高さ、対応の迅速さが勝り、市内で新型コロナウイルス患者受入医療機関では、唯一クラスター発生を起こさず終えたことは非常に誇らしく感じます。

重点医療機関として、より強固で安全な医療体制を担うため、補助金を活用した医療機器の購入も多くあり、大型医療機器の購買手続きが継続しました。

また、昨年同様、PPE用品の購入量が増加しており、物品の安定供給を第一にICTはもとより、各部署の協力があり、乗り切ることが出来ました。

その他、IT機器の活用による患者サービスの向上のため、オンライン面会を院外の家族と実施できるよう看護部、情報システム課、医事課、経営企画室担当者と共同し構築しました。

面会禁止期間が長期化する中、当院にお越しいただかなくても、画面越しではありますがご家族とビデオ通話にて会話頂けることは、患者様の満足度向上に寄与したと感じます。

初めは当院スタッフも不慣れな方が多くいましたが、昨今、職員も研修等でオンライン対応が増えていることもあり、現在では、事務方のサポートなく実施しています。

【今後の目標】

用度購買部門は、多岐に渡る契約内容を担当する業務が多くあります。

契約内容に不備はないか、当該部署の満足する内容となっているかは、担当者自身の知識量も必要ですが、それ以上に各部門間のパイプ役として調整力の重要性について意識を持ち業務に取り組んで参ります。

また、次年度は診療報酬の改定もあり、新型コロナウイルスの影響による物価上昇が予想され、病院経営に影響するコスト抑制に対し、費用削減についても一層取りみたいと思います。

文責 事務主任 木村 卓司

コロナ禍でも…

経理課 木村 卓司

コロナ禍となって2年目、私生活ではあまり外出で
きなかったこともあり、用度購買Gに配属となった初
年度を振り返ってみたいと思います。

当該部署の経験がないことで関係部署の方には、対
応にお時間を頂戴することも多く、ご迷惑ばかりおか
けしましたが、皆さま嫌な顔せず、時には親切にご教
示いただいたことを大変感謝しています。

とにかく日々、依頼のある案件に対し調べごとか、
現地に走る日々だったように思います。

話は変わって、DXの推進やIT機器の発展により、
社会のコミュニケーションツールは拡大し加速的に普
及しました。

ZOOMやTeamsなどを用いたオンライン会議、
ウェビナーは現在欠かせないものとなりつつあります。

当院でも今年度、看護部、情報システム課、医事
課、経営企画室、用度購買担当者にて、院外オンライ
ン面会を構築しました。

もともと当院にお越し頂いて行う院内オンライン面
会は既に実施していましたが、今回ZOOMミーティ
ングを活用し、院外の方と繋げるため、先方の連絡先
を確実に取得し、かつ当日参加するZOOMミーティ
ング情報をお送りする必要がありました。

この辺りの仕組みは、専用のサーバーを契約、設定
するなど、当院SEにより構築することができました。

ZOOMミーティングについて、今では、当院ス
タッフも操作方法にも慣れスムーズに対応頂いており
ます。

スマホ世代には当たり前のビデオ通話も、高齢の患
者様ですと、まだまだ馴染みのない方もたくさんい
らっしゃいます。

そこを病棟スタッフのサポートのもと、20分と短
い時間ですが、ご家族の顔をみてお話しいただけるこ
とは面会制限が長期化する昨今、非常に重宝している
と感じます。

このような仕組み作りを構築した1年となったので
すが、きっかけはやはりコロナ禍の中、さまざまな場
面でオンラインの対応が求められたためです。

当院の院外オンライン面会のきっかけもやはりコロ
ナ病棟からでした。

私が当課に配属され、先述のような院外オンライン
面会の仕組みを確立する前、コロナ病棟の患者様とご
家族をオンラインで繋げてあげたい。と相談を受け、
個別に対応していました。

LINEビデオ通話で行ったり、GoogleDuoビデオ通
話で対応したりと私もお相手のご家族も不慣れな状態
でしたが、無事繋げることができ、お話しいただけた
ときは安心しました。

中でも印象的だった一つに、当時は個別対応だった
ため「急がないけど、オンライン面会をしてあげたい
患者様がいます」と相談を受け、私の業務調整もタイミ
ングが良かったこともあり、即日対応させて頂き、例
によって、先方のご家族も不慣れなため、LINEIDを
取り込んで頂いたり、ご家族と事前テストを行ったり
した患者様がいらっしゃいました。

いつも通り何気なく対応した出来事ですが、後日亡
くなられたとお聞きました。

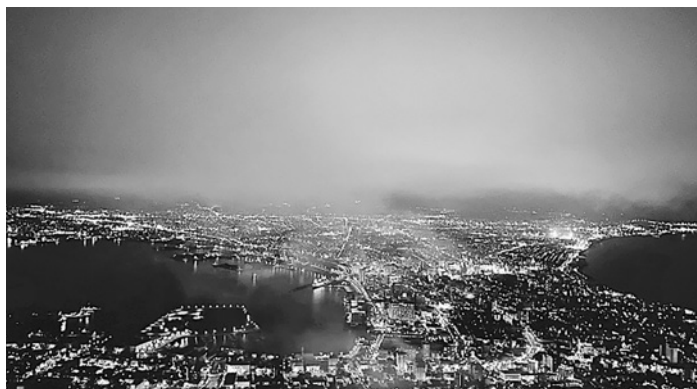
その際、「オンラインでご家族とお話しすることが
でき、対応頂けて本当に良かった」とスタッフからお
言葉を頂きました。

医療従事者には当たり前の生死の関りですが、私に
は身近にないものでしたので、迅速に対応できたこ
と、本当に良かったと思います。

反面、様々な意味で新型コロナウイルスへの脅威も
感じました。特に対面できない辛さは日常生活を送っ
ている私達でも日頃感じることです。

新型コロナウイルスの終息を願うばかりですが、長
期化し、withコロナ時代へ向かっていくために、当
院で行える患者サービスについて新たな取り組みを常
に検討していく必要性を感じています。

それでも、患者様にご家族が面会に来られ手を握っ
てお話ししている風景が早く戻ることを願わずにはい
られません。



いつかの函館

医 事 課

【スタッフ】

阿 畠 亮 課長 診療情報管理士
 小野 翔平 主任
 森 雅之
 平澤 慎吾 診療情報管理士 医療経営士3級
 伝法 俊和
 館林くるみ
 太田 歌子
 小泉 幸代
 世戸 収子
 本間 美江
 (その他 雇用契約職員6名)

【部署の特徴】

患者さんが病院を受診する際に最初と最後（受付と会計）に係わりを持ち病院のイメージにも大きく影響する部署です。きめ細やかな対応はもちろんのこと苦しい立場である患者さんによりそい診療部門や看護部門等とは違ったサービスを提供していく部署になります。

また、医事課は院内で行われる医療行為を診療報酬請求ベースに医療収入へ置き換える中心的な役割があり病院経営にとっても重要な業務を病院全体と連携し担っています。

それ故に日々の業務では課題が山積しております。今後もチーム一丸となり、院内連携・院外連携を意識し医療への貢献と病院経営への参画をとおり地域社会に貢献していきます。

【実 績】

発熱外来延べ患者数 692人
 新型コロナウイルス感染症 入院患者延べ患者数 859人
 新型コロナウイルスワクチン接種回数 9,890回

【令和3年度の取り組み】

新型コロナウイルス感染症拡大のため発熱外来・ワクチン接種・陽性者対応などに取組んできた1年となりました。また、新型コロナウイルス感染症の入院に伴う患者対応から施設基準管理・補助金対応・G-MISやHER-SYSの登録・請求管理など各種業務の増大により通常業務との両立のため通常業務の小さな見直しにも取り組みました。

【今後の目標】

各種業務の精度向上・業務効率化のためDXを推進し、それと並行して人材育成に力を入れていかなければなりません。それにより質の向上と患者満足度・職員満足度の向上を図り患者や医療従事者を支援する部署として地域社会や病院経営に貢献することを目指します。

文責 事務課長 阿 畠 亮

済生会職員になって

医事課 森 雅之

令和4年2月より当院で働いている医事課の森と申します。出身は芦別で大学卒業後、平成20年から小樽に住んでいます。小樽の総合病院、札幌の脳神経内科病院を経て当院に入職いたしました。私の地元である芦別は北海道の真ん中よりやや西寄りにあります。森林に囲まれており、森林が約89%を占める、自然豊かなまちでした。今は海が見えるということが当たり前になっていますが、地元にいたときは年に1度くらいしか海を見られることがなく、海を見るたびにワクワクしていたのを今でも覚えています。そんな私ですが、小樽に住み始めて14年目になります。夏は海水浴、キャンプ、冬はスキー、そして一年を通しておいしい海産物が食べられる小樽で生活がで

きてとても幸せだと感じています。

話は変わりますが、私は病院では現在自賠、労災請求を担当しています。以前にも経験したことがある業務ですが、当院は自賠・労災患者件数が多いので、労災独自の加算、算定項目を理解し、算定漏れ、査定に気を付け、適正な診療報酬請求を行うために日々業務を行っております。

また、当院は筋電電動義手の装着訓練等の実施医療機関となっております。現在北海道では札幌医大、旭川医大、当院の3病院しかありません。私自身今まで取り扱ったこともなく、どういうものなのかもわかりませんでした。医事課の担当として患者さんにどのような手続き、書類が必要なのか。診療費をどのように請求するかを自分で調べたり、先輩に教えてもらいながら行っております。

今後も医事課職員として患者さんのため、病院のために貢献できるように頑張りたいと思います。



医療クラーク課

【スタッフ】

浦見 悦子 事務課長

・医師事務補助グループ 18名

柴田 幸子 事務主任 (R4.1.31迄)

ドクターズクラーク

葛西 淳子 事務主任

ドクターズクラーク

平尾 愛

ドクターズクラーク

焼田久美子

ドクターズクラーク

田宮 千晶

ドクターズクラーク

伊藤紀美江

他、雇用契約職員12名のうちドクターズクラーク5名

・外来受付グループ 7名

【部署の特徴】

医療クラーク課では外来診察補助業務、医療文書の作成補助業務、回復期リハビリテーション病棟専従医師の事務作業補助業務、医療の質の向上に資する事務作業業務、予約センター業務等を行っています。

1. 外来診察補助業務

業務の中心となる外来診察補助業務では各ブロック受付、各外来診察室、内視鏡室、中央処置室にスタッフを配置し診療がスムーズに進められ、医師・看護師の事務的な作業負担軽減が出来るよう各種検査・処方・リハビリ等のオーダー代行入力、次回予約入力、検査説明等を行い多職種と連携し業務を行っています。

2. 医療文書の作成補助業務

各種診断書、介護保険主治医意見書、医療要否意見書等の作成依頼・作成代行及び医師が作成した完成書類の処理、問合せ等に対応しています。

3. 回復期リハビリテーション病棟専従医師の事務作業補助業務

医師の回診に同行し、各種検査・診察記録等のオーダー代行入力や入退院に係る文書作成代行業務を行っています。

4. 医療の質の向上に資する事務作業業務

診療に関するデータ整理、手術の症例登録等を行っています。

5. 予約センター業務

平日14～16時まで患者さんからの診察予約や予約変更等の電話連絡に対応し、患者さんに寄り添いご希望にお応えできるよう努めています。

【実績】

文書取扱件数 (件)

診断書(入院証明書・通院証明書)	1,126
診断書(当院書式)	526
傷病手当	252
身体障害者診断書	115
特定疾患個人調査票	237
労災(照会・意見書)	455
介護保険主治医意見書	970
医療要否意見書(生保)	1,310
訪問看護指示書	254
計	5,245

予約センターでの予約件数 (各外来での対応も含む) (件)

予約	4,363
予約キャンセル	931
予約外案内	1,168
その他	2,025
計	8,487

【令和3年度の取り組み】

昨年度より引き続き新型コロナウイルス感染症流行による感染症拡大防止対策として、症状が安定している慢性疾患で外来受診されている患者さんの電話による診療（投薬）の対応、外来受診に来院される患者さんへの体温・体調確認等、感染対策を図りながら業務に努めて参りました。また、10月より緩和ケア内科外来の診察補助業務も担い、医師・看護師の事務作業の負担軽減が出来るよう連携し業務を行いました。

業務改善としては医療文書の作成業務方法を見直し質の向上を図りました。DX(Digital Transformation)推進にも取り組み、医療文書の一つである「介護保険主治医意見書」の集計業務をシステム化し他部署との連携強化が図れました。

学習と成長の視点では全国済生会の横断的組織である「済生会MA（医師事務作業補助者）会」の勉強会に初めて参加し、スタッフのスキルアップ・モチベーションの向上が図れ、実務者同士の横のつながりを持つことが出来ました。

令和3年度を振り返って。

医療クラーク課 田宮 千晶

私は、クラーク課に配属されて1年がたちました。

平成18年に派遣社員として、済生会に働き始めてから私は、会計窓口に座り、新患対応、外来請求書作成、レセプト請求を行っていました、病院移転とともに職員になりました。

あまりにも長い間、会計にいたので異動の時期になると、『次はきっと、田宮さんだね』といわれることも多く、少し覚悟はしていたつもりでしたが、実際に異動の話があった時は大変ショックで、受け入れるの

【今後の目標】

患者さんを中心とした医療を提供できる環境作りをサポートしていくため、医師・看護師の事務的な作業負担をより軽減出来るようスタッフのスキルアップを図り、各部門とのコミュニケーション・連携を強化して参ります。令和6年度より順次施行される「医師の働き方改革」に向けた新たな業務にも柔軟に取り組んでいきたいと思っています。

また、今後も継続して感染症対策を徹底しながら外来診察補助業務等に日々努めて参ります。

文責 事務課長 浦見 悦子

に時間がかかりました。

クラーク課では整形に配属され、医師の診察補助業務を行っていますが、1年目は毎日新しい事を覚えるので必死でした。

2年目になり、相変わらず失敗も多く反省の毎日ですが、いろいろな人に相談し、励まされたり、注意をされたりしながら、何とか日々の業務をこなしています。

自分としては、少しずつ仕事も覚え、余裕もできたかなと思っています。

新型コロナウイルスも収束の目処が立たない毎日ですが、これからも患者さんにとって何が一番よいかを考えることを忘れずに日々の業務を行っていきます。

健康診断課

【スタッフ】

浦見 悦子 課長
菅原 充晴 係長
吉田 幸恵
窪田 恭子
工藤 美奈

【部署の特徴】

小樽市内や近郊の企業健診、各種がん検診を含む市民健診のほか、若年から高齢者まで様々な年齢層の方々に受診して頂けております。

また、近年、労働者の健康管理や健康に対する関心も高まっており早期発見・早期治療にお役に立てるよう予防医療として協力し携わっていきたいと考えております。

【実績】（令和3年度）

	人数 (人)	収益 (円)
生活習慣病予防健診	1,511	22,343,188
日帰りドック	183	6,572,061
企業健診	2,236	17,081,921
特定健診	576	4,820,859
市民健診	308	2,078,947
個人健診	443	4,127,359
がん検診	30	154,265
ちょこっと健診	274	190,200
その他 ワクチン	149	427,995
合計	5,710	57,796,795

【令和3年度の取り組み】

昨年度に続き令和3年度も緊急事態宣言が発動され、胃カメラや肺機能検査の実施を見送る期間があり健診数が減少いたしましたが、令和3年度売上実績では前年度（令和2年度）より121%増となりました。

また、健診受診者の顧客満足度を上げるため健診衣を導入いたしました。今後も受診される皆様に満足していただけるよう努めて参ります。

【今後の目標】

引き続き環境の整備・充実に目をむけて、少しでも快適な環境提供に努めたいと考えております。感染面におきましても安全にご利用いただけるように、定期的な換気と環境消毒などの感染予防に留意いたします。

今後は生活習慣病予防健診（協会けんぽ）、企業健診、市民健診（たるトク健診）等の件数を増やしていきたいと考えております。

最後に健診センターとして健診を受けられた皆様の健康づくりと疾病の早期発見と予防に努めて参ります。今後とも関係部署の協力を得ながら健診受診者増を図っていききたいと考えております。

文責 事務係長 菅原 充晴

地域連携課

【スタッフ】

阿 畠 亮	課長	
村 上 京子	主任	
小 林 政彦	主任	社会福祉士
金田智香子		
吉田みのり		社会福祉士
佐藤 愛友		社会福祉士
田 中 諭		社会福祉士
福 森 星輔		社会福祉士
山 埜 隆		社会福祉士

【部署の特徴】

回復期リハビリテーション病棟では専従の社会福祉士2名と専任の社会福祉士1名の計3名を配置し入院支援・退院支援を強化している。それにより各職種の協力のもとではあるが高稼働率を維持し各種施設基準の達成と入退院の管理を行っている。

また、社会福祉士は社会福祉法人として無料低額診療制度の推進を積極的に行っており特に非課税世帯の患者さんには声をかけるなど医療費の問題で医療が受けられない患者さんをださないよう各種相談活動を実施している。

【実 績】

紹介率	43.3%
逆紹介率	16.1%
無料低額診療率	10.1%

社会福祉士の面談の種類と件数

・介護保険申請	483件
・在宅退院調整	953件
・家屋調査	219件
・転院退院調整	772件
・施設退院調整	1058件
・無料低額診療	469件
・その他	858件

【令和3年度の取り組み】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、診療所への訪問活動や地域での相談活動・教育活動などが制限されたため電話・文書郵送・FAXなどを利用し地域との連携を図る取り組みを行ってきた。(地域連携ネットワークや地域連携パス協議会などへの参加) また、当院医師が各種勉強会・研修会などZOOMにて講師として参加するための地域との連携や調整を行ってきた。

【今後の目標】

紹介率・逆紹介率の向上
無料低額診療率の維持

文責 事務課長 阿 畠 亮

入院案内のデジタル化について

地域連携課 吉田みのり

地域連携課の業務の中に外来受診後の入院案内を行っています。いくつか課題がありました。例えば、当初説明の目安時間を一人5分～10分以内と考えていましたが、実際は平均20分弱で30分以上かかる場合もありました。人数は1日数名おり他の業務にも支障をきたすことがありました。説明する内容についても一本化していますが、病棟から〇〇の件について患者さんが聞いていないと話されているがどのように説明したのかという問い合わせがくることもありました。

そこで、これらの課題を解決する方法としてタブレットを活用し入院案内を行うということでした。情報システム課の方で画像、音声を含め原稿があれば対応可能とのことでした。患者さんが入院するにあたり

一番初めに必要なことは何か。患者さんの年齢層も理解度も様々で読み上げる速度や内容、時間をかけすぎないなど工夫し、特に入院誓約書など提出書類を中心に案内する形としました。動画再生時間は18分弱でYouTubeでも観ることが可能となりました。

患者さんからの反応は、「時代だね～」や「検査で疲れたから自宅でゆっくりYouTube観るわ」など様々です。自宅で観る方には入院にあたっての注意事項を簡単に説明するなど臨機応変な対応をしています。

実際採用してみて感じたことは、入院案内のセットのみになったため対応時間が大幅に短縮されたこと、説明内容が一本化されたことで誰でも対応可能となったこと、病棟からの問合せもなくなりました。患者さんの状態に合わせて口頭で説明もできるようになり選択肢が増え、感染対策にもなったなどプラスの効果が大きかったように思います。

今後は、無料低額診療事業についてのご案内動画を作成していこうと考えています。



入院案内1～5（必要に応じてご利用ください）

【スタッフ】

大田 隆宏 主幹
井上智香子 主任
本間 真一 主任

【部署の特徴】

電子カルテ・医事会計等のシステム保守、運用とともに、医療情報データベースの構築および利用、データ活用のためのアプリケーション作成を行っています。

医療業務を裏方として支えつつ、新型コロナワクチン接種受付や、オンライン面会の受付・予約の仕組みなど、独自にシステム化を行うなど新しい取り組みも行っています。

独自に設置したデータベース（SQL Server）有効活用し、院内の各種データの収集や二次利用などに利用しています。

また、情報システム部門をもたない北海道済生会、みどりの里、老健はまなすの支援も行っています。

【実績】

- 給与明細メール送信
本稼働が始まり総務での給与明細作成作業が軽減できました。
給与明細作成する職員は数名まで減っていると聞いています。
- バッチ処理の監視
オープンソースのJOB SCHEDULERを用い実行結果が容易にWeb上でわかるようにしました。
エラーが発生した際、Slackで通知するようにしています。
サーバーはdocker上で構築しています。
- 仮想サーバー化
現行4台のHCIの仮想サーバーで電子カルテ、部門システム合わせて40サーバーが動いています。
令和3年は、内視鏡システムと調剤システムの仮想環境を構築しました。
途中メモリ不足で障害時に電子カルテが停止する危険がありましたが、メモリを増設して解決しています。メモリ増設は電子カルテを止めず作業を行っています。
メモリ増設後、仮想サーバーのファームウェア、ドライバー、ハイパーバイザーのバージョンアップを各種サーバー無停止で行いました。
- 量的点検シート
医事課で退院時に行う量的点検を簡素化するためレポートを作成しました。
- 患者問い合わせ
コロナワクチン予約等で患者情報を問い合わせる

プログラムを作成しました。

- 入退院レポート
入院予定を含めた入院、退院予定を含めた退院の一覧が表示できるようプログラムを作成しました。カレンダー形式で表示できるようにしています。
- レセプト取込の対応
月遅れ、4種の対応できるようにして、各種レポートが作成できるようにしました。
- せん妄ハイリスク患者ケア加算のレポート
せん妄ハイリスク患者ケア加算の漏れがないように、レポートを作成しました。
- 診療科別平均在院日数
Tableauで診療科別に平均在院日数が表示できるように修正しました。
- パロアルト（ファイアウォール）ファームウェアアップデート
ベンダーとの作業時間の折り合いがつかず、当院で早朝にファームウェアアップデートを行いました。
- 入退院支援ツール
空きベッドを管理するため入院予定、退院予定を含めベッドの空き状況を管理できるようExcelファイルに出力するプログラムを作成しました。
- 内視鏡システムのデータコンバージョン
内視鏡システムのベンダーが変更になるため、旧システムのデータを新システムで使えるようデータコンバージョンを当院で行いました。
- 日計表に書損レポートを追加
日計表に書損レポートを出力できるようにしました。以前も書損レポートはありましたが請求書削除以外の対応を行い、書損として仕訳表示してレポートに表示できるようにしました。
 - ▶ 入金を各種金額の修正
 - ▶ 削除された請求の復活
- 看護必要度シミュレーション
令和4年の看護必要度のシミュレーションができるようプログラムを作成しました。
- あんしんプラスの入替
いままで使用していたあんしんプレスが3月いっぱい使用できなくなるということで、入替作業を行いました。
ベンダーが対応できず、当院でDNSの設定、あんしんプラスの移行を行いました。
- 勤怠管理（勤次郎）関連プログラムの作成
部署打刻を行うためにタブレットPCによる打刻受付プログラムおよび関連プログラムの作成、医師の時間外労働関連のプログラムを作成しました。

- オンライン面会システムの作成
外部Webサーバーを利用したオンライン面会の受付から院内の管理までをシステム化しました。
- SPD関連プログラムの作成
SPDの業務効率改善の一環として関連プログラムを作成しました。
- 総務関連プログラムの作成
光熱費管理および職員家族・同居人情報の登録システムを作成しました。
- 病院zoomアカウントの管理
病院zoomアカウントの予約から管理までを行うシステムを作成しました。

【今後の目標】

DX(Digital Transformation)の手法も含め昨年度から引き続き院内業務の効率改善を目指します。

令和4年度より全国済生会事務(部)長会の情報システム部会に参加することとなり、済生会グループの他施設の情報システム部門との交流を深め、上記取り組みを加速させたい。

文責 事務主任 本間 真一

各委員会・診療チーム

NST委員会

【メンバー】

Adviser : 水越 常德 医師
Chairman : 安達 秀樹 医師
Director : 多田 梨保 管理栄養士
Sub Director : 一島妃東美 管理栄養士
・医師…水越 常德、安達 秀樹
・管理栄養士…多田 梨保、権城 泉、一島妃東美
・看護師…中山 祐子、五嶋 佳奈、村山 綾香
森地 有希、平岩 悠子、森 靖子
照井 りか、高橋 知子
・薬剤師…鈴木 景就、笠井 一憲、佐渡 望
・理学療法士…松村 真満、米田健太郎、浅香 翔梧
廣田 正和
・言語聴覚士…加賀 潤輝
・臨床工学士…横道 宏幸、吉田 昌也
・事務部…金田智香子、田宮 千晶

- ◆日本静脈経腸栄養学会TNT研修修了(医師)…
明石 浩史、安達 秀樹、高田美喜生、松谷 学
水越 常德、宮地 敏樹
- ◆日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士…
笠井 一憲、権城 泉、鈴木 景就、多田 梨保
一島妃東美、中山 祐子

【実績】

- ◆栄養サポート加算算定件数…825件
- ◆カンファレンス・回診…毎週木曜日、49回
- ◆委員会…毎月第3木曜日、6回
- ◆勉強会…1回

【令和3年度の取り組み】

- ◆管理栄養士の人員配置の都合により、NST専従者を確保することが難しく、9月からNST専任へ届け出を変更しました。このことにより、1回のカンファレンス・回診でNST加算を算定できる人数が30人から15人へ減少しました。
- ◆オンラインを活用し、勉強会を開催しました。NST委員以外にも参加していただくことができました。

【今後の目標】

- ◆NST加算算定要件である職種(医師・看護師・薬剤師・管理栄養士)について、所定の研修受講者の確保に努め、NST専門療法士の育成を目指します。
- ◆NST専従者として人員を確保(増員)できるよう、NST活動の充実を目指します。
- ◆オンラインを活用し、栄養療法に関する勉強会の実施を計画します。

文責 NST専門療法士 一島 妃東美

院内感染予防対策委員会

【メンバー】

委員会構成	役職又は所属部署	氏名	専門・認定資格等
病院長	病院長	和田 卓郎	
施設長	施設長	堤 裕幸	日本感染症学会/専門医・指導医
委員長	副院長	堀田 浩貴(ICT・AST)	ICD 日本化学療法学会/抗菌化学療法認定医師
副委員長	看護部長	菅原 実夏	
診療部	副診療部長	安達 秀樹	
療育看護部	療育看護部長	石井 絢子	
医療技術部責任者	医療技術部長	野村 信平	
事務部責任者	事務部長	五十嵐浩司	
手術・中材責任者	手術・中材課長	谷川原智恵子	
薬剤室責任者	薬剤室室長	上野 誠子	
栄養管理室責任者	栄養管理室課長	多田 梨保	
臨床検査室責任者	臨床検査室係長	木谷 洋介(ICT・AST)	
透析水管理者	臨床工学室係長	横道 宏幸	
感染管理認定看護師	TQMセンター主幹	澤 裕美(ICT・AST)	感染管理認定看護師
薬剤師	薬剤室主任	小野 徹(ICT・AST)	日本化学療法学会/抗菌化学療法認定薬剤師 感染制御認定薬剤師
委員会事務局(事務部)	総務課課長	岩山 隆史	
	総務課主任	神山 拓也(ICT・AST)	
	健康診断課	吉田 幸恵	
	医事課	伝法 俊和	

【オブザーバー】

オブザーバー構成	役職又は所属部署	氏名	専門・認定資格等
診療部	副院長	水越 常德	ICD
看護部(リンクナース)	3 A病棟	福島 陽子	リンクスタッフ
	3 B病棟	石丸 恵子	リンクスタッフ
	4 A病棟	芳賀 智子	リンクスタッフ
	4 B病棟	伊井 洋子	リンクスタッフ
	5 B病棟	小野 智子	リンクスタッフ
	外来	岡部 優香	リンクスタッフ
	手術センター	藤原 揚子	リンクスタッフ
	透析センター	古瀬 康江	リンクスタッフ
医療技術部	薬剤室	一野 勇太(AST)	
	臨床検査室	岡本 晃光(AST)	
	放射線室	小林 洸貴	
	リハビリテーション室	平塚 渉	
	リハビリテーション室	室矢 康治	
	リハビリテーション室	林 知代	
	リハビリテーション室	長瀬 拓真	
	リハビリテーション室	富樫 優樹	
療育看護部 (リンクナース)	A病棟	棚田 綾子	リンクスタッフ
	B病棟	小熊 七重	リンクスタッフ
	C病棟	高山 明子	リンクスタッフ
療育医療技術室	機能訓練課	木村 侑	

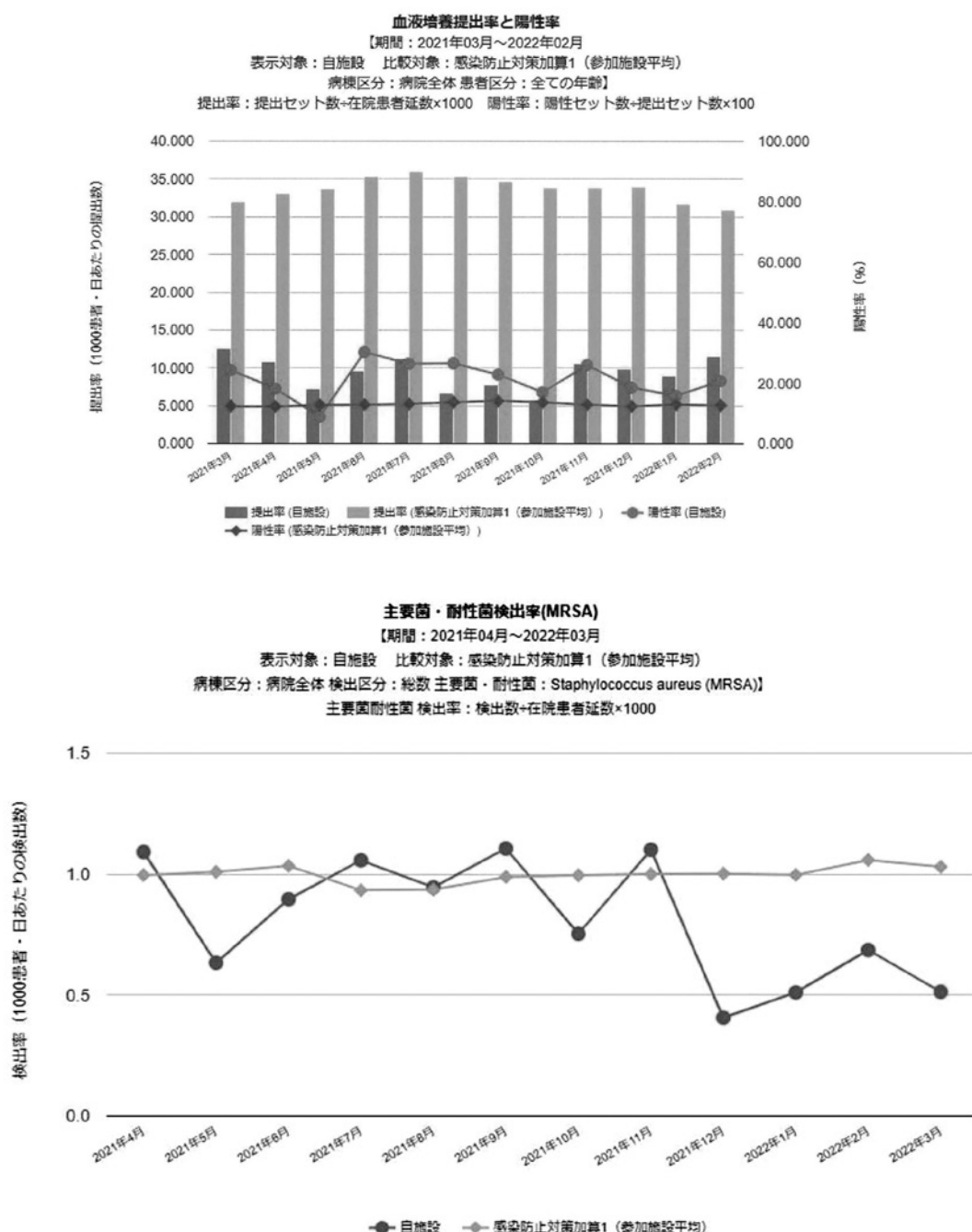
【部署の特徴】

当院では、院内感染対策指針に基づき、院内感染予防に係る様々な対策を実施する為、院内感染予防対策委員会を設置し、感染症に係る情報共有及びその対策を検討し、感染症の拡大を最小限に抑えるため積極的に活動を行っております。

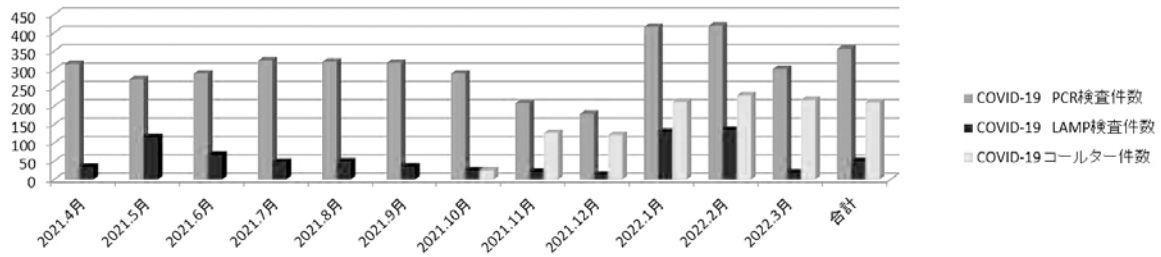
効果的な感染防止対策を実施するため、院長の直轄部門としてインフェクションコントロールドクター（ICD：Infection Control Doctor）である副院長のもと感染対策室を設置し、更に実行部隊として感染対策チーム（ICT：Infection Control Team）を結成し、具体的な活動を行っております。

また、抗菌薬適正使用支援チーム（AST：Antimicrobial Stewardship Team）を結成し活動しており、特に適正使用が重要とされる広域抗菌薬と抗MRSA薬投与患者、血液培養陽性者の抗菌薬治療を対象とし、毎週チームメンバーでカンファレンスを行い、メンバーそれぞれの専門性を活かし抗菌薬の変更や臨床検査の追加などをまとめ主治医に提案することで、感染症患者に対して適切な感染症治療を支援し、抗菌薬適正使用を推進に関する活動を実践しております。

【実績】

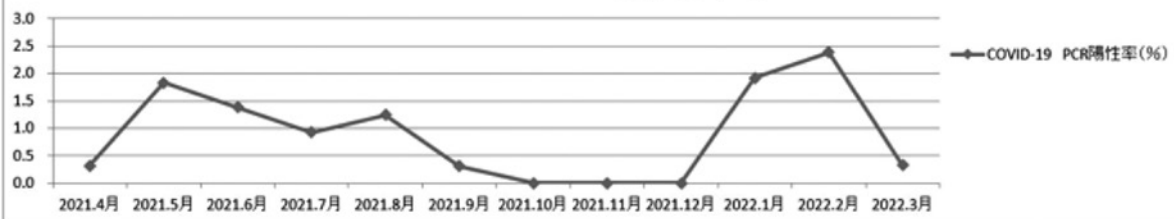


COVID-19 検査数



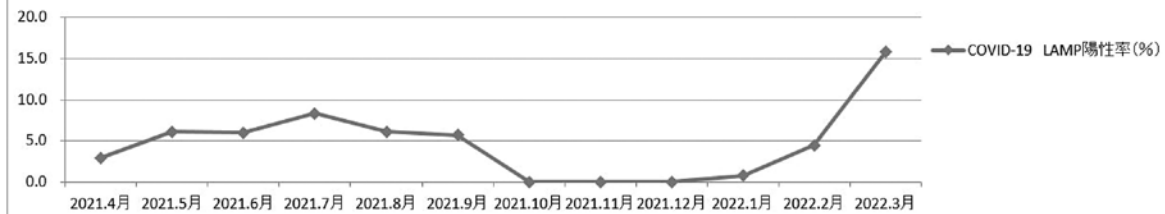
	2021.4月	2021.5月	2021.6月	2021.7月	2021.8月	2021.9月	2021.10月	2021.11月	2021.12月	2022.1月	2022.2月	2022.3月	合計
COVID-19 PCR検査件数	315	273	289	324	321	318	289	208	179	416	419	301	356
COVID-19 LAMP検査件数	34	115	67	48	49	35	25	21	13	130	135	19	50
COVID-19 コールター検査件数							25	127	121	211	229	217	210
													406

COVID-19 PCR陽性率(%)



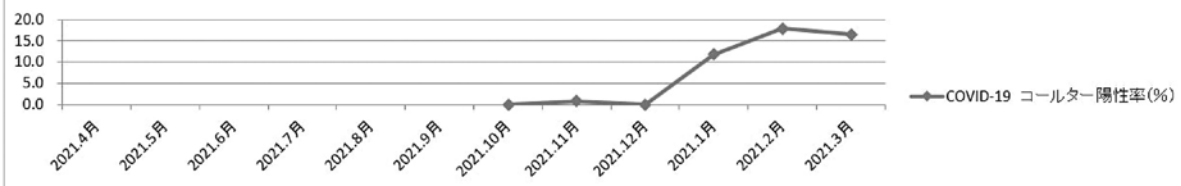
	2021.4月	2021.5月	2021.6月	2021.7月	2021.8月	2021.9月	2021.10月	2021.11月	2021.12月	2022.1月	2022.2月	2022.3月	全体陽性率
COVID-19 PCR陽性率(%)	0.3	1.8	1.4	0.9	1.2	0.3	0.0	0.0	0.0	1.9	2.4	0.3	5.1
陽性件数	1	5	4	3	4	1	0	0	0	8	10	1	18

COVID-19 LAMP陽性率(%)



	2021.4月	2021.5月	2021.6月	2021.7月	2021.8月	2021.9月	2021.10月	2021.11月	2021.12月	2022.1月	2022.2月	2022.3月	全体陽性率
COVID-19 LAMP陽性率(%)	2.9	6.1	6.0	8.3	6.1	5.7	0.0	0.0	0.0	0.8	4.4	15.8	42.0
陽性件数	1	7	4	4	3	2	0	0	0	1	6	3	21

COVID-19 コールター陽性率(%)



	2021.4月	2021.5月	2021.6月	2021.7月	2021.8月	2021.9月	2021.10月	2021.11月	2021.12月	2022.1月	2022.2月	2022.3月	全体陽性率
COVID-19 コールター陽性率(%)							0.0	0.8	0.0	11.8	17.9	16.6	0.5
陽性件数							0	1	0	25	41	36	1

【令和3年度の取り組み】

- ・委員会開催（毎月）
- ・職員研修の実施（年2回）
- ・連携施設との合同カンファレンス実施（年4回）
- ・指針、設置要綱、マニュアル等の改訂
- ・発熱外来及び検査体制の整備
- ・新型コロナウイルス感染症受け入れ病棟の整備
- ・感染対策防止加算1から感染対策向上加算へ診療報酬改正に関する対応

【今後の目標】

今年度は、新型コロナウイルス感染症の対策に奔走しつつ、感染防止対策加算連携施設が大幅に入れ替わるなど他施設との関わりの多い年になったと感じております。来年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の対策はもちろん、院内の感染対策を実施していくと共に、本年度より新たに連携施設となった協力施設と連携し地域の感染対策に貢献できるよう尽力していきたいと思っております。

文責 事務部総務課施設管理G 神山 拓也

医療安全管理委員会、医療安全管理室

【スタッフ】

委員長：宮地 敏樹（医療安全管理責任者）
（小樽病院）

診療部：安達 秀樹（マネージメントリーダー）

看護部：谷川原智恵子（兼任医療安全管理者）

原田 真里（兼任医療安全管理者）

中川 尚美、杉崎 美香、岸本 悦子

青木 昭人、大石 睦美、本間 未知、

本間美穂子、早川 明美

医療技術部：上野 誠子（マネージメントリーダー、
医薬品安全管理責任者）

平塚 渉（マネージメントリーダー）、

松尾 覚志（医療放射線安全管理責任者）

多田 梨保、木谷 洋介、横道 宏幸

事務部：蝦名 哲行、阿部 亮、吉田 みのり

医療安全管理室：笹山 貴司（専任医療安全管理者）、
平尾 愛

（みどりの里）

療育診療部：新飯田裕一（マネージメントリーダー）

療育看護部：大場美穂子（兼任医療安全管理者）、

佐藤 辰也、中山 美幸、古澤 光之

療育医療技術室：前田 美穂（マネージメントリーダー）

事務部：岩山 隆史（マネージメントリーダー）

【部署の特徴】

医療安全は、医療の質に関わる重要な課題であり、安全な医療の提供は医療の基本となるものです。各部署から選出されたリスクマネージャーのもとに、医療安全管理のためのマニュアル整備することや、ヒヤリ・ハット事例分析によりマニュアル等の定期的な見直し等を行い、医療安全管理の強化充実を図っています。

また、医療安全ネットワークを構築することにより連携施設以外にも情報交換をし、地域の医療安全向上を目指しています。

【実績】

①活動実績

医療安全管理対策委員会：毎月第一金曜日、12回実施

医療安全カンファレンス：毎週水曜日、48回実施

医療安全連携施設ラウンド：小樽掖済会病院、朝里中央病院、島田脳神経外科
（令和4年2月24日ZOOMを活用し、4施設会議実施）

②医療安全セミナー実績

※今年度はコロナウイルス感染防止対策のため、webセミナーにて開催

①開催日：令和3年9月28日～令和3年10月24日

講習内容：「訴訟事例を題材にした医療安全研修」

参加者人数：542名

②開催日：令和3年2月7日～令和3年3月7日

講習内容：「輸血過誤が起きるとき ～意図しない異型輸血事故を防止する～」

参加者人数：544名

③レポート報告件数について

・インシデントレポート報告件数 812件

・報告内容概要別件数

概 要	件 数
薬剤	251
輸血	3
治療・処置	5
医療機器等	25
ドレーン・チューブ	119
検査	44
療養上の世話	308
その他	57

・職種別報告件数

職 種	件 数
医師	55
看護師	18
看護助手	10
薬剤師	18
放射線技師	7
臨床検査技師	28
臨床工学士(CE)	29
管理栄養士	6
理学療法士(PT)	19
作業療法士(OT)	38
言語聴覚士(ST)	10
助手	18
事務	7
システム管理	28
社会福祉士	29
保育士	0
児童指導員	1
調理委託	58
その他	0

・報告内容

薬剤関連（121件）

報告内容	件 数
無投薬・未配薬	67
患者間違い	9
投与時間・日付間違い	10
過剰投与	16
過小投与	4
薬剤間違い	15

輸血関連（3件）

報告内容	件 数
未実施	1
単位間違い	1
その他	1

治療・処置（5件）

概 要	件 数
不必要行為の実施	2
患者間違い	1
日程・時間の誤り	1
その他	1

医療機器等（25件）

概 要	件 数
不適切使用	7
点検・管理ミス	8
故障	1
使用方法指示間違い	1
その他	8

ドレーン・チューブ類（119件）

概 要	件 数
自己抜去	45
抜去	20
接続はずれ	13
切断・破損	8
閉塞	7
不適切使用	4
接続間違い	4
ルートクランプエラー	3
自然抜去	2
点滴漏れ	1
故障	1
組み立て	1
その他	10

検査関連（42件）

概 要	件 数
未実施	10
患者取違い	8
検体紛失	3
結果報告	1
指示検査の間違い	1
指示出し忘れ	1
検査の手技・判定技術の間違い	1
部位間違い	1
検体破損	1
検体採取時のミス	1
その他	14

療養上の世話（305件）

概 要	件 数
転倒	112
転落	51
スキンケア	33
給食の内容の間違い	29
異物混入	14
実施忘れ	10
誤配膳	9
異食	7
患者間違い	2
禁食指示	2
遅延	1
中止の忘れ	1
衝突	1
計画又は指示の内容間違い	1
その他	32

その他（57件）

概 要	件 数
針刺し事故	3
情報・記録	21
手術	2
検査	2
環境整備	3
感染防止	1
リハビリテーション	13
ドレーン・チューブ類の使用・管理	1
事務	1
その他	10

項目別患者影響度件数

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4a	レベル4b	レベル5	その他
薬剤関係	39	189	7	5	8	0	0	0	1
輸血	0	3	0	0	0	0	0	0	0
処置	1	3	1	1	0	0	0	0	0
医療用具(機器)	1	20	1	1	0	0	0	0	0
ドレーン・チューブ類	2	87	16	10	0	0	0	0	0
手術	3	1	0	0	1	0	0	0	0
検査	9	31	4	1	0	0	0	0	0
転倒・転落	2	2	140	11	7	0	0	0	0
食事と栄養	11	65	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション	7	14	2	0	1	0	0	0	0
事務	1	0	0	0	0	0	0	0	0
針刺し事故	0	0	0	0	0	0	0	0	3
情報・記録	14	9	0	0	0	0	0	0	2
その他	5	47	2	8	13	0	0	0	3

【令和元年度の取り組み】

- ・「確認事項を徹底し、安全な医療の提供を行う」を医療安全の年間テーマとし、各部署において目標設定し実践した。
- ・感染拡大防止の観点からZoom、ビデオ教材、webセミナーなどを活用し、医療安全活動を行った。

【今後の目標】

安心、安全な医療の提供をするため、部署の垣根を越えた医療安全活動を行えるような組織風土の醸成を目指す。

文責 医療安全管理室副室長 笹山 貴司

クリニカルパス委員会

【概 要】

平成18年よりクリニカルパス部会として発足し、紙カルテ期よりクリニカルパス作成に従事し済生会小樽病院の医療の標準化、患者インフォームドコンセントの充実の支援をしております。平成25年から電子カルテ移行に伴いクリニカルパスも電子化へと移行しております。平成30年度よりDPC開始となり、質・量ともに向上を目指して活動中です。

【スタッフ】

委員長：織田 崇
 医師：水越 常德、安達 秀樹、高田美喜生
 孫 誠一
 看護師：砂川 友紀、桑鶴 律子、大村 和史
 磯野 由衣、山崎多寿子、安宅 春香
 石田ゆかり、早川 晃子
 薬剤師：芦名 正生、中村 圭介
 放射線技師：松尾 覚志
 臨床検査技師：高橋 賢規
 臨床工学技士：山内 揚介
 理学療法士：髭内 紀幸、花田 健、四十坊麻由
 室矢 康治、三野宮裕樹
 管理栄養士：一島妃東美
 事務職員：平澤 慎吾、伝法 俊和、葛西 淳子
 佐藤 愛友

【業務内容】

済生会小樽病院の医療の標準化に向けたツールとしてクリニカルパスの作成、運用方法の検討、クリニカルパスの啓蒙、質の改善（バリエーション分析、ベンチマーキング）、患者インフォームドコンセントの充実などに従事しております。平成25年度よりクリニカルパスの電子化へも従事しております。

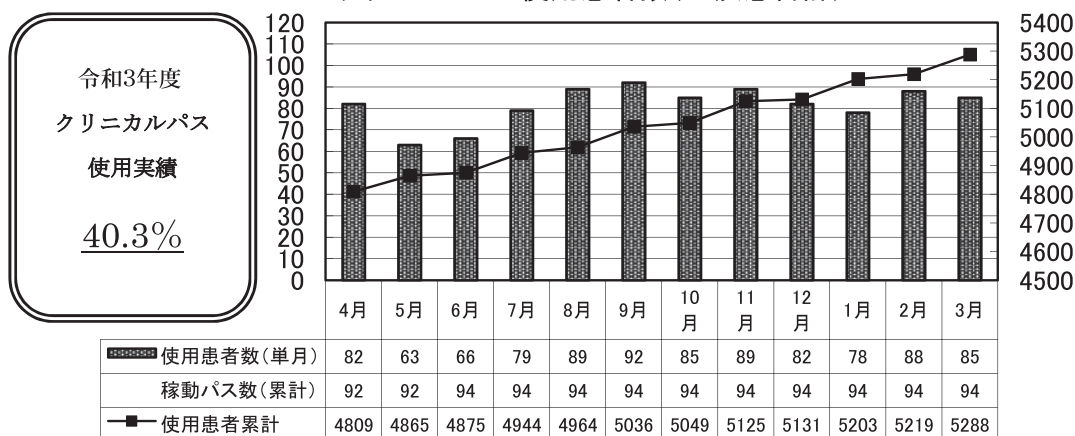
【当委員会の特徴】

委員会を5つのチーム（運用チーム、分析・改訂チーム、活動推進チーム、院内連携チーム、サポートチーム）に編成し、各チーム単位でクリニカルパス活動の検討をしております。

今年度も昨年度同様にコロナ禍で全員参加での活動が困難であった為、各チームリーダー、クリニカルパス活動推進スタッフからなるコアチームが中心となって活動していきました。

【実 績】

クリニカルパス使用患者数(全疾患合計)



稼働クリニカルパス

内科

胃瘻造設術（4種類）、R-CHOP療法、糖尿病検査入院、大腸EMR（6種）

外科

腹腔鏡視下胆嚢摘出術（2種類）、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（2種類）、ヘルニア根治術（2種類）、外科大腸癌化学療法、甲状腺手術（2種類）

整形外科

膝関節鏡視下術、左・右BHA（2種類）、左・右大腿骨近位部骨折（2種類）、左・右橈骨遠位端骨折（4種類）、左・右TKAパス、左・右THA、左・右ACL（2種類）、下肢抜釘（3種類）、左・右アキレス腱断裂縫合術、左・右腱板断裂術（2種類）、膝AS半月板縫合術、急性腰痛、骨盤骨折、腰部脊柱管狭窄症（2種類）、頸椎症性脊髓症（2種類）、左・右足関節果部骨折骨接合、手根管症候群、肘部管症候群、上肢抜釘（4種類）、腰痛椎間板ヘルニア、ミエログラフィー（3種）、左・右高位脛骨骨切術

泌尿器科

前立腺生検、経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）、ESWL、尿管ステント留置・交換術、GC（ジェムザール+シプラスチン）、TUL

計65パス

【令和3年度の取り組み】

今年度も昨年度同様にコロナ禍であり思うように委員会活動が出来ない日々となりました。計画していた骨折リエゾンサービスを取り入れたクリニカルパスなど、使用開始したいがコロナ禍で面会に制限があるため困難であったもの、様々な制約を受けていたものがありました。

しかし入院される患者さんは日々おられ、待つてはくれないので、来年度はコロナ禍を言い訳にせず、出来ることことから、質の高いクリニカルパス作成に励み、既存のクリニカルパスをバリエーション分析していき、クリニカルパス全体の質向上に励みます。それら委員会活動が病院全体の医療の質向上へ寄与できるよう努めていきます。

文責 リハビリテーション室 髭内 紀幸

内分泌・糖尿病診療センター

【スタッフ】

部署・職種		氏名	資格など
センター長	医師	水越 常德	内分泌専門医
看護部	看護師	木藤 絢子	糖尿病療養指導士
		仙保 知子	糖尿病療養指導士
		早川恵美子	糖尿病療養指導士
医療技術部	薬剤師	青木有希子	糖尿病療養指導士、 糖尿病薬物療法認定薬剤師
		村川麻里子	糖尿病療養指導士
	管理栄養士	多田 梨保	糖尿病療養指導士
		権城 泉	糖尿病療養指導士
	理学療法士	三浦富美彦	糖尿病療養指導士、 代謝認定理学療法士
		城田 祐輔	糖尿病療養指導士
		舩岡紗也香	
	臨床検査技師	岡本 晃光	糖尿病療養指導士
	医療事務部		阿畠 亮
平尾 愛			

【部署の特徴】

当センターでは、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・臨床検査技師・事務で構成しています。外来診療の活動としては、糖尿病透析予防指導・フットケア外来・インスリン自己注射や血糖自己測定指導を通して、各職種の特徴を生かし、患者様の個々のライフスタイルに合わせた療養指導を提供しています。糖尿病透析予防指導は、人数としては減少傾向ではありますが医師・看護師・管理栄養士で定期的にカンファレンスの場を設け、透析にならぬよう患者さんにじっくり向き合いながら行っています。

糖尿病の教育入院は、当院で作成した教育入院スケジュールに沿って、個々の理解度や入院期間に合わせ、多職種の糖尿病療養指導士で情報共有をしながら行っています。近年の傾向として、教育入院の年齢層が働き世代の方が多く低年齢化している印象があります。またコロナ禍で外出を控えるようになり血糖値が高くなってしまふ方が多くみられるようになってきました。入院をきっかけに自分自身を向き合える時間を活かし、自身の生活を一緒に振り返り、個々のライフスタイルに合った具体的な療養生活を行っていきけるよう、患者様中心のチーム医療を実践しています。また、今年度よりKAGRAシステムを利用し、介入対象患者の選定を行い、介入件数増加を図っています。以前から行っているCGM(持続グルコース測定)・フリースタイルリブレなどの機器を使用することで、24時間のグルコース値推移を把握し、日常の診療や患者さん自身の糖尿病管理の動機付けに役立てています。

当センターとは別になりますが、「小樽なでしこ友の会」という糖尿病患者会があります。患者さんとその家族、当センターの職員で主に行っていますが、コ

ロナ禍のため対面での活動が実施できなくなり、さかえのみの配布となっていますが、今後活動内容を試行錯誤していきたいと思っています。

【実績】

糖尿病教育入院 実施人数：29人

糖尿病透析予防指導 指導人数：1人5件

CGM装着・解析 実施件数：15件(ipro2 3件
リブレプロ12件)

フリースタイルリブレ 実施件数：135件

フットケア 実施件数：64件

糖尿病合併妊娠及び妊娠糖尿病 介入人数：7名
栄養指導14件

KAGRAシステム抽出人数796件

うち指導介入42件、血糖管理33件、

CGM/FGM装着9件

【令和3年度の取り組み】

○センター会議開催

毎月定例 12回(休会2回 開催10回)

○院内セミナー なし

○院外勉強会・活動・学会発表 なし

【今後の目標】

現在、糖尿病領域も遠隔診療の体制が進んできており、血糖測定器やインスリン使用のデータまでもが、アプリを通して医療機関と共有できる時代になってきました。当院でもデータ管理体制を整え、対応できるような環境づくりをしていこうと思っています。また今年度よりKAGRAシステムを導入したため、介入件数の増加、糖尿病予備軍への早期介入を行うことができるようになりました。今後も患者さんがよりよい療養生活が送れるよう我々スタッフも自己研鑽・コミュニケーションを充実し、医療サービス・療養指導の提供に邁進していきたいと思います。

文責

薬剤師 青木 有希子



緩和ケアチーム

	役職・職種	氏名
診療部	内科診療部長	明石 浩史
	外科副診療部長	木村 雅美
	緩和ケア内科(腫瘍精神科)	菊地未紗子
	内科	今井 貴史
看護部	主幹 緩和ケア認定看護師	石渡 明子
	係長	吉田真知子
	主任	中山 優子
	主任	丸岡 貴子
	主任	齋藤 亜妙
	主任	仙保 知子
	看護師 緩和ケア認定看護師	藤原 大地
薬剤室	課長 緩和薬物療法認定薬剤師	鈴木 景就
	薬剤師	村川麻里子
栄養課	主任 がん病態栄養管理栄養士	権城 泉
リハビリ	理学療法士	米田健太郎
	作業療法士	林 知代
	言語聴覚士	加賀 潤輝
地域連携	MSW	小林 政彦

【活動内容】

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、MSWなど多職種で構成されたチームで患者さん、ご家族のつらさに寄り添い、また、希望をもって生活が継続できるよう活動しています。具体的な活動として①緩和ケアチーム回診（毎週火曜日）②チームカンファレンスの開催（外来：火曜日午後、入院：木曜日午後）③院内講演会の企画④マニュアル整備⑤地域連携活動を行っています。

令和3年度の取り組みとしてがん患者スクリーニングを開始しました。これまで認知症ケアチームが中心で行っていたせん妄ハイリスクスクリーニングに「がん疾患」の項目を追加し、全例介入システムの構築を目指しました。がんの既往がある患者に対し緩和ケアに関する情報提供を行い、希望があった場合に介入する方法に変更することで、これまで未介入だったがん患者さんの拾い上げができ、介入件数は令和2年度と比較し増加しました。

もう一つ取り組みとしてACP（アドバンス・ケア・プランニング）の更なる充実を目指しました。令和2年度から「もしもノート」を使用したACPに関する取り組みを行っていますが、外来通院中に行う事で、患者、家族と医療者が十分に話し合う時間を設ける事

ができ、最後までその人らしく過ごすことができていると感じています。また、ACPに関する講演会を企画しました。病院長、事務部長に模擬患者として出演していただいた講演会の実施で、地域におけるACPの普及、当院での取り組みを紹介する良い機会になったと思います。

在宅退院患者支援についても地域の医療、福祉関係の皆様と協同することで患者様の「家に帰りたい」という希望をできるだけ尊重した取り組みを行うことができています。

外来から入院まで連続してチームとして係わる事ができ、継続的な緩和ケアの介入ができています。

【講演会の企画・開催】

○緩和医療講演会（2月10日）

特別講演：がんの患者さんと長く付き合う緩和ケア
演 者：勤医協中央病院 川畑 恵先生

開催形式：オンライン講演会

○アドバンス・ケア・プランニングを考える会

from小樽（3月10日）

特別講演：統合失調症を併存する人のアドバンス・ケア・プランニング

演 者：北海道医療センター 上村恵一先生

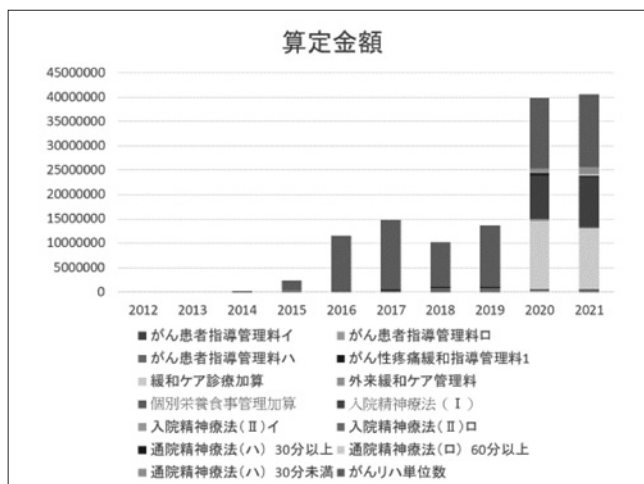
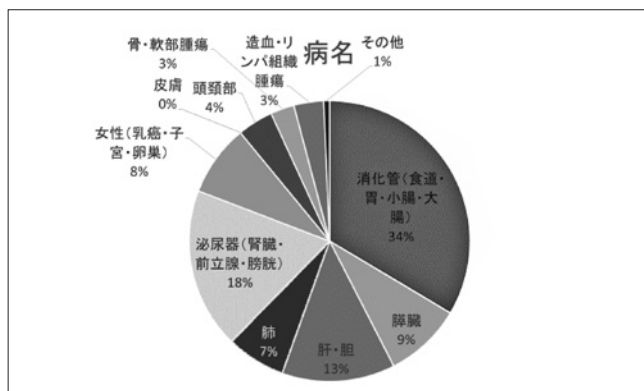
一般演題：当院におけるがん患者のアドバンス・ケア・プランニングの実践

演 者：済生会小樽病院

開催形式：オンライン講演会

【診療実績】





【今後の目標】

緩和ケアへの早期介入の試み

がんスクリーニングにより介入件数は増えましたが、病棟からチームへの連絡漏れが見られる状況にあります。また、入院後に診断がつく場合が考えられるため、連絡体制を強化し、全てのがん患者が早期から緩和ケアを受けることができる体制を作っていきたいと考えています。

地域医療への貢献

地域の緩和ケアの質向上に寄与し、がんになっても安心して住み慣れた場所で過ごしていけるよう、地域の医療機関、介護福祉関係者と連携しながら、退院後も継続的にフォローできる体制を整えていきます。また、最新の知識や緩和ケアに対する考え方などをさらに広めていくための講演会を継続的に開催していきます。地域の緩和ケアの質向上についての講演、講師等の依頼にも積極的に協力します。

研究活動の推進

チームメンバー個々の能力の向上は、ケアの質をさらに高めることにつながります。メンバーそれぞれが自己研鑽を行い、多職種チーム医療の成果を関係学会等に積極的に発表していきたいと思っています。

文責 薬剤室 鈴木 景就

認知症ケア推進室

【スタッフ】

診療部

林 貴士……脳神経内科部長 認知症サポート医
菊地未沙子……緩和ケア内科医長 精神科専門医

看護部

佐藤由紀枝……看護主任 認知症看護認定看護師

早川恵美子 安達奈那子

松木まさき 岩野由梨香

田中 幸希 佐々木知美

中村 優里

佐々木真琴……認知症看護認定看護師

宮本 七海 太田 聖子

薬剤室 又村 健太 中村 圭介

栄養管理室 多田 梨保……管理栄養士技術課長

リハビリテーション室

山中 佑香……作業療法課技術係長

對馬 啓介 高橋枝里香

地域連携課 福森 星輔 佐藤 愛友

医事課 平澤 慎吾

【部署の特徴】

認知症ケア推進室は平成28年に認知症ケア委員会として発足し、令和元年からは推進室として活動しています。急性期疾患の治療が必要となった認知症の患者さんが入院という急な環境の変化に対し、混乱なく安心して療養生活が送られるよう認知症ケアの質の向上を目的としています。

【実績】令和3年度

認知症ケア加算1算定件数	68,772件
認知症ケア加算1収益	16,020,980円
せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数	2,209件
せん妄ハイリスク患者ケア加算収益	2,021,100円

【令和3年度の取り組み】

前年度に引き続き、認知症ケア加算1、せん妄ハイリスク患者ケア加算を取得し、より質の高いケアを実践するために専門的知識をもつ多職種で取り組みを行っています。

認知症ケアにおける主な活動内容は①認知症ケアチームによる週1回以上の回診・カンファレンスの実施（毎週火曜日午後）②院内研修会の開催③認知症の患者さんの環境調整④身体的拘束軽減のためのケアなどを中心に実践しています。

当院に入院する患者の4割は認知機能の低下を有する患者さんです。そのため、職種を問わず認知症の患者さんに接する全てのスタッフに対応スキルが求められます。認知症ケア推進室の発足から5年が経過

し、研修会やカンファレンス等を実践する中で、認知症の患者さんに対するスタッフ個々の対応力は日々向上していると実感しています。

また、せん妄ハイリスク患者ケアについては、緩和ケア菊地医師を中心に実践され、せん妄リスク薬の調整や、睡眠障害の予防・改善に取り組んでいます。

入院する患者さんは全身状態の悪化や環境の変化によって、睡眠覚醒障害や見当識障害などのせん妄を起こすことがあります。当院に入院する患者さんの7割はせん妄ハイリスク患者であり、認知症の患者さんはせん妄を起こしやすいとされています。せん妄は患者さんの回復を妨げ死亡率を上げ、医療費を増大させるため、いかに予防するかが大切になります。せん妄ハイリスク患者への介入の結果、せん妄の予防率は87.7%でありせん妄の持続期間の平均は3.5日となっています（終末期せん妄を除く）。せん妄となるリスク薬の中止や不眠時薬の変更、BPSDへの介入など、薬物・非薬物療法で予防的に介入することで、せん妄の発症率は軽減しています。

こうしたせん妄の予防や改善、認知症の症状の悪化防止のために、離床を促すために必要な物品を購入し、各病棟へ設置しました。また、タブレットを使用できるように調整し、日中の覚醒を維持するための取り組みを行いました。このような物品を活用しながら認知症やせん妄の患者さんの療養環境を整えると共に、少しでも苦痛を軽減できるようチームで取り組んでいます。

【今後の目標】

認知症ケア、せん妄ケアの更なる質向上を目指し、具体的な対応方法を院内スタッフへ発信していきたいと考えています。また、急性期治療の中でやむを得ず必要となる場合の身体拘束を、少しでも苦痛のない状態でかつ短期間で終了できる方法を検討していきたいと思います。更に、認知症があっても自身の治療や今後の生活場所についての説明を受け、認知症の患者さん自身がそれを選択する機会を得られるよう、意思決定の支援を院内全体で目指していきたいと思います。

文責 看護主任 佐藤 由紀枝



小樽市は、古くから北海道有数の港湾都市として発展してきました。札幌市から約40kmの距離にあり、道路交通網では国道5号と札幌道により約1時間で結ばれています。鉄道では函館本線札幌駅から約30分、千歳空港から約70分の所要時間になっています。これに加えて札幌駅と小樽駅、小樽築港駅を結ぶ高速バスが概ね5～15分間隔で運行されており、札幌市内から日帰りですぐに観光することが出来ます。

寿司屋や運河の街として知られ、観光都市としても人気が高く、毎年700万人以上の観光客が訪れています。市町村の魅力度ランキング調査ではトップ10にランクインする都市になっています。



たくさんの魅力ある街小樽ですが、他の地方都市と同様に毎年人口減少、少子高齢化が進む街でもあります。小樽市の人口は記録のある明治元年の2,230人から始まり、1964年（昭和39年）9月末の住民基本台帳人口で207,093人の最大値を記録した後は減少が続き、2021年（令和3年）5月末の住民基本台帳人口は111,738人となり、この57年間で95,000人を超える人口が減少しています。近年は市外転出による社会減少のみならず、死亡数の増加と出生数の減少による自然減少が拡大し、少子高齢化が加速度的に進行しています。また小樽市は平地が少ない急傾斜地が多くあることから、特に冬場は診療や買い物など外出の機会を制限される高齢者が多いといった地域特有の課題も有しています。これらさまざまな課題を解決することは、社会福祉法人であり医療、介護、福祉と包括的に支援、提供できる当会の役目であると考えております。

令和2年7月、当会に隣接する床延べ面積340,000㎡と日本最大級の広さを誇る「ウイングベイ小樽」を運営する株式会社小樽ベイシティ開発と北海道済生会は、「小樽築港地区におけるウエルネスタウン構築に関する協定」を締結しました。これはソーシャルインクルージョンの実現を目指す北海道済生会の活動と、市民及び近隣生活圏に暮らす住民に豊かで健康的なライフスタイルを提案する「ウエルネスタウン」の構築を

目指すウイングベイ小樽の活動ドメイン（事業領域）が一致したことにより実現した連携協定で、ここから加速度的に当会の活動が市内に広がられていきます。

はじめにたくさんの市民が行き交うウイングベイ小樽の一角で「健康」「福祉」の情報発信基地をオープンさせました。ウエルネスタウン構想の中で小さいことから一步一步始める思いで、活動場所をウエルネス「タウン」のおひざ元、「済生会ビレッジ」と命名し令和3年3月にオープンしました。



済生会ビレッジには市民が気軽に健康相談できる場所を設置しようと、小樽病院内にあった地域ケアセンターを移設オープンさせました。地域ケアセンターには、包括支援センター、居宅介護支援事業が設置されており、介護度に関わらず介護相談をすることが出来ます。また、医療支援が必要な方には訪問看護ステーションもあります。市民は商業施設内で買った買い物を片手に気軽に相談をできるようになりました。また、済生会ビレッジは福祉にも力を入れました。新設オープンした「発達支援事業所きつずてらす」は、変化の激しい社会にあって、発達に不安をかかえるお子さんを支援するため、当会が持つ社会資源をフル活用し、みどりの里専門職を配置し充実した個別支援を実施。またウイングベイ小樽内にある遊戯施設イカロスの城と連携し、他では類を見ないダイナミックな感覚

統合訓練を実施することが可能となりました。きつずてらすは、利用者、自治体からコンセプトを高く評価していただき、令和4年3月に2店舗目の「きつずてらすDuO」をオープンさせることができました。

また、令和3年5月には「就労継続支援事業所ぷりもぱっそ(B型)」をオープンさせ、障害などで就労に悩む利用者へ「働く場」を用意することができました。



一方、市民の健康への行動変容にも力を入れました。健康チャレンジプラス10は、普段の生活に10分健康運動をプラスしよう、と市民向けに看板やチャレンジカードを用意しました。1か月間達成した市民には館内で使える無料映画鑑賞券をプレゼントするなど館内連携も進めました。また、もともと小樽病院にありましたワンコインからできる健診「ちょこっと健診」の券売機を済生会ビレッジに移設したり、小樽病院職員が率先して済生会ビレッジに出向き、市民の相談を受ける「健康相談会」も定期開催し病院職員が市民と接する機会を増やしました。さらに全国済生会初となるフードバンク事業も開始。まだ食べれるのに過剰在庫や型崩れなどで市場に出せない食材等を当会が受け取り、支援を必要としている方にお渡しする仕組み

みです。この活動はフードロスの減少に貢献できSDGsの考え方にあてはまります。

このように済生会ビレッジは「制度内事業」と「制度外事業」を並行稼働させ持続的に事業展開をすることができる仕組みをとっております。

令和4年2月当北海道支部の活動が評価され、内部制度である「済生会令和賞」を受賞することができました。これは、サービス向上や地域貢献等により法人の名誉向上に寄与した施設に送られる賞であります。



最後に令和4年度の目標は、生活困窮等福祉活動とソーシャルファームの実現に力を入れていきます。また、企業連携も進めていきお互いの強みを引き出せていけたらと考えております。また最終目標である市民が健康で安心・安全に暮らすことのできる「C.C.R.C」の実現に向けまい進みます。ソーシャルインクルージョンの実現は、だれ一人取り残すことのない世の中、皆が助け合う世の中の実現だと考えております。地域課題をひとつひとつ解決していきだれもが住みやすいまち、住みたいまちにしていきたいです。

文責 北海道済生会支部事務局 課長 清水 雅成

臨床研修医 地域研修

済生会小樽病院での研修を終えて

令和3年8月2日～27日
済生会山形済生病院 研修医 中島 弘貴

地域医療研修としてこの一か月間、神経内科、緩和ケア科等を中心に様々な科で大変お世話になりました。

ここに来る以前は、他の研修医から聞いた地域医療の印象は「地域医療の研修先のほとんどが、あまり医師の多くない、ある種、地域のかかりつけとしての総合病院での研修」でした。しかし貴院を訪れた際にそのような印象はなく、医師の数も多く、街は観光地としての側面もあることから山形よりも栄えているように思え、果たして地域医療研修といえる研修になるだろうか？と少し疑問に思ったことを覚えています。研修を行っていく中で、小樽の高齢化率やそのうちの一人暮らしの割合、退院するにあたって疾患とは異なる点で問題となる患者さんの多さに、地域医療の難しさの一端を感じ、僕の疑問は無用であったことを思い知らされました。

研修の中では、自分は初期研修医であり、退院後に関わることなどが少なかったこともあり、疾患についてばかり意識が向きがちでしたが、貴院で研修をしていく中で患者さんの社会的背景に基づいた治療、退院後のサポートなど、自分の病院でも行われていたものの、あまり意識してみていなかったことに気が付き、これからの診療においてはそういったことも考えていこうと思いました。自分の病院とは異なった点のみならず、同じではあるものの、何気なく見過ごしていた点に気が付くことができ、貴院での研修を生かし、これからの研修がより充実したもののできる気がしています。

神経内科の松谷先生、緩和ケア・精神科の菊池先生、秘書の吉田さんをはじめ、多くの先生方、スタッフの方々にお世話になり、新しい場所での研修ながら有意義な一ヵ月を過ごすことが出来ました。コロナ禍で大変お忙しく、また気を張る環境でありながらも地域医療研修を貴院で行わせていただき、誠にありがとうございました。

地域医療研修を終えて

令和3年8月30日から10月2日
山形済生病院 瀧野 温子

1ヶ月間、小樽にて地域医療研修をさせて頂きました。夏の終わりに秋にかけての期間であり、気候的には過ごしやすく、いい時期でした。ただ滞在中はずっと緊急事態宣言が出ていたため、落ち着いたらまた改めて小樽を訪れて観光したいと思っています。

研修内容は、内科、緩和ケア内科、精神科のリエゾンなど、幅広い分野で学ぶ機会があり、症例を多角的に診ることが多かったです。様々な科の立場から患者を診るということは、初期研修医ならではの経験であったと思います。また様々なカンファレンスに参加する中で、治療方針のみならず、退院後の生活環境、家族との関わり方など、先生やスタッフの方々と検討する機会も多々ありました。医療が社会の中で果たしている役割を確認することで、医師としてどのような視点を持つておく必要があるのかを考えさせられました。中でも看取り目的の退院に同行し、在宅カンファレンスに参加させて頂く機会がありました。そこで、在宅医療のあり方を先生やスタッフの皆様から教えて頂き、患者や家族の皆様とお話をしたことが、とても印象に残っています。病気だけではなく患者を診ることが重要なのだと、学生の時から教わってきましたし、そのようなことは自分や同期もよく言っていました。しかし患者の数だけ多様な考え方、生き方があり、治療から退院後の生活に至るまで、皆が納得できる結論を出すことの難しさを今回痛感しました。そして患者主体の医療の実践には、医師やコメディカルのスタッフの方々が、それぞれの専門分野で協力して、初めて成り立つのだということを、この研修で改めて体感し学ぶことができました。

他にも、勉強になる症例や検査があれば、何科であっても呼んで下さって一緒に診察ができるなど、とても柔軟に対応して頂きました。やりたいことをやらせて頂き、とても自由に過ごしていたように思います。そのため、地域医療として1ヶ月間で学んだことは非常に多岐に渡り、医師としてのキャリアの中でも重要な経験を得られたと思います。

最後になりましたが、多くの先生方、スタッフの皆様には大変お世話になりました。またお忙しい中、熱心にご指導いただきまして、誠にありがとうございました。

した。小樽で得られた経験を、今後の医師としての仕事の中で活かしていきたいと思います。今後、どこかでお目にかかる機会がありましたら、その時は何卒宜しくお願い致します。

済生会小樽病院での研修を終えて

令和3年10月4日から10月29日
済生会山形済生病院 初期臨床研修医 瀧野 貴浩

この度、初期研修の地域医療研修として1ヶ月、貴院でお世話になりました。高校時代の修学旅行以来、約10年ぶりの小樽でした。

自分が内科志望ということも考慮してくださり、内科系を中心に組んでくださいました。初めの頃は慣れない環境下で不安もありましたが、皆様に暖かくしていただき、すぐに貴院の環境に馴染むことができました。

内科だけでなく、緩和ケアや認知症のカンファレンスやチーム回診に参加させていただき、普段の研修ではなかなか得られない経験や学びがたくさんありました。在宅医療にも何度か同行させていただきました。特に、退院前に行った家屋調査では、海と山に囲まれた小樽ならではの地域医療の実際を、肌で体感することができました。「小樽では山に家が生えている」という表現を聞きましたが、家屋調査で伺ったお宅や、その帰り道に山道を走行しながら見える住宅の様子を見ると、まさにその通りだなと思います。超高齢社会に加え、こうした小樽の状況を目の当たりにして、地域医療の奥深さ、難しさを痛感しました。

多くの先生方や医局秘書の吉田さんをはじめコメディカルの方々に本当に良くしていただき、充実した1ヶ月を過ごすことができました。特に松谷先生、水越先生、明石先生、菊地先生には多くのご指導を賜り、大変感謝しております。あっという間の1ヶ月でしたが、たくさんの経験をさせていただき、誠にありがとうございました。

地域医療研修を終えて

令和3年11月1日～12日
大阪府済生会富田林病院 研修医 柳本 実咲

まずは地域医療研修を受け入れてくださった北海道済生会小樽病院の医療従事者・事務をはじめとするスタッフの皆様に心より御礼申し上げます。冬が近づくと、寒さと体調に気をつけてくださいとの温かいお言

葉をいただき、余暇の一部を観光に充てながら無事に研修を終えることができました。

脳神経内科として急性期の診断・治療から回復期のリハビリテーションまで包括的に行われていることに魅力を感じ、期間中は同科を軸に研修させていただきました。プライマリケアWebカンファレンスでは普段の診療にも活かせる知識を得られ、外来研修では初診患者へどのような問診や精査加療を行うか上級医と話し合う場をお忙しい中で設けていただきました。各科のカンファレンスでは一般的な症例から診断に難渋する症例まで幅広く触れることができ、特に神経内科領域は自身の研修病院で診療機会に恵まれないこともあり知識・経験に乏しくついていくのが大変でしたが、先生方に身体診察の意義や検査の解釈方法を丁寧にご指導いただき、理解に至ることができました。

また、緩和ケア内科ではリエゾンチームの一員としてせん妄対策に携わらせていただき、せん妄ハイリスクの患者にどのようにアプローチするか、認知機能低下とせん妄をどう見分けるか、など多くを学ばせていただきました。加えてBSCの方針になったがん患者との初回ACPや、お看取りが近くなった患者家族への病状説明の場に同席したのは大変貴重な経験になりました。

この研修を活かして今後も医師としての研鑽を積んでいきたい所存です。2週間という短い期間ではありましたが、皆様にはお世話になりました。改めてありがとうございました。

地域医療研修を終えて

令和3年12月6日～28日
KKR札幌医療センター 研修医 細川 智加

この度はコロナウィルスの影響が続く状況下にも関わらず地域医療研修として受け入れてくださり誠にありがとうございました。また泌尿器科が志望科であるということでご配慮をいただきまして、泌尿器科と緩和ケア科で研修させていただき各科の先生方、スタッフの皆様には大変お世話になりました。

泌尿器科では緊急手術が必要な症例から癌末期の症例まで様々な病態の方をみることができ、手術も様々な術式を経験できました。特にこれまで尿路結石に対する治療の手術をみる機会がありませんでしたがこの1ヶ月で数例経験することができ、初めて見る手術器具も多数ありとても興味深かったです。また膀胱鏡の操作方法についてご指導をいただいたり、どのような思考のプロセスで診療にあたっているか丁寧にご教授くださり多くのことを経験させていただきました。透

析診療では透析管理や機械の仕組みなど実際に目で見ることができ貴重な機会となりました。

緩和ケア科では癌患者さんの症状緩和はもちろんのこと、緩和ケアカンファレンスを通じて在宅診療、訪問看護と連携する流れを知ることができました。主科が泌尿器科で緩和ケア科の介入がある症例もあり、多角的に患者さんの状態をみることができ貴重な経験でした。またリエゾン回診や認知症ケアカンファレンスへの参加の機会もあり、せん妄や認知症、そのほか精神疾患についてのアプローチ方法を学ぶことができました。特にせん妄はどの病棟でも起こりうることで出現時の対応も必要ですが、予防していくことの重要性を改めて実感しました。

生活面では病院近くに家具が揃った宿舎をご用意いただき、周囲にはイオン等のお店もあり不自由なく過ごすことができました。また今回リモートという形式ではありますが私自身入職後初めての忘年会にも参加させていただきました。圧巻のパフォーマンスも拝見し年の瀬の雰囲気を楽しむことができました。

振り返ってみると基幹病院では経験できなかったことを数多く学ぶことができ、大変充実した1ヶ月間となりました。先生方をはじめ、スタッフの皆様には、多大なお気遣いをいただきまして心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。今回の学びを糧にこれからも日々精進して参ります。

スに参加させていただき、たくさんのオペにも入らせていただきました。先生方もとても親切に指導してくださり、とても有意義な研修生活を送ることができました。おかげでもうすぐ始まる整形外科人生の良いスタートを切れそうな気がします。和田先生をはじめ整形外科の先生方、本当に有難うございました。唯一、先生方と食事に行くことができなかったことが心残りです。将来的に、関連病院でもありますので、機会があればリベンジしに帰ってきたいと思います。その時は何卒宜しくお願い致します。

最後になりましたが、お世話になりました先生方・スタッフの皆様には深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

地域医療研修を終えて

令和4年2月2日～2月25日
済生会富田林病院 研修医 清本 誠貴

1ヶ月間という短い期間でしたが、コロナ禍といった難しい状況にも関わらず、地域医療研修をさせていただき誠に有難うございました。やっと落ち着いてきたと思っていたCOVID-19も再燃し、いつ北海道行きの切符が剥奪されるのかと肝を冷やしておりましたが、受け入れていただき本当に感謝しております。

北海道初日に雪の中15分歩いて行った居酒屋がまん防でその一帯全て店じまいしていて肩を落としながら雪道を再び15分かけて歩いて帰ったり、観測史上最大の大雪が降り交通網が破綻したりと、思うように観光や食事に行くことができませんでしたが、それもまたいい思い出でしょう。院内のスタッフの皆様の親切心に触れ、限られた時間の中で有意義な時間を過ごすことができました。

4月から整形外科として働くため、整形外科を選択させていただきましたが、とても医療レベルが高く、非常に勉強になりました。毎日朝からのカンファレン

論文発表

執筆者・共同執筆者	タイトル	掲載誌	巻・号・項	発行年月
Emori M Takashima H Iba K Sonoda T Oda T Hasegawa T Yamashita T	Differential diagnosis of fibroma of tendon sheath and giant cell tumor of tendon sheath in the finger using signal intensity on T2 magnetic resonance imaging	Acta Radiol	62; 1632-1638	令和3年
清水 淳也 織田 崇 山本 雅樹 家里 典幸 藤本秀太郎 山下 敏彦	アトピー性皮膚炎罹患児に発生した化膿性脊椎炎の2例	整・災外	64: 1465-1470	令和3年
織田 崇 和田 卓郎	手と手関節のスポーツ外傷の治療	北整災外誌	62: 129-135	令和3年
織田 崇 和田 卓郎	肘関節内病変へのアプローチ	MB Orthop	34: 93-99	令和3年
織田 崇 和田 卓郎	上腕骨内側上顆炎	日手会誌	38: 212-218	令和3年
白戸 力弥 山中 佑香 織田 崇 野坂 利也 小島 希望 和田 卓郎	前腕切断に対する筋電義手のソケット適合性向上のための一工夫	日ハ会誌	13: 61-65	令和3年
五嶋 涉 織田 崇 山中 佑香 白戸 力弥 小島 希望 和田 卓郎	橈骨遠位端骨折術後の患側手の満足度に影響を与える因子の検討	日手会誌	38: 434-437	令和3年
小島 希望 白戸 力弥 山中 佑香 五嶋 涉 織田 崇 和田 卓郎	母指CM関節症に対する関節形成術の満足度に関連する要因の検討	日手会誌	38: 610-613	令和3年
孫 誠一 木村 雅美 長谷川 格 田山 誠 竹政伊知朗	腹腔鏡下胆嚢摘出術後8年目に診断した落下結石による腹腔内膿瘍に対して腹腔鏡下膿瘍ドレナージを施行した1例	北海道外科雑誌	66(2) 10-43	令和3年 12月

著書

著者	タイトル	著書名	編者	ページ	発行年	出版社
織田 崇 和田卓郎	肘の関節症・炎症性疾患： 変形性肘関節症.	手・肘の外科 診断と治療のすべて	岩崎倫政	276-280	令和3年	メジカルビュー社
織田 崇 和田卓郎	肘の関節症・炎症性疾患： 上腕骨外側上顆炎	手・肘の外科 診断と治療のすべて	岩崎倫政	281-284	令和3年	メジカルビュー社
織田 崇 和田卓郎	肘の関節症・炎症性疾患： 上腕骨内側上顆炎	手・肘の外科 診断と治療のすべて	岩崎倫政	285-288	令和3年	メジカルビュー社
織田 崇 和田卓郎	滑膜ヒダ障害	手・肘の外科 診断と治療のすべて	岩崎倫政	08-311	令和3年	メジカルビュー社

学会・研究発表

部署名 (発表者)	演題名	発表者	共同発表者	学会名	発表年月日	場所(市町村)
栄養管理室	慢性閉塞性肺疾患患者における体格指数と日常生活活動の関連	一島妃東美	若林 秀隆 西岡 心大	第36回臨床栄養代謝学会学術集会	令和3年 7月21日 ～7月22日	ハイブリッド
看護部	急性増悪した筋萎縮性側索硬化症：ALS疑い患者の意思決定支援～CNSの倫理調整を振り返る～	高井奈津子	宮崎 博士 高山 望 樋口 秋緒	第15回日本慢性看護学会学術集会	令和3年 8月28日 ～9月17日	Web開催
診療部	尿道への異物挿入を繰り返した一例	堀田 浩貴	安達 秀樹 新海 信雄	第86回日本泌尿器科学会東部総会	令和3年 9月3日	札幌市
診療部	ギラン・バレー症候群と類似した経過の多発神経障害を呈した1例	河田 由香	藤倉 舞 松谷 学	第108回日本神経学会北海道地方会	令和3年 9月18日	オンライン開催
診療部	橈骨遠位端骨折の2次骨折予防	織田 崇		第4回全国済生会整形外科研究会	令和3年 10月2日	Web開催
薬剤室	敗血症から急性腎障害を発症した患者のトロンボモデュリンα製剤通常・減量投与における効果と副作用の検討	一野 勇太	鈴木 景就 上野 誠子	第15回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2021	令和3年 11月10日 ～11月25日 (オンデマンド配信)	WEB
臨床検査部	当院でのSARS-CoV-2検査にIDNOWを使用してみた	小林 拓真		第28回小樽会員研究発表会	令和3年 11月26日	小樽市
診療部	総胆管結石切開・縫合／総胆管切開後結石除去	木村 雅美 (コメンテーター)		第10回腹腔鏡下胆道手術研究会	令和4年 1月15日	web開催
栄養管理室	二次医療圏を越えて栄養情報連携に向けた当院での栄養管理情報提供書発行の取り組み	一島妃東美	權城 泉 小貫留美子	第24回・第25回日本病態栄養学会年次学術集会	令和4年 1月28日 ～1月30日	ハイブリッド
診療部	予後良好であった高齢者てんかん重積の1例	河田 由香	藤倉 舞 松谷 学	第109回日本神経学会北海道地方会	令和4年 3月5日	オンライン開催
診療部	手根管症候群に対するWALANTの検討ー患者、医療機関、社会の立場からー(パネルディスカッション)	織田 崇	和田卓郎	第36回東日本手外科研究会	令和4年 3月5日	茨城県つくば市

講 義

講師	講義テーマ	講義名	講義先	年月日	場所
明石 浩史	バイオインフォマティクス	応用医療情報科学	札幌医科大学医学部 医学科4年	令和3年4月6日	札幌市
多田 梨保	当院の栄養管理について	済生会小樽病院看護部新人研修	済生会小樽病院看護部	令和3年4月8日	小樽市
明石 浩史	情報倫理とリスク	応用医療情報科学	札幌医科大学医学部 医学科4年	令和3年4月20日	札幌市
明石 浩史	医療情報の標準化	応用医療情報科学	札幌医科大学医学部 医学科4年	令和3年4月27日	札幌市
安達 秀樹	人体のしくみと働き 腎尿路系 成人看護Ⅲ 腎泌尿器疾患	看護学授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	令和3年5月10日 ～7月5日 9回	小樽市
多田 梨保	病院における管理栄養士の役割	実習オリエンテーション	小樽市医師会 看護高等専修学校	令和3年5月12日	小樽市
織田 崇	作業療法治療学特論－手の外科療法 と画像診断	リハビリテーション学	日本医療大学	令和3年6月3日	札幌市
高井奈津子	慢性呼吸機能障害 生活に合わせた療養支援	成人看護学特論Ⅱ	北海道医療大学大学院 看護福祉研究科	令和3年7月8日	Web
権城 泉	栄養食事療法	栄養学授業	小樽看護専門学校	令和3年7月14日	小樽市
権城 泉	栄養食事療法	栄養学授業	小樽看護専門学校	令和3年7月21日	小樽市
権城 泉	栄養食事療法	栄養学授業	小樽看護専門学校	令和3年7月28日	小樽市
権城 泉	栄養食事療法	栄養学授業	小樽看護専門学校	令和3年8月4日	小樽市
権城 泉	栄養食事療法	栄養学授業	小樽看護専門学校	令和3年8月11日	小樽市
権城 泉	栄養食事療法	栄養学授業	小樽看護専門学校	令和3年8月18日	小樽市
藤原 大地	緩和ケア概論	成人看護学方法論Ⅳ	美専学園 北海道医薬専門学校	令和3年9月6日 令和3年9月13日	札幌市
安達 秀樹	疾病論Ⅳ 腎泌尿器	看護学授業	小樽看護専門学校	令和3年8月17日 ～9月16日 6回	小樽市
浅田 孝章	腎泌尿器疾患患者の看護	成人看護学授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	令和3年9月14日 令和3年9月21日	小樽市
松谷 学	不随意運動・けいれん	症候診断学	札幌医科大学医学部	令和3年9月27日	札幌市 (オンライン 併用)
多田 梨保	経腸栄養と静脈栄養について	臨床栄養学実習Ⅲ	天使大学	令和3年10月1日 オンライン	札幌
多田 梨保	病院における管理栄養士の役割	2021小樽看護臨地実習オリエンテーション	小樽看護専門学校	令和3年10月18日	小樽市
河田 由香 松谷 学	院内急変時対応	看護部教育	済生会小樽病院	令和3年10月21日	小樽市
松谷 学	成人看護学	看護学授業	小樽看護専門学校	令和3年11月4日 11月18日 11月25日	小樽市 (オンライン 併用)
菊地未紗子	がん医療におけるコミュニケーション	緩和ケア	小樽市立病院	令和3年11月13日	小樽市
兒玉真夕美	血液・造血器疾患患者の看護	成人看護Ⅱ授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	令和3年11月22日 令和3年11月29日	小樽市
兒玉真夕美	アレルギー・膠原病疾患患者の看護	成人看護Ⅲ授業	小樽市医師会 看護高等専修学校	令和3年12月6日 令和3年12月13日	小樽市
菊地未紗子	がん医療におけるコミュニケーション	緩和ケア	斗南病院	令和4年1月30日	札幌市
多田 梨保	病院における管理栄養士の役割	基礎看護学実習Ⅰ	北海道科学大学	令和4年1月31日	小樽市

講演

演者	演題	講演会名	主催者	年月日	場所
笠井 一憲	輸液の処方変更にかかわった一症例	大塚製薬工場社内研修会	大塚製薬工場	令和3年 6月2日	小樽市 (Web)
織田 崇	上腕骨内側上顆炎一病態と治療の要点ー	北海道合同整形外科研修会	北海道整形外科勤務医会	令和3年 10月30日	札幌市
多田 梨保	骨粗鬆症を予防する食生活	地域版介護予防教室	南部包括支援センター	令和3年 12月3日	小樽市
多田 梨保	骨粗鬆症を予防する食生活	地域版介護予防教室	南部包括支援センター	令和3年 12月8日	小樽市
多田 梨保	骨粗鬆症を予防する食生活	地域版介護予防教室	南部包括支援センター	令和3年 12月23日	小樽市
明石 浩史	肝疾患に伴う皮膚掻痒症の治療 肝がん患者のかゆみに対するナルフィラ フィン塩酸塩投与を中心に	北海道肝疾患WEBセミナー	大日本住友住友製薬(株)	令和4年 2月22日	札幌市 WEBセミナー

座長

座長	学会・講演名	座長を行った演題	主催者	年月日	場所
和田 卓郎	JOSKAS/JOSSM meeting 2021	シンポジウム7 肘関節鏡視下治療のevolution	JOSKAS JOSSM	令和3年6月17日	札幌市 オンライン 開催
水越 常德	小樽市医師会学術講演会 ～心不全連携懇話会in Otaru～	心不全地域医療と診療報酬について	小樽市医師会	令和3年7月15日	小樽市
高田美喜生	小樽市医師会学術講演会 ～心不全連携懇話会in Otaru～	インターベーションについて ～循環器専門医から非専門医の 先生方へ～	小樽市医師会	令和3年7月15日	小樽市
水越 常德	第5回小樽健康寿命延伸フォーラム	ステロイド性骨粗鬆症の治療	小樽健康寿命 フォーラム 大正製薬株式会社	令和3年11月8日	小樽市
木谷 洋介	小樽地区会員研究発表会	コロナ関連3題	小樽臨床検査技師会	令和3年11月26日	小樽市
水越 常德	Otaru Diabetes Meeting	看護ケアを可視化する ～摂食嚥下機能を見直して～	小樽市医師会	令和3年12月2日	小樽市
菊地未紗子	緩和医療講演会	がんの患者さんと長ーく 付き合う緩和ケア	第一三共株式会社	令和4年2月10日	ZOOM配信
菊地未紗子 (司 会)	せん妄と睡眠障害WEBセミナー	せん妄のハイリスクを考慮した 不眠への対応 ～せん妄と不眠の鑑別に配慮 した薬剤選択について～	エーザイ株式会社	令和4年3月5日	WEB 配信
菊地未紗子	アドバンス・ケア・プランニ ングを考える会	統合失調症を併発する人のア ドバンス・ケア・プランニ ング～剤型選択における意思決 定と同意能力について～	大日本住友製薬 株式会社	令和4年3月10日	オンラ イン
林 貴士	Parkinson's disease WEB講演会	貴重講演 パーキンソン病患者の疼痛に 対するsafinamideの使用経験 特別講演 パーキンソン病の治療～実臨 床におけるサフィナミドの有 効性・安全性～	エーザイ株式会社	令和4年3月15日	WEB 配信
明石 浩史	日本専門医機構認定共通講習 倫理研修	個人と共同体-私たちの高齢者 像の再考	済生会小樽病院 倫理委員会人材 開発センター	令和4年3月11日	小樽市

認定資格

	名前	認定学会名	評議員
診療部	近藤 真章	日本整形外科学会	専門医・認定脊椎脊髄病医・認定スポーツ医・リウマチ医
		日本スポーツ協会	公認スポーツドクター
		日本医師会	認定産業医
	和田 卓郎	日本整形外科学会	専門医
		日本手外科学会	専門医
		日本体育協会	スポーツドクター
	水越 常德	日本内科学会	総合内科専門医・認定医・指導医
		日本内分泌学会	指導医・専門医
		日本甲状腺学会	専門医
		日本消化器病学会	専門医
		日本環境感染学会	インфекションコントロールドクター
		日本人間ドック学会	認定医
		日本医師会	認定産業医
	明石 浩史	日本内科学会	総合内科専門医・認定医
		日本消化器病学会	専門医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本消化器内視鏡学会	専門医
	舩谷 治郎	日本内科学会	認定内科医
		日本消化器内視鏡学会	専門医
	高田美喜生	日本病院会	病院総合医
	松谷 学	日本神経学会	指導医、専門医
		日本内科学会	認定内科医・指導医・総合内科専門医
			臨床研修医制度プログラム責任者 養成講習会終了
		日本認知症学会	専門医・指導医
		厚生労働省	厚生労働省指定オンライン診療研修終了
		図書館法第6条規定	司書講習修了
	林 貴士	日本神経学会	専門医
		日本内科学会	認定内科医・総合内科専門医・指導医
			認知症サポート医
	藤倉 舞	日本神経学会	専門医
		日本内科学会	認定内科医
		日本認知症学会	指導医・専門医
	平野理都子	日本神経学会	専門医
	木村 雅美	日本外科学会	指導医・専門医
		日本消化器外科学会	指導医・専門医・消化器がん外科治療認定医
		日本内視鏡外科学会	技術認定取得者
		日本消化器病学会	専門医・指導医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本乳がん検診精度管理中央委員会	検診マンモグラフィ認定医
			難病指導医
	孫 誠一	日本消化器病学会	指導医・専門医
		日本外科学会	指導医・専門医・認定医
		日本消化器外科学会	指導医・専門医・消化器がん外科治療認定医
		日本乳がん検診精度管理中央委員会	検診マンモグラフィ読影認定医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医・暫定教育医
	田山 誠	日本外科学会	専門医
	織田 崇	日本整形外科学会	専門医・脊椎脊髄病医
		日本手外科学会	専門医・指導医
		日本骨粗鬆学会	認定医

診療部	藤本秀太郎	日本整形外科学会	専門医
	堀田 浩貴	日本泌尿器科学会	専門医・指導医
		I C D制度協議会	インфекションコントロールドクター
		日本性機能学会	専門医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本医師会	認定産業医
		日本化学療法学会	抗菌化学療法認定医
	安達 秀樹	日本泌尿器科学会	指導医・専門医
		日本性機能学会	専門医
	新海 信雄	日本泌尿器科学会	指導医・専門医・泌尿器腹腔鏡技術認定医
		日本がん治療認定医機構	がん治療認定医
		日本内視鏡外科学会	泌尿器腹腔鏡技術認定医
	菊池未紗子	日本精神神経学会	指導医、専門医
			精神保健指定医
看護部	大橋とも子	日本消化器内視鏡技師会	内視鏡技師
		北海道病院協会・全日本病院協会	医療安全管理者
	金澤ひかり	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	伊藤 瑞代	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	兒玉真夕美	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	高井奈津子	日本看護協会	慢性疾患看護専門看護師
		日本NP教育大学院協議会	診療看護師 (NP) (プライマリ・ケア)
			13特定行為区分 21行為 ・呼吸器(気道確保に係る者) ・呼吸器(長期呼吸療法もの)関連 ・ろう孔管理関連 ・栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理) ・栄養に係るカテーテル管理(抹消留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連 ・創傷管理関連 ・動脈血液ガス分析関連 ・栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ・感染に係る薬剤投与関連 ・血糖コントロールに係る薬剤投与関連 ・循環動態に係る薬剤投与関連 ・精神及び神経症状に係る薬剤投与関連 ・皮膚損傷に係る薬剤投与関連
	石渡 明子	日本緩和医療学会	ELNEC-J指導者
		日本看護協会	緩和ケア認定看護師
		北海道看護協会	災害支援ナース
			看護師特定行為(栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連・循環動態に係る薬剤投与関連・精神及び神経症状に係る薬剤投与関連)
	仙保 知子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
	中山 祐子	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
	瀬川 信子	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	藤田真由美	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	菊地麻衣子	日本消化器内視鏡学会	消化器内視鏡技師
	根布 実穂	日本看護協会	皮膚・排泄ケア認定看護師
			看護師特定行為(栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連・創傷管理関連)
	早川恵美子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
	藤原 大地	日本緩和医療学会	ELNEC-Jコアカリキュラム指導者
		看護協会	災害支援ナース
	五嶋 佳奈	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
対策室	澤 裕美		感染抑制実践看護師

薬剤室	上野 誠子	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
		都道府県知事	介護支援専門員
	鈴木 景就	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師
		日本病院薬剤師会	認定指導薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
		日本緩和医療薬学会	麻薬教育認定薬剤師
	小野 徹	日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師
		日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師
		日本病院薬剤師会	日病薬病院薬学認定薬剤師
	一野 勇太	日本腎臓病薬物療法学会	腎臓病薬物療法認定薬剤師
	笠井 一憲	日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師・研修認定薬剤師
		日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		都道府県知事	介護支援専門員
		日本病院薬剤師会	認定指導薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
		日本食品安全協会	健康食品管理士
		日本腎臓病薬物療法学会	腎臓病薬物療法単位履修修了薬剤師
		日本薬剤師会	JPALS 認定薬剤師
		主催：熱中症予防声かけプロジェクト ／後援：環境省	熱中症対策アドバイザー
	村川麻里子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師
	青木有希子	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本くすりと糖尿病学会	糖尿病薬物療法准認定薬剤師
	中村 圭介	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本アンチドーピング機構	公認スポーツファーマシスト
		日本老年薬学会	老年薬学認定薬剤師
		日本病院薬剤師会	日本病院薬剤師会認定指導薬剤師
	芦名 正生	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
		日本臨床腫瘍薬学会	外来がん治療認定薬剤師
	佐渡 望	日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師
検査室 臨床	岡本 晃光	日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
放射線室	松尾 覚志	医療情報学会	医療情技師
		科学技術庁	第一種放射線取扱主任者
		日本 X 線専門技師認定機構	X 線 C T 認定技師
	舟見 基	日本 X 線専門技師認定機構	X 線 C T 認定技師
		日本放射線技師会	放射線管理士・放射線機器管理士
	久保田裕美	日本乳がん検診制度管理中央機構	検診マンモグラフィー撮影認定技師
	高橋 志織	日本 X 線専門技師認定機構	X 線 C T 認定技師
		日本乳がん検診制度管理中央機構	検診マンモグラフィー撮影認定技師
リハビリテーション室	髭内 紀幸	日本理学療法士協会	運動器認定理学療法士
		3 学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
		日本認知症ケア学会	認知症ケア専門士
		国際統合リハビリテーション協会	I L P T プラクティショナー
	三崎 一彦	日本作業療法士協会	認定作業療法士
		テクノエイド協会	福祉用具プランナー
	米田健太郎	3 学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士

テ リ ハ ビ リ 室	花田 健	日本理学療法士協会	運動器認定理学療法士
	廣田 正和	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
	髭内 朝美	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会	呼吸療法認定士
栄 養 管 理 室	多田 梨保	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本病態栄養学会	病態栄養認定管理栄養士
		日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
		日本栄養経営実践協会	日本栄養経営士
	権城 泉	日本静脈経腸栄養学会	N S T 専門療法士
		日本糖尿病療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士
		日本人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士
		病態栄養認定管理栄養士	日本病態栄養学会
		日本病態栄養学会	病態栄養専門(認定)管理栄養士・がん病態栄養専門管理栄養士
	一島妃東美	日本栄養士会	静脈経腸栄養(TNT-D)管理栄養士
		日本臨床栄養代謝学会	栄養サポートチーム(NST)専門療法士
		日本病態栄養学会	病態栄養専門管理栄養士
		日本臨床栄養代謝学会	周術期・救急集中治療専門療法士
臨 床 工 学 室	笹山 貴司	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
		北海道病院協会	医療安全管理者
		日本医療メディエーター協会	認定医療メディエーター
	横道 宏幸	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
		胸部外科・呼吸器・麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士
	奥嶋 一允	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
	吉田 昌也	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
		日本胸部・呼吸・麻酔科学会	3学会合同呼吸療法認定士
	今野 義大	日本医療機器学会	第2種滅菌技士
		北海道労働基準協会連合会	特定化学物質・四アルキル鉛等作業責任者
		日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
	中村 友洋	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
		透析療法合同専門委員会	透析技術認定士
	服部 淳貴	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
	山内 揚介	厚生労働省	北海道DMAT
	及川 尚也	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定
	中野裕城子	日本生体医工学会	第2種ME技術実力検定

V 職員福利厚生会

■ 総 括

【総 括】

職員福利厚生会は、職員の福利厚生の増進と職員相互の親睦を図ることを目的に平成15年4月に設立されました。小樽潮まつりでの練りこみ参加やクラブ活動補助など様々な活動を行っていましたが、令和3年度も前年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で屋外イベントや集合イベントが中止となりました。その中で職員より要望が多かったZoomを使った忘年会を今年も実施しました。昨年とは違った何か楽しいイベントを作りたいと考案したのが、陸上部による「Zoomで運河マラソン」です。スマホを持った陸上部ランナーが小樽駅より済生会小樽病院まで2.5kmのマラソンコースをZoom中継するもの。途中小樽運河やオルゴール堂など、観光地としてなじみ深い地点でインタビューなどを受けながらゴールしました。もちろん職員の永年勤続表彰やお楽しみ抽選会などもZoomで実施。コロナの対応で普段神経を高めて医療にあたる職員につかの間の楽しみを提供することができました。

このほか職員福利厚生会では職員に対し、医療見舞金制度やクラブ活動助成金などを行っており充実した福利厚生を提供しております。

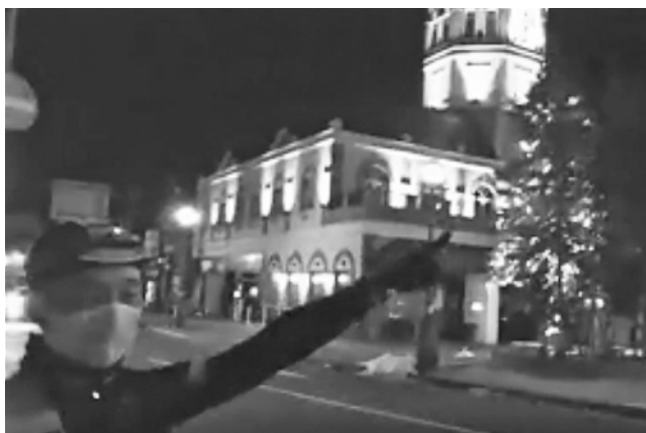
【クラブ活動】

- ・野球部
- ・フットサル部
- ・釣り部
- ・自転車・陸上競技部

文責 職員福利厚生会総務理事 清水 雅成



おたのしみ抽選会での事務部長と看護部長



マラソン



乾杯！

部 活 動

野 球 部

【メンバー】

看護師 1 名
薬剤師 1 名
臨床工学技士 1 名
放射線技師 2 名
理学療法士 8 名
言語聴覚士 1 名

【活動内容・報告・成績等】

大会参加は感染状況を考慮し参加辞退しました。

活動としては、感染状況が落ち着いた際に一度全体練習を実施したことと、バッティングセンターにて各自練習という形に留まりました。

【野球部よりひとこと】

今年度は新型コロナウイルス蔓延の影響により、大会参加を辞退せざる負えない状況となりました。コロナの外出自粛もあり部員の体力、筋力低下が危惧される中、練習を実施しました。ケガなく終えることができましたが、体力低下を実感しております。来年度は活動できることを期待して各自運動することとして1年を終えております。

今年度より中田がキャプテンとしてチームを指揮する予定でしたが、大会辞退の連絡係に留まっており、来年度の大暴れに期待したいところであります。写真は野球したい欲を抑えきれない時に撮影したものです。

文責 リハビリテーション室 中田 和希



フットサル部

【メンバー】

リハビリテーション室 8 名
看護部 3 名
(計 11 名)

【活動内容・報告・成績等】

昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大や、それに伴う体育館の貸し出し中止、例年参加していたフットサル施設の大会中止などもあり 1 年を通して活動は行っておりませんでした。

【フットサル部よりひとこと】

フットサル部は昨今の感染拡大状況と、部員数の減少などから、来年度以降は休部とさせていただくことになりました。以前参加していた大会等も中止が増え、また他病院との合同試合なども企画段階から滞ってしまうなど満足な活動内容を実施できませんでした。休部という形ですので、今後また活動再開できることを期待したいと思います。支援、応援等ありがとうございました。

文責 リハビリテーション室 阿部 健太郎



※写真は令和元年のものです

釣 り 部

【メンバー】

リハビリテーション室15名
(計15名)

【活動内容・報告・成績等】

令和3年4月5日	神恵内ショアサクラマスジギング	1名
令和3年4月10日	積丹オフショアサクラマスジギング	少数名
令和3年4月12日	積丹ショアサクラマスジギング	少数名
令和3年4月29日	小樽港内 ロックフィッシング	少数名
令和3年5月22日	小樽ショアサクラマスジギング	少数名
令和3年6月8日	豊浦オフショアヒラメ釣り	少数名
令和3年6月22日	積丹オフショアブリジギング	少数名
令和3年7月4日	小樽ロックフィッシング	少数名
令和3年7月23日	函館沖堤防	少数名
令和3年7月24日	青森沖マダイ釣り	少数名
令和3年8月6日	積丹マグロキャストイング	少数名

令和3年8月21日	小樽シャコ釣り	少数名
令和3年8月27日	小樽シャコ釣り	少数名
令和3年8月31日	赤井川フライフィッシング	少数名
令和3年9月23日	室蘭ボートロックフィッシング	少数名
令和3年10月3日	小樽港内イカ釣り	少数名
令和3年11月5日	小樽港内イカ釣り	少数名
令和3年11月7日	第3回済生会カップin室蘭沖堤防	18名
令和3年11月15日	小樽港内イカ釣り	少数名
令和3年11月21日	根室ボートロックフィッシング	少数名
令和4年1月10日	石狩ワカサギ釣り	少数名
令和4年2月12日	恵山サクラマスジギング	少数名

部員の森國さやかさんが引き続き令和2年1月より、週間釣り新聞ほっかいどう「つりしん」にて“tsurikatsu”というページで、月1回の執筆をしています。

【釣り部よりひとこと】

昨年度に引き続き、新型コロナウィルスの影響により、少人数または個人単位での釣りがメインとなりました。しかしながら、感染が落ち着いたタイミングで、第3回済生会カップを開催し、密のない屋外環境でのびのびと活動することができました。久々の大会ということで、いくつかのメーカーからの協賛やプロスタッフの参加もあり、非常に盛り上がることができました。新型コロナウィルスの状況次第ですが、今後も細々と大会を開催していけると、より一層おもしろい部活になるのではないかと考えています。

今年度は、サクラマスから始まり、アイナメ、カレイ、ソイ、ブリ、マグロ、イカなど他魚種を釣ることができました。また、名誉院長が食べたいと常々おっしゃっていましたマグロも無事にキャッチすることができ、釣り部の夢をひとつ叶えることができました。

密を避けるアウトドア、釣りブームになっている昨今ですが、新鮮な海産物をゲットし、「家で調理し、一杯やりながら、おいしく食べる」ことがこの上ない楽しみになり、このコロナウィルス蔓延する情勢には必要なのではないかと思います。大量に釣ったお魚を、おいしく食べて頂ける人がいましたら、声をかけて頂けると、旬な釣りものを分けることができますので、お声掛けください。「もういらない」って言ってもらえるくらい差し上げます。

文責 リハビリテーション室 小島 希望



自転車・陸上競技部

【メンバー】

理学療法士 7名

作業療法士 2名

【活動内容・報告・成績等】

令和3年度は自転車、ランニングともに大会中止が相次ぎ、昨年度と同様に各々の個人練習が主となりました。来年度には感染状況が落ち着くことを願い、病院名を記載したアームカバーを有志で作製しました。

(画像参照)

【自転車・陸上競技部よりひとこと】

来年度はいくつかの大会開催が予想されており、十分な感染対策をしての出場・参加をしていきたいと考えています。それぞれの競技では感染面に配慮したルール変更などが確認されており、本部活動では屋外競技のニューノーマル化を目指していきます。

部員には部活動ユニフォームのいずれかを着ての出場を促しています。奇抜なカラーリングですので、もし見かけたら温かいお声掛けをお願いします。

文責 リハビリテーション室 神田 充博



写 真 部

【メンバー】

看護師 1 名

薬剤師 1 名

作業療法士 1 名

社会福祉士 1 名

OB 2 名

【活動内容・報告・成績等】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の活動・撮影会は休止としております。

【写真部よりひとこと】

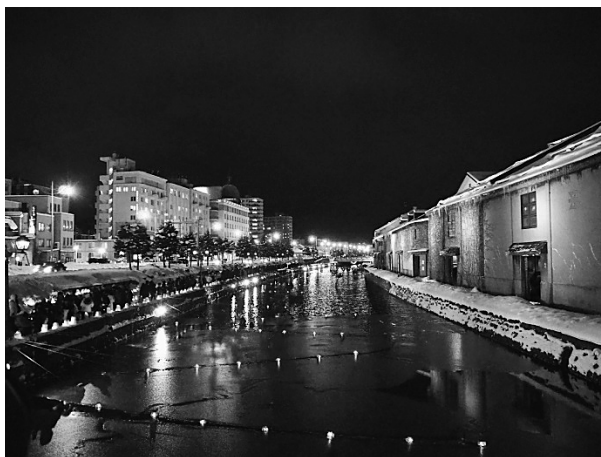
今年度は新型コロナウイルスが猛威を振るい、積極的な活動や撮影会は休止と致しました。

例年であれば四季折々の行事や旅先での思い出をシャッターに収め、各々の成果を共有あし合う…との一年になるはずなのですが、残念でなりません。

こうして動けない期間には、まず身近な感染対策や、機材メンテナンス・写真技術向上のさらなる勉強から。地固めをしっかりと行い、感染収束後は行事やイベントにも足を運び、写真部として本領発揮していければと考えています。

写真は表情豊かな小樽運河の風景です。コロナに負けず、頑張ろう小樽！

文責 地域連携課 佐藤 愛友



院内保育所「なでしこキッズクラブ」

職員の福利厚生の一環とし、子育て支援の充実を図っています。内装並びに備品等も子どもたちの安全面を配慮した施設になっています。一時保育も柔軟に対応でき、安心して働きやすい環境づくりに努めています。

所 長	和田 卓郎（病院長）
スタッフ	12名（保育士5名 看護師1名 保育補助6名）
保育所面積	222.64㎡
定 員	40名
保育対象年齢	0歳～小学校就学前
開所時間	8時～19時（月～金曜日、第2土曜日（祝日・病院休日を除く））

【年間行事実績】

8月 夏祭り
10月 ハロウィン
12月 クリスマス会
1月 お楽しみ発表会
2月 豆まき
3月 お別れ・進級おめでとう会・お買い物ごっこ
☆お誕生会、避難訓練、身体測定を毎月実施

【今後の目標】

保育目標「いっぱい遊んですくすく育て～心もからだもたくましく育ちあう子ども」を心がけ、子どもたちが怪我なく元気に笑顔で過ごせるように心がけていきます。

コロナ禍の中で

保育士 浅野 孝子

なでしこキッズクラブでも、このコロナ禍でバタバタ落ち着かない日々を送っておりますが、0歳から幼稚園年長児までの子どもたちは「コロナなんかには負けないぞ!」と毎日元気に過ごしています。

幼稚園の子どもたちが小さな子どもたちを可愛がりあやす姿、小さな子どもたちがお兄さんお姉さんを慕う姿や真似して自分もちょっと大きくなった気分で遊んでいる姿を見ていると、私たちもホッコリ癒されます。

コロナが落ち着かず、保護者の皆様に子どもたちの保育所での様子をなかなかご覧いただくことができない状況ですが、1月に行ったお楽しみ発表会をビデオに撮り、配信してみなさんに視聴いただくことができました。子どもたちの保育所での普段の姿をご覧いただけたかと思います。

これからも、子どもたちの様子を色々な方法でお伝えできるよう、考えていきたいと思います。また普段の子どもたちのちょっとしたしぐさや言動、行動をお伝えしていきながら、保護者の皆さんと共に子どもたちの成長を喜びと笑いで見守っていけるよう努めていきたいと思います。

そして何より早くコロナが終息し、本来の生活に戻れるよう祈っています。



庭で水遊び



ハロウィン



クリスマス会 サンタとトナカイが来たよ



お楽しみ発表会

息子の成長

3B病棟 森地 有希

私の仕事復帰に伴い、息子が1歳を迎えた頃から保育所を利用させてもらっています。

元々人見知りの少ない息子は、通い始めた時から現在に至るまで保育所に行くことを拒むことなく、到着するなり目をキラキラに輝かせ毎日私を置き去りでお友達の輪の中に入っていきます。また年上の子達が積極的にお世話してくれる姿をよく目にするので、日中離れて過ごすことに不安はありませんでしたが、何でも興味津々で常に動き回り手に取りたい息子は、輪を乱さず仲良く馴染めているのかと心配はありました。ですが集団生活の中で色々なことを学び覚えてくる姿をみて、今では安心して預けさせてもらっています。

ここ数年はコロナ禍で制限が多い世の中ですが、状況に応じながら開催してくれる保育所行事は経験の少ない息子に自信や達成感を与えてくれるとても貴重な時間になっているため本当にありがたいです。まだまだ言葉数の少ない息子ですが、最近はお迎えに行くと「マママママア〜！」と元気に走ってきて、笑顔で抱きついてくれます。全身で様々な気持ちを表現してく

れるのも、日中お友達や先生からたくさんの刺激を受け成長しているお陰だと感じ感謝の気持ちでいっぱいになります。息子らしくのびのびと育つ姿は私の癒しであり活力です。帰宅後は連絡帳を見ることが楽しみの一つです。仕事をしている限り子供と接する時間は減ってしまいますが、毎日の様子や、できたことなど、細かく教えてくださるため日々の様子を知ることができ安心しますし、成長を身近に感じられます。そして子供の成長に悩みの多い私ですが、先生方はいつも親身になって話を聞いてくれアドバイスをくださいます。仕事・家事・育児と両立するのが苦手で慌ただしい毎日ですが、理解ある職場や安心して預けられる保育所があることで、息子も私も日々を充実して過ごすことができているのです。この環境に感謝しながらこれからも母親として、看護師として、息子と一緒に成長していけるよう頑張っていきたいと思います。



同じ色の車の
おもちゃを並べたよ〜

なでしこキッズクラブに通い始めて

薬剤室 中村 圭介

妻の職場への復帰と共に、息子がなでしこキッズクラブへ通い始めることとなりました。一歳になったばかりの息子は、コロナの影響であまり外に出たこともなく突然の環境の変化に驚いているように見えました。親から離れるということも少なかったためはじめは泣いていることも多かったようですが、先生や年上の子たちが手を引いてみんなのところへ連れて行ってくれたり、おもちゃを持ってきてくれる子もいて次第に楽しんで通ってくれるようになったと感じております。また、息子は歌が好きなようで教えてもらった歌をうまく歌詞は言えないながらも毎日繰り返し口ずさんでおり、日々色々と成長を実感させられています。

通い始めはちょうど夏風邪が流行っていたこともあり、息子も例にもれず40℃の発熱の洗礼を受けていました。我々夫婦にとっても子供の発熱は初めての経験であり、小児科への通院や機嫌が悪く寝付けない時の対応など学ばされるが多かったです。ただ、食

事だけはいつも完食しており、熱があっても関係ない様子でした。風邪が治ってから、先生からも「通常より早いですが、よく食べるので給食利用をしてみてはいかがでしょう？」と言われるほどでした。いつも足りないと言っていたようです…。

先生からの連絡ノートには「〇〇君と一緒に〇〇をして遊んでいました。」と書いてくださっていることもあり、他の子たちとも問題なく遊んでいるようでほっとしています。行くのが楽しみになっているためか、朝の準備も自分から率先してやるようになってきてくれるので通わせてよかったと実感しております。

今後も息子の成長を見守りながら、夫婦共々育児や仕事に奮起していきたいと思っています。



室内で遊ぶ息子

売店・食堂

ハマナスクラブ

病院棟 1階

営業時間

月～金：8：00～16：00

土日祝：8：00～13：30

食料品、日用雑貨、医療用品、その他季節限定商品など幅広く品揃えております。12月7日にヤマザキYショップより「ハマナスクラブ」に店舗が変更となりました。ハマナスクラブはセイコーマートの系列ですので、店内にはセイコーマート商品も陳列されました。



職員食堂

管理棟2階

営業時間 月～金曜日 11：00～14：00

全42席(コロナの為間引き)

管理棟2階にあります職員食堂では、日替わりランチから麺類、カレーなどたくさんの美味しいメニューをとり揃えております。コロナウイルス感染症の影響でテーブルのレイアウトを変更。会話等も自粛になったため、食堂内にBGMを流すようにしました。

文責 清水 雅成



あとがき

済生会小樽病院令和3年度版年報を、お読みいただきありがとうございます。

私は当院の年報に掲載されている各部署のエッセイが大好きです。部署報告の固い文章の後にある、思わずほっこりするような暖かいエッセイがとても大好きでたまりません。自分の家族のこと、趣味のこと、今号においては同棲についても書かれており、近況報告や、思わずほっこりするエピソードなど、年報を手にしたら真っ先にエピソードから読んでしまうほど大好きです。

また、エッセイは私にとって職員を覚える非常に重要なツールにもなっております。すっかりおじさんになった私は約500人もいる職員を覚えるのに、とても苦勞しております。特に新人さんは、COVID-19の影響で、全員がマスクをしていることもあり、みんな同じ顔、同じ髪型に見えてしょうがありません。しかし、エッセイを書いてくれた人は別です。この人は、あのエッセイを書いた〇〇さんだと記憶に焼きつき、名前を覚えるのに非常に役立っています。もちろん、2年前や3年前のエッセイでも鮮明に内容と名前が記憶に残っています。これは私だけでなく多くの職員が同じような経験をしているのではないかと思います。

ただ、エッセイに使われている顔写真なのですが、目が異様に大きく肌がツルツルしていて、とても可愛いのですが、この人は一体誰なのだろうという混乱が私の頭の中では起こっています。(苦笑)

整形外科織田診療部長の発案で始まったエッセイですが、当院の年報の特徴の一つになっていると思います。今後もずっと続いてくれることを願うとともに、皆様に末永く読んでいただきたいと思います。

今回、エッセイを書いていただいた皆様、部署・部門報告を書いていただいた皆様、そして執筆の依頼だけでなく催促のお願いなど、この年報の裏方として頑張っていただいた年報委員の皆様、いつも無理なお願いをして期日に間に合わせていただいている株式会社北診印刷の皆様、本当にありがとうございました。また、大変お疲れ様でした。

皆さまのご協力により、今年も素晴らしい年報が出来たと自負しております。

文責 医療技術部次長 松尾 覚志

済生会小樽病院年報
令和3年度(2021年度)

発行者 社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部北海道済生会小樽病院
病院長 和田 卓郎
〒047-0008 北海道小樽市築港10-1
TEL (0134) 25-4321 FAX (0134) 25-2888
ホームページ <http://www.saiseikai-otaru.jp/>

年報作成委員会

責任者 五十嵐浩司

委員長 蝦名 哲行

副委員長 松尾 覚志

委 員 平塚 渉、堀 博一、吉田真知子
佐野 舞、井上 晶子、菅原 充晴
石橋 慶悟、伝法 俊和、細松 有香
吉田 幸恵

印刷所 株式会社 北診印刷
TEL (011) 818-7770

